
木 更 津 市
高 齢 者 日 常 生 活 ニ ー ズ 調 査

報 告 書

平 成 2 6 年 （ 2 0 1 4 年 ） 3 月

木 更 津 市

目 次

I	調査概要	1
II	調査結果	4
1	調査票回答者及びあなたご自身のことについて	4
2	住環境について	10
3	健康状態について	12
4	介護予防について	14
5	今後の暮らしや住まいについて	17
6	市の高齢者福祉施策について	38
7	介護サービスについて	46
8	主な介護者について	59
III	日常生活圏域ニーズ調査の分析	68
1	総括	68
2	機能に関する分析結果	72
3	日常生活に関する分析結果	84
4	社会参加に関する分析結果	88
5	疾病に関する分析結果	92
6	主観的健康感に関する分析結果	96
7	介護に関する分析結果	98

(参考) 使用した調査票

I 調査概要

1 調査目的

木更津市では、高齢者保健福祉施策の方向性を示す「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」（第5期計画）に基づいて施策を進めています。

この計画が平成26年度に終了することに併せ、第6期計画の策定に向け、以下の3つの調査対象者に対して、高齢者等の日頃の生活の様子や健康状態、住環境、今後の暮らしや住まい、市の高齢者福祉施策等、また、要介護認定者に対しては、これに加えて、介護サービスの利用、主な介護者等について把握することを目的として実施しました。

2 調査対象者と配付・回収の状況

調 査 名	高齢者一般調査	介護予防意識調査	要介護・要支援認定者調査
調査対象者	65歳以上の2次予防事業の対象者でなく、要介護・要支援認定も受けていない市民	65歳以上の2次予防事業対象者である市民	65歳以上の要介護・要支援認定を受け、介護保険の居宅サービスを利用している市民、または、サービスを利用していない市民
抽出元及び抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出	2次予防事業対象者より無作為抽出	要介護・要支援認定情報及び介護給付状況を踏まえて、無作為抽出
母 数	65歳以上の高齢者 平成25年11月1日現在の32,431人より2次予防事業対象者、要介護・要支援認定者を除く、いわゆる元気な高齢者26,903人	2次予防事業対象者 平成24年度調査832人	65歳以上の要介護・要支援認定者 平成25年11月1日現在4,881人（65歳以上4,696人、65歳未満185人）のうち、居宅サービスの利用者またはサービス未利用者
配 付 数 及 び 有効回収数	・配 付 数：500件 ・有効回収数：293件 ・有効回収率：58.6%	・配 付 数：500件 ・有効回収数：310件 ・有効回収率：62.0%	・配 付 数：800件 ・有効回収数：435件 ・有効回収率：54.4%
報告書での記載	「高齢者一般」	「介護予防」	「要介護認定者」

3 調査方法

郵送法（郵送配付－郵送回収、お礼状兼督促状の発送なし）

4 調査時点

平成25年12月1日現在

5 調査時期

平成25年12月

6 報告書の見方

- 集計は、小数点以下第2位を四捨五入しています。したがって、数値の合計が100.0%にならない場合があります。
- 回答の比率(%)は、その質問の回答者数(n値またはLn値)を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがあります。
- 図表においては、表側の無回答は表示していません。また、一部については、それ以外の表側についても表示していない場合があります。
- 本文や図表中の選択肢表記は、場合によって語句を短縮・簡略化している場合があります。
- 本調査のような標本調査の場合、標本誤差が存在します。表側とした調査回答者の属性(性別、性/年齢別等)のn値またはLn値が小さい(30人未満を目安)場合は、標本誤差が大きくなるため分析の対象から除き、本文の説明を省略しています。
- 本文中で、比率の比較をする際には、ポイント(小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位で示している)と表記しています。また、比率の比較は全体、他の表側の項目に対して「高い」、「低い」を表しています。

7 標本誤差について

本調査のように、対象者(標本)を抽出して行う標本調査の場合、標本と全体の間に誤差が生じます。これは標本誤差(b)と呼ばれ、下式(等間隔抽出の場合)により求められます。なお、標本誤差を設問に対する回答者数(n)と回答比率(p)から簡単に求められるように、本報告書では早見表を用意しています。

例えば、「問26 あなたは、在宅で暮らし続けるために必要なことは、どのようなことであると思いますか。(あてはまるものすべてに○)」について、「住み続けられる住まいがある」という回答者数は、1,038人(n)中の74.2%(p)となっていますが、標本誤差は早見表により、±2.7%程度であることが得られます。このことから、「住み続けられる住まいがある」は、71.5%~76.9%の間にあると推測することができます。

$$b = 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

b = 標本誤差、N = 母集団数、n = 比率算出の基数(設問の回答者数)、p = 回答率

1.96 = 統計学の「正規分布表」から有意水準5%の定数(2として扱ってよい)

$\frac{N-n}{N-1} \div 1$ として算出した

図表1-1 標本誤差の早見表

回答 比率 (p) 回答 者数 (n)	5% または 95% 前後	10% または 90% 前後	15% または 85% 前後	20% または 80% 前後	25% または 75% 前後	30% または 70% 前後	35% または 65% 前後	40% または 60% 前後	45% または 55% 前後	50% 前後
1,038	±1.4%	±1.9%	±2.2%	±2.5%	±2.7%	±2.8%	±3.0%	±3.0%	±3.1%	±3.1%
1,000	±1.4%	±1.9%	±2.3%	±2.5%	±2.7%	±2.9%	±3.0%	±3.1%	±3.1%	±3.2%
950	±1.4%	±1.9%	±2.3%	±2.6%	±2.8%	±3.0%	±3.1%	±3.2%	±3.2%	±3.2%
900	±1.5%	±2.0%	±2.4%	±2.7%	±2.9%	±3.1%	±3.2%	±3.3%	±3.3%	±3.3%
850	±1.5%	±2.1%	±2.4%	±2.7%	±3.0%	±3.1%	±3.3%	±3.4%	±3.4%	±3.4%
800	±1.5%	±2.1%	±2.5%	±2.8%	±3.1%	±3.2%	±3.4%	±3.5%	±3.5%	±3.5%
750	±1.6%	±2.2%	±2.6%	±2.9%	±3.2%	±3.3%	±3.5%	±3.6%	±3.6%	±3.7%
700	±1.6%	±2.3%	±2.7%	±3.0%	±3.3%	±3.5%	±3.6%	±3.7%	±3.8%	±3.8%
650	±1.7%	±2.4%	±2.8%	±3.1%	±3.4%	±3.6%	±3.7%	±3.8%	±3.9%	±3.9%
600	±1.8%	±2.4%	±2.9%	±3.3%	±3.5%	±3.7%	±3.9%	±4.0%	±4.1%	±4.1%
550	±1.9%	±2.6%	±3.0%	±3.4%	±3.7%	±3.9%	±4.1%	±4.2%	±4.2%	±4.3%
500	±1.9%	±2.7%	±3.2%	±3.6%	±3.9%	±4.1%	±4.3%	±4.4%	±4.4%	±4.5%
450	±2.1%	±2.8%	±3.4%	±3.8%	±4.1%	±4.3%	±4.5%	±4.6%	±4.7%	±4.7%
400	±2.2%	±3.0%	±3.6%	±4.0%	±4.3%	±4.6%	±4.8%	±4.9%	±5.0%	±5.0%
350	±2.3%	±3.2%	±3.8%	±4.3%	±4.6%	±4.9%	±5.1%	±5.2%	±5.3%	±5.3%
300	±2.5%	±3.5%	±4.1%	±4.6%	±5.0%	±5.3%	±5.5%	±5.7%	±5.7%	±5.8%
250	±2.8%	±3.8%	±4.5%	±5.1%	±5.5%	±5.8%	±6.0%	±6.2%	±6.3%	±6.3%
200	±3.1%	±4.2%	±5.0%	±5.7%	±6.1%	±6.5%	±6.7%	±6.9%	±7.0%	±7.1%
150	±3.6%	±4.9%	±5.8%	±6.5%	±7.1%	±7.5%	±7.8%	±8.0%	±8.1%	±8.2%
100	±4.4%	±6.0%	±7.1%	±8.0%	±8.7%	±9.2%	±9.5%	±9.8%	±9.9%	±10.0%
50	±6.2%	±8.5%	±10.1%	±11.3%	±12.2%	±13.0%	±13.5%	±13.9%	±14.1%	±14.1%

Ⅱ 調査結果

今回の調査対象者は、高齢者一般、介護予防、要介護認定者の3つがあり、問1～問33については、設問・選択肢を共通化したうえで、それぞれの調査対象者に質問しています。一方、問34以降については、要介護認定者のみに質問しています。

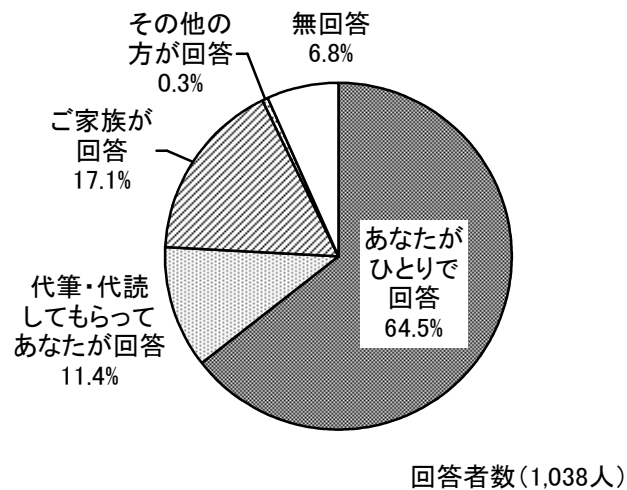
分析・報告書の作成にあたっては、問1～問33については、全体とともに高齢者一般、介護予防、要介護認定者の3つの調査種類ごとに行った方がよいと判断したものは、調査種類別の内容を、それぞれの本文と図表に盛り込んでいます。性別、年齢、世帯構成等の基本属性別のクロス集計結果は、全体に対するもののみ記載しています。一方、問34以降については、全体、基本属性別のクロス集計結果とも、要介護認定者のみの内容です。

1 調査票回答者及びあなたご自身のことについて

問1 はじめに、この調査票を回答される方はどなたですか。(ひとつだけ○)

調査票回答者についてたずねたところ、全体でみると、「あなたがひとりで回答」が64.5%、「代筆・代読してもらってあなたが回答」が11.4%、「ご家族が回答」が17.1%となっています。

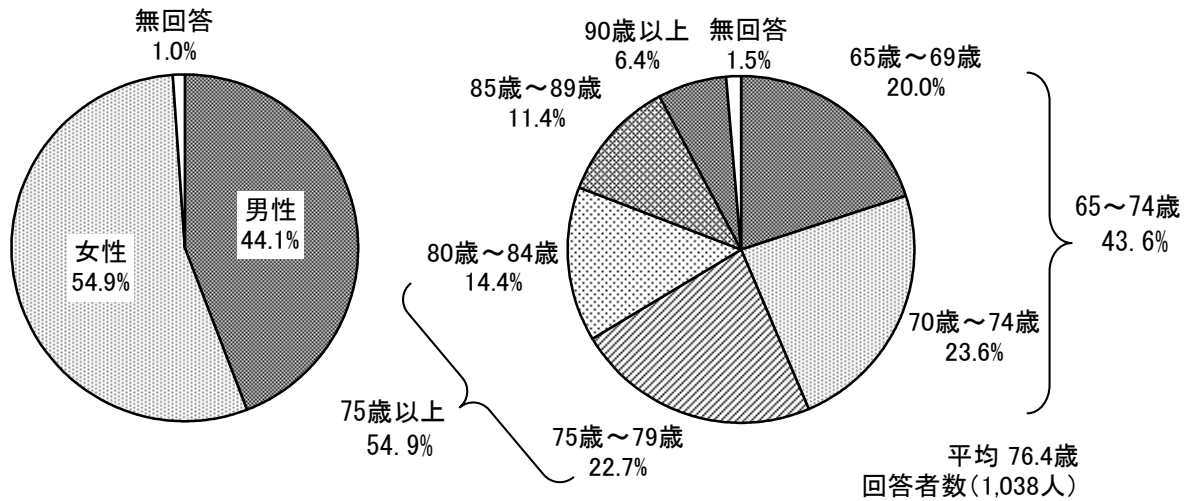
図表2-1 調査票回答者



問2 あなたの性別と、現在の満年齢をお答えください。

性別についてたずねたところ、全体でみると、「男性」が44.1%、「女性」が54.9%となっています。年齢は、「65歳～74歳」が43.6%、「75歳以上」が54.9%、また、平均年齢は76.4歳となっています。調査種類別の状況は、表のとおりです。

図表2-2 性別（左図）、年齢（右図）

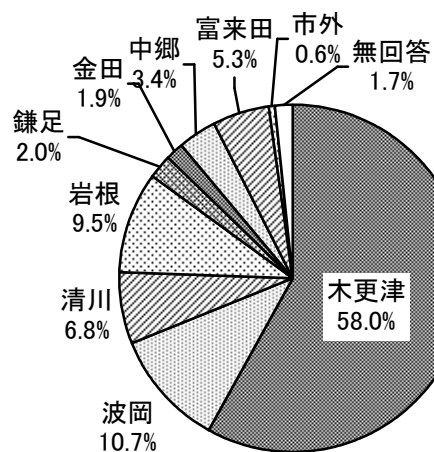


		(回 答 者 数)	65 歳 20.0	70 歳 23.6	75 歳 22.7	80 歳 14.4	85 歳 11.4	90 歳 6.4	無 回 答 1.5	65 歳 20.0	75 歳 23.6	(平 均 年 齢)
全	体	1,038	20.0	23.6	22.7	14.4	11.4	6.4	1.5	43.6	54.9	76.4
性 別	男性	458	22.9	28.2	22.9	12.4	9.2	3.7	0.7	51.1	48.2	75.1
	女性	570	18.1	20.4	22.8	16.0	13.3	8.6	0.9	38.5	60.7	77.5
調 査 種 類	高齢者一般	293	29.7	30.0	17.7	15.7	4.1	1.7	1.0	59.7	39.2	74.2
	男性	151	27.8	31.1	15.2	16.6	7.3	2.0	—	58.9	41.1	74.7
	女性	139	32.4	29.5	20.9	15.1	0.7	1.4	—	61.9	38.1	73.5
	介護予防	310	28.1	34.2	36.5	—	—	0.3	1.0	62.3	36.8	71.5
	男性	150	30.0	36.7	33.3	—	—	—	—	66.7	33.3	71.2
	女性	158	26.6	32.3	39.9	—	—	0.6	0.6	58.9	40.5	71.8
	要介護認定者	435	7.8	11.7	16.3	23.7	24.4	13.8	2.3	19.5	78.2	81.6
	男性	157	11.5	17.2	20.4	20.4	19.7	8.9	1.9	28.7	69.4	79.4
	女性	273	5.9	8.8	13.9	25.6	27.5	16.8	1.5	14.7	83.8	82.8

問3 あなたのお住まいの地域はどちらになりますか。(ひとつだけ○)

居住地域（日常生活圏域）についてたずねたところ、全体でみると、「木更津」が58.0%と最も高くなっています。次いで、「波岡」が10.7%、「岩根」が9.5%、「清川」が6.8%の順となっています。

図表2-3 居住地域（日常生活圏域）



回答者数(1,038人)

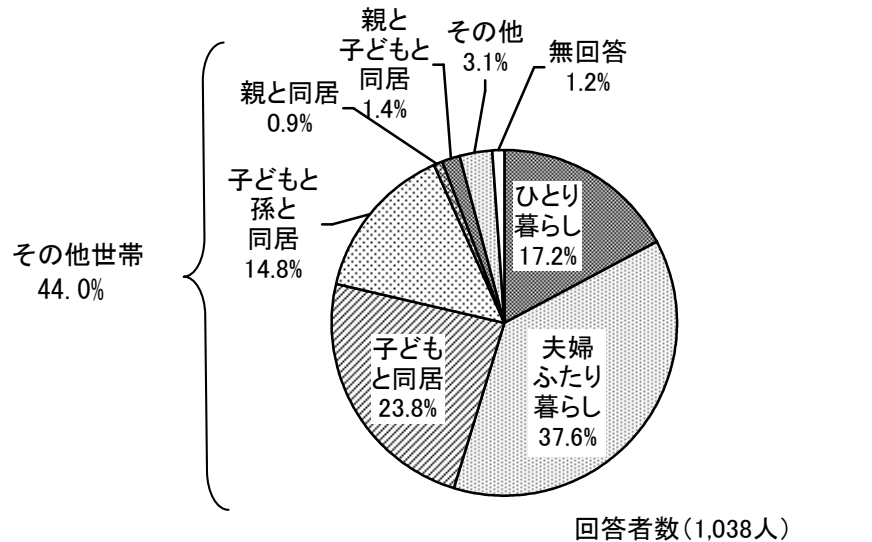
	(回答者数)	木更津	波岡	清川	岩根	鎌足	金田	中郷	富来田	市外	無回答	(%)
全 体	1,038	58.0	10.7	6.8	9.5	2.0	1.9	3.4	5.3	0.6	1.7	
調査種類												
高齢者一般	293	57.0	12.3	7.8	7.8	2.4	1.4	3.4	4.8	0.3	2.7	
介護予防	310	52.9	13.9	6.8	11.3	1.9	2.3	4.5	4.8	0.3	1.3	
要介護認定者	435	62.3	7.4	6.2	9.4	1.8	2.1	2.5	6.0	0.9	1.4	

※これ以降の表では、居住地域(圏域)が市外については、表示を省略する。

問4 あなたの現在の世帯構成を、以下の中からお答えください。(ひとつだけ○)

世帯構成についてたずねたところ、全体でみると、「ひとり暮らし世帯」が17.2%、「夫婦のみ世帯」が37.6%、「その他世帯」が44.0%（内訳は「子どもと同居」が23.8%、「子どもと孫と同居」が14.8%など）となっています。

図表2-4 世帯構成（調査票どおり、3区分集約）



		(回答者数)	ひとり暮らし世帯 (%)	夫婦のみ世帯 (%)	その他世帯 (%)	無回答 (%)
全 体		1,038	17.2	37.6	44.0	1.2
調査種類	高齢者一般	293	14.0	45.4	38.9	1.7
	介護予防	310	16.8	38.4	44.2	0.6
	要介護認定者	435	19.8	31.7	47.4	1.1
性別	男性	458	12.9	46.7	39.7	0.7
	女性	570	20.9	30.7	48.1	0.4
年齢	65歳～69歳	208	16.3	44.2	38.9	0.5
	70歳～74歳	245	13.5	50.2	35.5	0.8
	75歳～79歳	236	19.9	36.0	44.1	—
	80歳～84歳	149	22.1	32.2	45.0	0.7
	85歳～89歳	118	20.3	25.4	53.4	0.8
	90歳以上	66	10.6	13.6	75.8	—
要介護度	要支援1	63	22.2	34.9	42.9	—
	要支援2	62	33.9	24.2	41.9	—
	要介護1	77	22.1	29.9	48.1	—
	要介護2	69	14.5	29.0	55.1	1.4
	要介護3	47	8.5	38.3	53.2	—
	要介護4	38	2.6	36.8	60.5	—
	要介護5	26	7.7	34.6	53.8	3.8

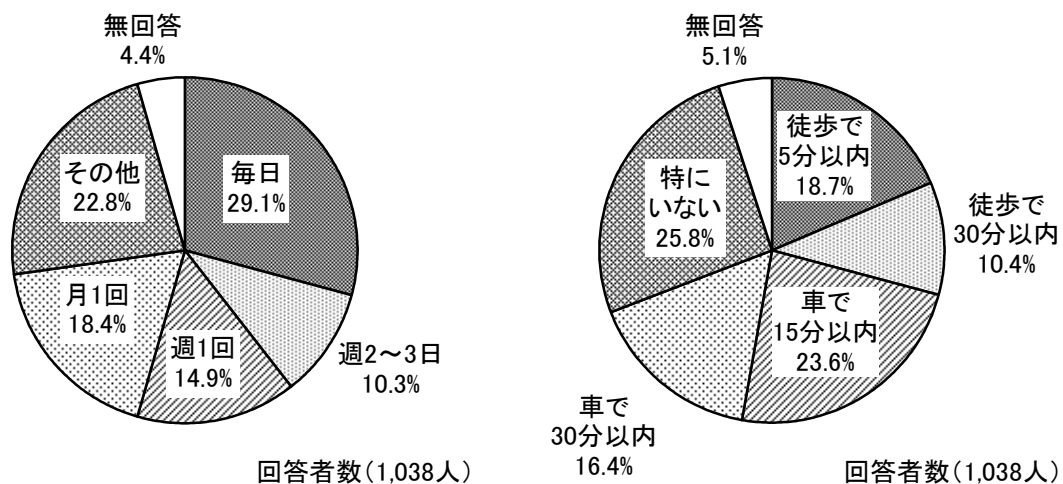
※要介護度別の集計は、要介護認定者調査のみが対象である。
なお、「わからない」は、表示を省略する。(以降同様)

問5	ご親族の方と気軽に会いする頻度はどのくらいですか。(ひとつだけ○)
問6	あなたのお近くに、ご親族がお住まいですか。(ひとつだけ○)

親族と気軽に会う頻度についてたずねたところ、全体でみると、「毎日」が29.1%と最も高くなっています。それ以外では、「週2～3日」が10.3%、「週1回」が14.9%、「月1回」が18.4%となっています。

近所での親族の居住は、「特にいない」が25.8%と最も高くなっています。近所に居住している中では、「車で15分以内」が23.6%、「徒歩で5分以内」が18.7%となっています。

図表2-5 親族と気軽に会う頻度（左図）、近所での親族の居住（右図）



		(人) 回答者数	親族と気軽に会う頻度						近所での親族の居住						
			毎日	週2 〜 3日	週1 回	月1 回	その他	無回答	5 徒 分 歩 以 内	3 徒 0 歩 分 以 内	1 車 5 分 以 内	3 車 0 分 以 内	特 に い な い	無 回 答	
全 体		1,038	29.1	10.3	14.9	18.4	22.8	4.4	18.7	10.4	23.6	16.4	25.8	5.1	
調査 種類	高齢者一般	293	25.3	9.9	19.8	17.1	24.6	3.4	19.5	13.3	23.2	12.6	26.6	4.8	
	介護予防	310	25.8	10.3	13.5	21.9	23.2	5.2	16.5	11.0	24.8	18.7	25.5	3.5	
	要介護認定者	435	34.0	10.6	12.6	16.8	21.4	4.6	19.8	8.0	23.0	17.2	25.5	6.4	
性別	男性	458	26.6	10.3	15.5	19.4	24.2	3.9	19.0	11.6	19.9	17.7	27.3	4.6	
	女性	570	31.4	10.5	14.6	17.7	22.1	3.7	18.8	9.6	26.5	15.6	25.1	4.4	
年齢	65歳〜69歳	208	27.4	11.1	12.0	19.7	26.0	3.8	17.8	10.6	24.5	14.4	29.3	3.4	
	70歳〜74歳	245	24.5	8.6	13.9	23.7	26.1	3.3	16.7	11.0	27.3	14.3	26.1	4.5	
	75歳〜79歳	236	27.1	5.9	19.5	15.7	27.5	4.2	19.5	11.9	16.1	19.9	29.2	3.4	
	80歳〜84歳	149	26.2	15.4	21.5	16.8	15.4	4.7	19.5	7.4	26.8	25.5	16.8	4.0	
	85歳〜89歳	118	34.7	15.3	12.7	15.3	20.3	1.7	21.2	11.0	26.3	10.2	28.0	3.4	
	90歳以上	66	57.6	10.6	4.5	15.2	9.1	3.0	21.2	10.6	25.8	10.6	19.7	12.1	
世帯 構成	ひとり暮らし世帯	179	16.8	17.9	15.1	16.8	26.8	6.7	15.6	10.6	24.6	19.6	24.6	5.0	
	夫婦のみ世帯	390	18.7	12.6	16.9	23.3	25.6	2.8	22.1	10.0	20.8	14.4	29.0	3.8	
	その他世帯	457	43.3	5.7	13.6	15.1	19.3	3.1	17.5	10.9	26.0	16.8	24.3	4.4	

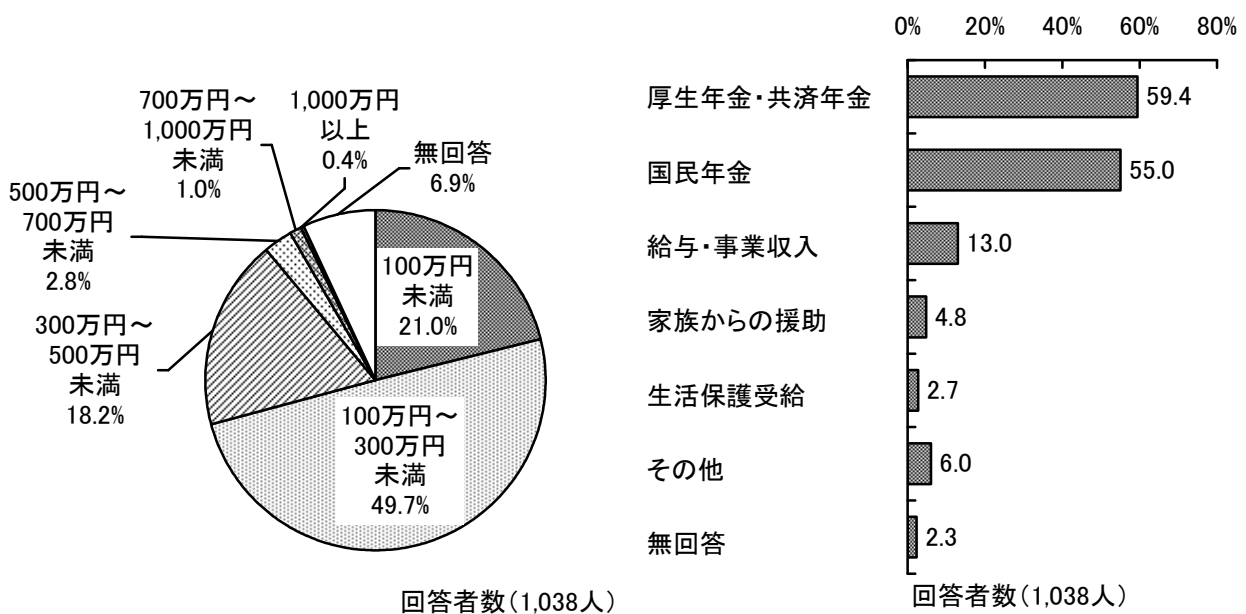
問7 あなたと配偶者（ひとり暮らしの方は、あなたのみ）の税込みの年収（年金を含む）の合計は、次のうちどれですか。（ひとつだけ○）

問8 あなたと配偶者（ひとり暮らしの方は、あなたのみ）の収入は、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

本人と配偶者の税込みの年収についてたずねたところ、全体でみると、「100万円～300万円未満」が49.7%と最も高くなっています。次いで、「100万円未満」が21.0%、「300万円～500万円未満」が18.2%となっています。300万円未満が合わせて7割強と、大多数を占めています。

収入の種類は、「厚生年金・共済年金」が59.4%と最も高くなっています。次いで、「国民年金」が55.0%、「給与・事業収入」が13.0%であり、年金が圧倒的に高くなっています。

図表2-6 本人と配偶者の税込み年収（左図）、収入の種類（右図）



2 住環境について

問9 あなたのお住まいについて伺います。(それぞれひとつだけ○)

(1) 一戸建て、または集合住宅のどちらですか。(住宅の建て方)

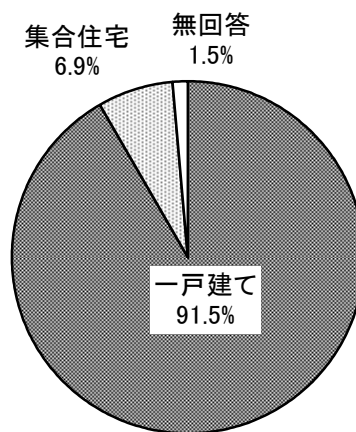
(2) 何階で生活していますか。2～5階で生活している場合、エレベーターはありますか。

住宅の建て方についてたずねたところ、全体でみると、「一戸建て」が91.5%、「集合住宅」が6.9%となっています。

住んでいる階は、「2階以上」が20.2%、「1階」が66.1%となっています。

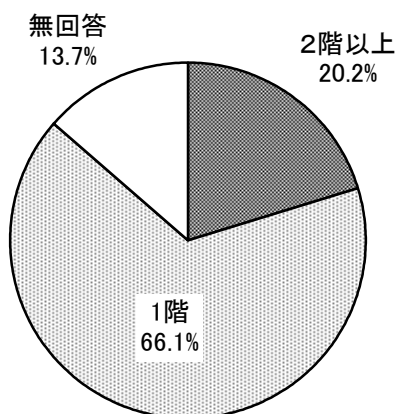
「2階以上」で生活していると回答した人に、エレベーターの有無をたずねたところ、「ある」が7.1%、「ない」が83.8%となっています。

図表2-7 住宅の建て方

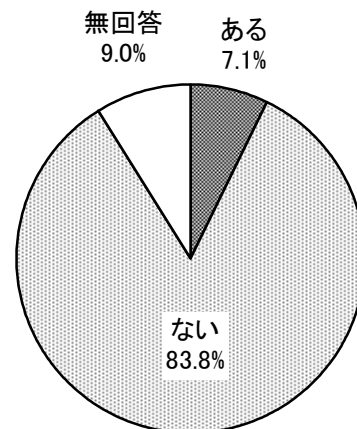


回答者数(1,038人)

図表2-8 住んでいる階（左図）、エレベーターの有無（右図）



回答者数(1,038人)



回答者数(210人)

住宅の建て方について、居住地域（圏域）別にみると、清川、岩根、木更津では「集合住宅」がやや高くなっていますが、大部分の地区は「一戸建て」となっています。世帯構成別にみると、ひとり暮らし世帯では「集合住宅」が17.9%とやや高くなっています。

居住階数とエレベーターの有無の組み合わせを分析したところ、全体でみると、「2階（エレベーターあり）」が1.4%、「2階以上（エレベーターなし）」が17.0%となっています。居住地域（圏域）別にみると、清川で「2階（エレベーターあり）」がやや高くなっています。世帯構成別にみると、夫婦のみ世帯では「2階以上（エレベーターなし）」が22.1%とやや高くなっています。

図表2-9 住宅の建て方、居住階数とエレベーターの有無

		回答者数 (人)	一戸建て	集合住宅	無回答	2階以上 (エレベーターあり)	2階以上 (エレベーターなし)	1階	無回答	(%)
全 体		1,038	91.5	6.9	1.5	1.4	17.0	66.1	15.5	
居住地域 (圏域)	木更津	602	90.7	8.1	1.2	1.0	19.9	63.6	15.4	
	波岡	111	98.2	1.8	—	—	18.0	66.7	15.3	
	清川	71	88.7	11.3	—	7.0	9.9	63.4	19.7	
	岩根	99	90.9	9.1	—	2.0	12.1	71.7	14.1	
	鎌足	21	95.2	4.8	—	—	9.5	85.7	4.8	
	金田	20	95.0	—	5.0	—	10.0	75.0	15.0	
	中郷	35	97.1	—	2.9	—	5.7	77.1	17.1	
	富来田	55	100.0	—	—	—	14.5	78.2	7.3	
世帯構成	ひとり暮らし世帯	179	81.6	17.9	0.6	2.2	15.6	63.7	18.4	
	夫婦のみ世帯	390	94.4	5.4	0.3	1.5	22.1	62.6	13.8	
	その他世帯	457	94.5	4.2	1.3	1.1	13.6	71.3	14.0	

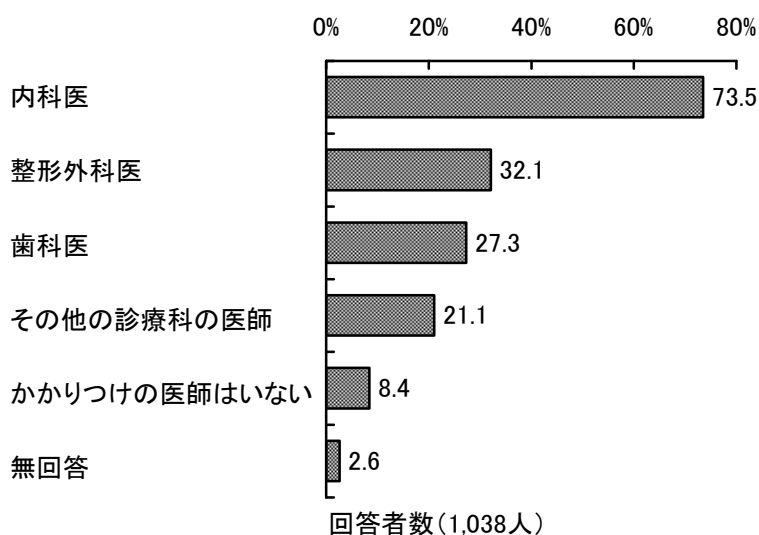
3 健康状態について

健康状態についての設問（問１１～問１７）については、「Ⅲ 日常生活圏域ニーズ調査の分析」に記載します。

問１０ あなたには、かかりつけの医師がいますか。（あてはまるものすべてに○）

かかりつけ医の有無についてたずねたところ、全体でみると、「内科医」が73.5%と最も高くなっています。次いで、「整形外科医」が32.1%、「歯科医」が27.3%、となっています。一方、「かかりつけの医師はいない」が8.4%となっています。

図表2-10 かかりつけの医師の有無



調査種類別にみると、高齢者一般は「歯科医」、介護予防は「内科医」、要介護認定者は「整形外科医」がそれぞれやや低くなっています。

性別にみると、女性は男性よりも「内科医」、「整形外科医」、「歯科医」、男性は女性よりも「その他の診療科の医師」のかかりつけ医がいる割合が高くなっています。

年齢別にみると、「内科医」はおおむね年齢が高くなるにつれて高くなり、80歳以上では8割を超えています。「整形外科医」は70歳代で4割前後と高くなっています。「歯科医」は75歳以上では3割前後とやや高くなっています。

要介護度別にみると、「歯科医」は要支援、「整形外科医」は要介護1でやや高くなっています。

図表2-11 かかりつけの医師の有無
(調査種類別、性別、年齢別、要介護度別)

		(回答者数)	内科医	整形外科医	歯科医	その他の医師の診療	かかりつけの医師はいない	無回答
	全 体	1,038	73.5	32.1	27.3	21.1	8.4	2.6
調査種類	高齢者一般	293	73.4	39.2	22.5	15.7	13.3	3.1
	介護予防	310	68.1	38.4	25.5	16.5	12.3	1.9
	要介護認定者	435	77.5	22.8	31.7	28.0	2.3	2.8
性別	男性	458	69.2	31.7	19.9	23.6	10.5	2.2
	女性	570	77.9	33.0	33.7	19.3	6.8	1.6
年齢	65歳～69歳	208	58.2	31.7	20.2	20.7	21.2	1.9
	70歳～74歳	245	73.5	40.8	26.5	22.4	6.9	2.4
	75歳～79歳	236	78.4	38.1	32.6	20.3	5.1	1.3
	80歳～84歳	149	80.5	28.2	27.5	21.5	4.7	2.7
	85歳～89歳	118	81.4	21.2	31.4	21.2	4.2	0.8
	90歳以上	66	86.4	13.6	30.3	21.2	1.5	—
要介護度	要支援1	63	76.2	23.8	46.0	20.6	—	—
	要支援2	62	80.6	21.0	43.5	22.6	3.2	1.6
	要介護1	77	77.9	32.5	31.2	33.8	1.3	1.3
	要介護2	69	82.6	24.6	30.4	30.4	1.4	1.4
	要介護3	47	66.0	17.0	23.4	44.7	6.4	—
	要介護4	38	81.6	7.9	21.1	26.3	5.3	2.6
	要介護5	26	76.9	23.1	11.5	42.3	—	—

(%)

4 介護予防について

問18 あなたは、将来、介護を必要としない健康な生活が送れるようにするために、心がけていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

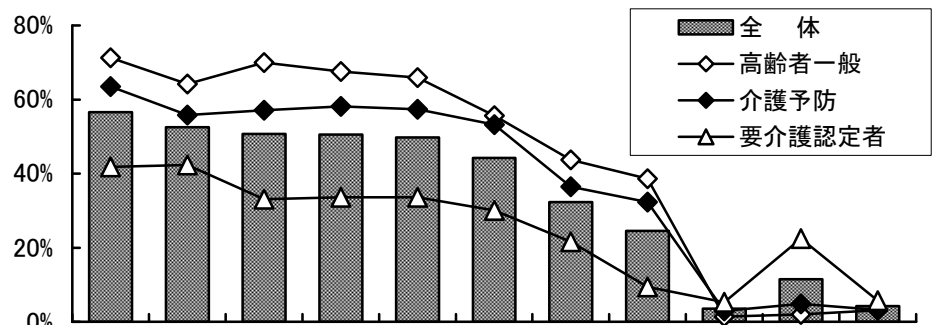
介護を必要としない生活のために心がけていることについてたずねたところ、全体でみると、「栄養バランスのとれた食事をとる」が56.6%と最も高くなっています。次いで、「十分な睡眠をとる」が52.5%、「散歩など、できるだけ歩くようにする」が50.7%、「新聞や雑誌を読む」が50.5%となっており、この4つが過半数となっています。

調査種類別にみると、高齢者一般、介護予防、要介護認定者の順に心がけていることの割合が低くなっています。

性別にみると、男性では「散歩など、できるだけ歩くようにする」、「新聞や雑誌を読む」、「タバコを吸わない」、「趣味や地域活動などに取り組む」、女性では「栄養バランスのとれた食事をとる」が他方より高くなっています。

年齢別にみると、おおむね年齢が高くなるにつれて、心がけていることの割合が低くなっています。

図表2-12 介護を必要としない生活のために心がけていること



問 19 あなたは、介護予防について、どのような印象をお持ちですか。(主なもの3つまで○)

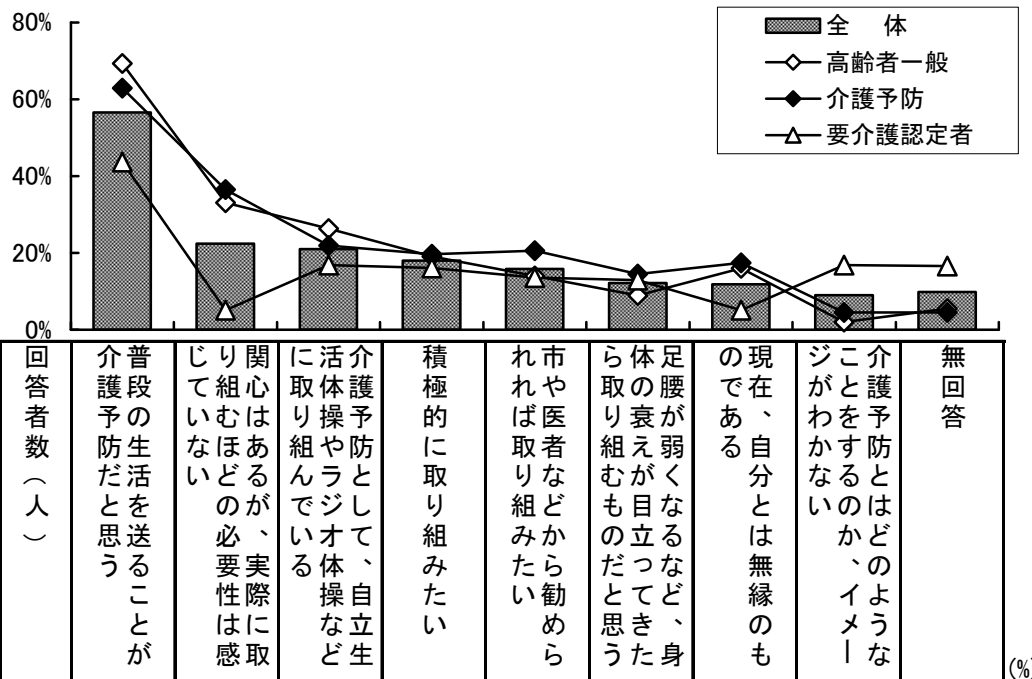
介護予防に対する印象についてたずねたところ、全体でみると、「普段の生活を送ることが介護予防だと思う」が56.6%と最も高く、過半数となっています。次いで、「関心はあるが、実際に取り組むほどの必要性は感じていない」が22.4%、「介護予防として、自立生活体操やラジオ体操などに取り組んでいる」が21.0%、「積極的に取り組みたい」が18.0%などの順となっています。

調査種類別にみると、高齢者一般、介護予防はほぼ同じような傾向となっています。要介護認定者は、「普段の生活を送ることが介護予防だと思う」、「関心はあるが、実際に取り組むほどの必要性は感じていない」がほか2つに比べると大幅に低くなっています。

性別にみると、男性では「関心はあるが、実際に取り組むほどの必要性は感じていない」、「現在、自分とは無縁のものである」、女性では「普段の生活を送ることが介護予防だと思う」、「介護予防として、自立生活体操やラジオ体操などに取り組んでいる」が他方より高くなっています。

年齢別にみると、「普段の生活を送ることが介護予防だと思う」、「関心はあるが、実際に取り組むほどの必要性は感じていない」は、おおむね年齢が高くなるにつれて低くなっています。「介護予防として、自立生活体操やラジオ体操などに取り組んでいる」は、70歳代で25%前後とやや高くなっています。

図表2-13 介護予防に対する印象



	回答者数(人)	介護予防の生活を送ることが	関心はあるが、実際に取り組むほどの必要性は感じていない	介護予防として、自立生活体操やラジオ体操などに取り組んでいる	積極的に取り組みたい	市や医者などから勧められれば取り組みたい	体の衰えが目立つなど、うたがわしい	現在、自分とは無縁のものである	介護予防とは何か、イメージがわかない	無回答
全体	1,038	56.6	22.4	21.0	18.0	15.8	12.2	11.8	9.0	9.8
調査種類										
高齢者一般	293	69.3	33.1	26.3	19.1	14.0	8.9	16.0	2.0	5.5
介護予防	310	62.9	36.5	21.9	19.7	20.6	14.5	17.4	4.5	4.5
要介護認定者	435	43.7	5.1	16.8	16.1	13.6	12.9	5.1	16.8	16.6
性別										
男性	458	55.2	26.9	19.2	19.0	15.7	15.3	15.3	6.3	11.1
女性	570	58.1	18.9	22.5	17.4	16.0	10.0	9.1	11.1	8.4
年齢										
65歳～69歳	208	59.6	31.7	18.8	24.0	14.9	8.7	15.4	6.7	4.3
70歳～74歳	245	59.6	28.2	24.1	20.4	15.9	11.8	13.5	6.5	8.6
75歳～79歳	236	65.7	23.3	27.1	17.8	19.5	15.7	13.6	5.1	7.6
80歳～84歳	149	51.0	18.1	19.5	14.1	14.8	12.1	11.4	11.4	10.7
85歳～89歳	118	47.5	8.5	12.7	15.3	16.1	13.6	6.8	14.4	16.9
90歳以上	66	37.9	4.5	12.1	7.6	9.1	12.1	1.5	22.7	21.2

問20 木更津市では介護予防事業（※調査票参照）を実施していますが、どのような条件であれば参加したり、取り組みたいと思いますか。（主なもの3つまで○）

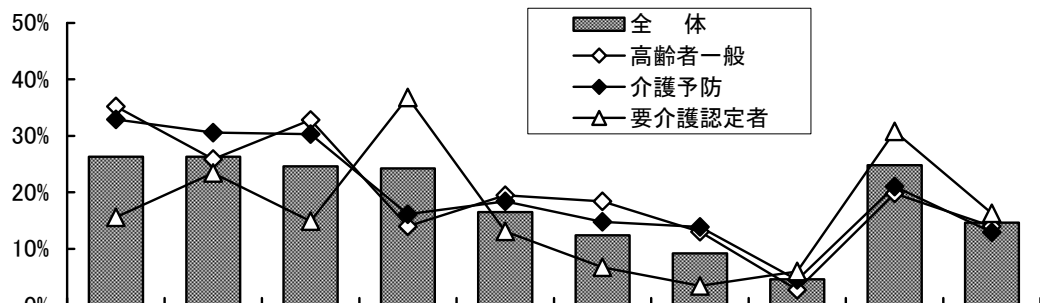
介護予防事業に参加、取り組むための条件についてたずねたところ、全体でみると、「自分の生活時間に合わせた時間と場所で参加できる」、「事業参加やサービス利用の費用は無料か負担にならない程度である」がそれぞれ26.3%と最も高くなっています。次いで、「公民館や集会所等、身近な場所で事業が実施される」が24.6%、「往復の送迎がある」が24.2%などとなっています。

調査種類別にみると、高齢者一般、介護予防はほぼ同じような傾向となっています。要介護認定者は、「往復の送迎がある」が36.8%と最も高く、一方、「自分の生活時間に合わせた時間と場所で参加できる」は他の2調査より大幅に低くなっています。

性別にみると、男性では「自分の生活時間に合わせた時間と場所で参加できる」、「プールやトレーニングセンターを利用する運動機能を強化したプログラムがある」女性では「事業参加やサービス利用の費用は無料か負担にならない程度である」、「往復の送迎がある」、「1人ではなく、友人や知人を誘って参加できる」が他方より高くなっています。

年齢別にみると、「往復の送迎がある」、「1人ではなく、友人や知人を誘って参加できる」を除いて、年齢が高くなるにつれて低くなっています。「往復の送迎がある」は、80歳以上では30%前後と条件があるものの中では最も高くなっています。

図表2-14 介護予防事業に参加、取り組むための条件



	回答者数（人）	自分の生活時間に合わせた時間と場所で参加できる	事業参加やサービス利用の費用は無料か負担にならない程度である	公民館や集会所等、身近な場所で事業が実施される	往復の送迎がある	1人ではなく、友人や知人を誘って参加できる	プログラムがわかりやすく説明に	プールやトレーニングセンターを利用する運動機能を強化したプログラムがある	その他	特にな	無回答
全 体	1,038	26.3	26.3	24.6	24.2	16.5	12.4	9.2	4.6	24.8	14.6
調査種類											
高齢者一般	293	35.2	25.9	32.8	14.0	19.5	18.4	13.0	2.7	19.8	14.0
介護予防	310	32.9	30.6	30.3	16.1	18.4	14.8	13.9	4.5	21.0	12.9
要介護認定者	435	15.6	23.4	14.9	36.8	13.1	6.7	3.4	6.0	30.8	16.3
性別											
男性	458	29.5	23.8	26.9	17.7	12.9	15.7	13.5	3.7	26.6	13.8
女性	570	23.9	28.8	23.2	29.6	19.5	10.0	6.0	5.4	23.0	14.9
年齢											
65歳～69歳	208	39.4	31.3	26.4	14.4	17.8	19.2	15.4	4.8	19.7	8.2
70歳～74歳	245	34.3	30.6	31.4	23.3	17.6	15.1	13.5	4.1	18.0	11.4
75歳～79歳	236	25.4	25.0	26.7	22.0	16.5	11.4	7.6	5.9	24.6	16.9
80歳～84歳	149	18.1	24.8	21.5	36.2	18.8	9.4	5.4	3.4	29.5	16.1
85歳～89歳	118	10.2	19.5	16.1	32.2	15.3	5.1	4.2	2.5	29.7	21.2
90歳以上	66	9.1	18.2	12.1	27.3	9.1	6.1	-	7.6	47.0	15.2

5 今後の暮らしや住まいについて

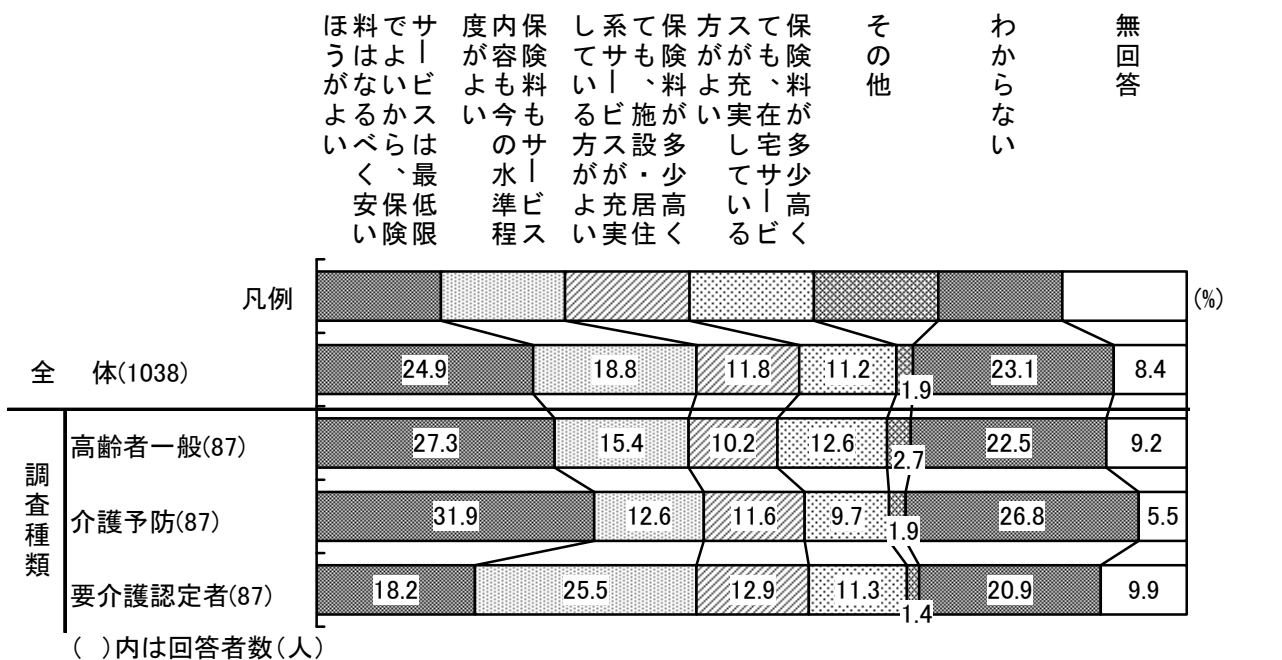
問2-1 介護保険制度で提供する介護サービスや介護予防のためのサービスの範囲について、あなたの考えにもっとも近いものは、次のうちどれですか。(ひとつだけ○)

保険料とサービスのバランスについてたずねたところ、全体でみると、「サービスは最低限でよいから、保険料はなるべく安いほうがよい」が24.9%、「保険料もサービス内容も今の水準程度がよい」が18.8%となっています。これに対して、「保険料が多少高くても、施設・居住系サービスが充実している方がよい」が11.8%、「保険料が多少高くても、在宅サービスが充実している方がよい」が11.2%となっており、両者を合わせると23.0%となっています。

調査種類別にみると、高齢者一般、介護予防は「サービスは最低限でよいから、保険料はなるべく安いほうがよい」、要介護認定者は「保険料もサービス内容も今の水準程度がよい」が高くなっています。

本人と配偶者の年収別にみると、おおむね年収の低い人ほど「サービスは最低限でよいから、保険料はなるべく安いほうがよい」が高く、年収の高い人ほど「保険料が多少高くても、在宅サービスが充実している方がよい」が高くなっています。その境は300万円～500万円未満あたりと見ることができます。

図表2-15 保険料とサービスのバランス



	回 答 者 数 (人)	ほ う は よ い か ら 、 最 安 保 険 料 で よ い	サ ー ビ ス は 最 低 限 で よ い	保 険 料 も サ ー ビ ス 内 容 も 今 の 水 準 程 度 が よ い	シ ス テ ム サ ー ビ ス が 充 実 し て い る 方 が よ い	保 険 料 が 少 し 高 く も 、 施 設 ・ 居 住 系 サ ー ビ ス が 充 実 し て い る 方 が よ い	保 険 料 が 少 し 高 く も 、 在 宅 サ ー ビ ス が 充 実 し て い る 方 が よ い	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答	(%)
全 体	1,038	24.9	18.8	11.8	11.2	1.9	23.1	8.4			
本人と配偶者の年収	100万円未満	218	26.6	19.7	9.2	6.4	0.9	30.3	6.9		
	100万円～300万円未満	516	24.8	20.5	12.6	10.7	2.5	21.3	7.6		
	300万円～500万円未満	189	22.8	17.5	12.2	19.0	2.1	23.3	3.2		
	500万円～700万円未満	29	31.0	10.3	13.8	24.1	—	13.8	6.9		
	700万円～1,000万円未満	10	20.0	10.0	50.0	—	—	10.0	10.0		
	1,000万円以上	4	—	25.0	75.0	—	—	—	—		

問22 日常生活での不安、悩み、心配ごとがありますか。それはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

日常生活での不安、悩み、心配ごとについてたずねたところ、全体でみると、「健康に不安がある」が43.4%と最も高くなっています。次いで、「地震や火災が起きたときの避難が心配である」が36.0%、「認知症にならないか心配である」が35.3%、「外出時の転倒や事故に不安がある」が27.1%などの順となっています。

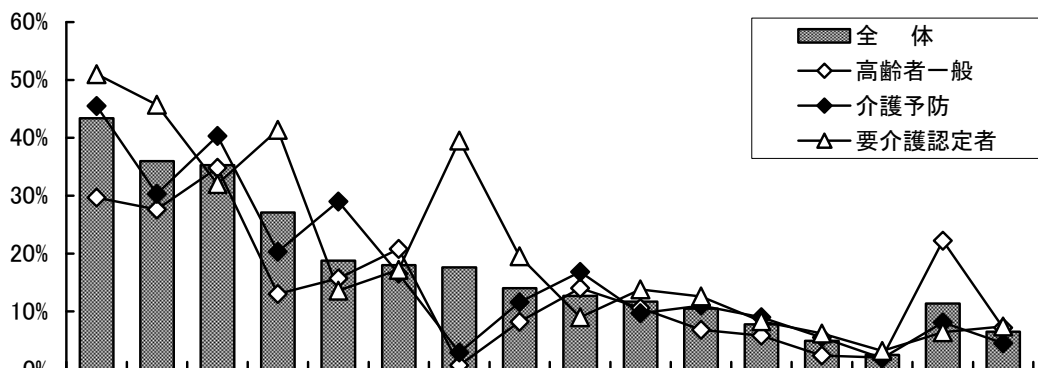
調査種類別にみると、介護予防では、「健康に不安がある」、「認知症にならないか心配である」が4割台と高くなっています。要介護認定者は「健康に不安がある」、「地震や火災が起きたときの避難が心配である」、「外出時の転倒や事故に不安がある」、「身体が不自由であり介護が必要である」などが高く、多くの不安、悩み、心配ごとをかかえている様子がうかがえます。

性別にみると、男性よりも女性のほうが、「地震や火災が起きたときの避難が心配である」、「認知症にならないか心配である」、「外出時の転倒や事故に不安がある」など多くの項目で高くなっています。

年齢別にみると、70歳以上で「健康に不安がある」が最も高くなっています。「地震や火災が起きたときの避難が心配である」は75歳以上、「認知症にならないか心配である」は79歳以下、「外出時の転倒や事故に不安がある」は80歳台で高くなっています。「身体が不自由であり介護が必要である」は80歳以上でやや高くなり、90歳以上では4割強となっています。

世帯構成別にみると、ひとり暮らし世帯では「健康に不安がある」、「地震や火災が起きたときの避難が心配である」、「外出時の転倒や事故に不安がある」、「生活のための収入が足りない」、夫婦のみ世帯では「配偶者のこと」、その他世帯では「子どもや孫のこと」が他の世帯構成と比べると高くなっています。

図表2-16 日常生活での不安、悩み、心配ごと



	回答者数（人）	健康に不安がある	地震や火災が起きたときの避難が心配である	認知症にならないか心配である	外出時の転倒や事故に不安がある	生活のための収入が足りない	配偶者のこと	身体が不自由であり介護が必要である	家事が大変である	子どもや孫のこと	判断能力が衰えたときの契約や財産の管理	金融制度（が）わからない	社会の仕組み（法律、社会保障、年金）	家族や財産の相続、お墓の管理のこと	一人きりで頼れる人がいない	その他	特にない	無回答
全体	1,038	43.4	36.0	35.3	27.1	18.8	18.0	17.6	14.0	12.7	11.7	10.5	7.8	4.9	2.5	11.4	6.5	
調査種類																		
高齢者一般	293	29.7	27.6	34.8	13.0	15.7	20.8	0.7	8.2	14.0	10.6	6.8	5.8	2.4	2.0	22.2	7.2	
介護予防	310	45.5	30.3	40.3	20.3	29.0	16.5	2.9	11.6	16.8	9.7	11.0	9.0	5.5	1.9	8.1	4.5	
要介護認定者	435	51.0	45.7	32.0	41.4	13.6	17.2	39.5	19.5	9.0	13.8	12.6	8.3	6.2	3.2	6.4	7.4	

図表2-17 日常生活での不安、悩み、心配ごと
(性別、年齢別、世帯構成別)

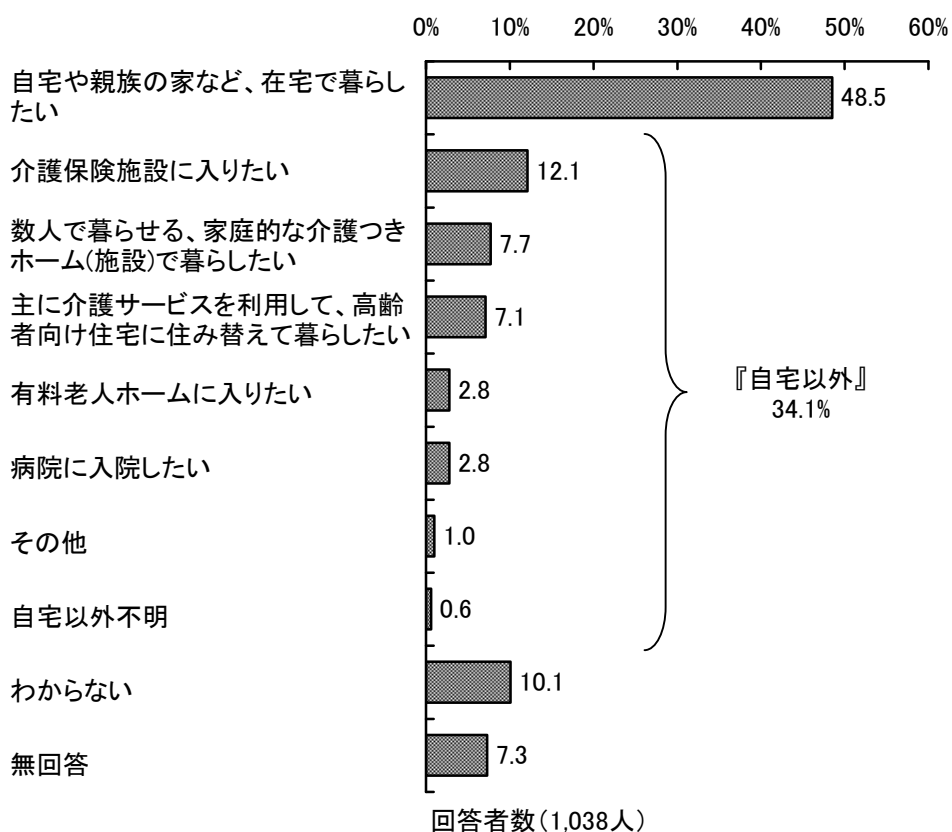
		回答者数（人）	健康に不安がある	地震や火災が起きたとき避難が心配である	認知症にならないか心配である	外出時の転倒や事故に不安がある	生活のための収入が足りない	配偶者のこと	身体が不自由であり介護が必要である	家事が大変である	(%)
全	体	1,038	43.4	36.0	35.3	27.1	18.8	18.0	17.6	14.0	
性別	男性	458	43.2	30.3	31.9	22.5	21.2	21.0	14.2	12.0	
	女性	570	43.7	40.9	37.9	30.9	17.2	15.8	20.7	15.6	
年齢	65歳～69歳	208	34.6	29.8	39.4	14.4	19.2	13.5	9.6	5.3	
	70歳～74歳	245	42.0	29.0	40.0	23.7	23.7	23.3	11.0	14.3	
	75歳～79歳	236	44.5	39.4	36.9	28.4	24.6	17.8	11.0	13.6	
	80歳～84歳	149	50.3	47.7	31.5	38.9	11.4	22.8	30.2	23.5	
	85歳～89歳	118	50.8	42.4	26.3	42.4	12.7	16.9	29.7	22.0	
	90歳以上	66	50.0	36.4	24.2	22.7	9.1	7.6	43.9	7.6	
世帯構成	ひとり暮らし世帯	179	57.5	47.5	41.3	34.6	27.9	2.8	17.3	21.2	
	夫婦のみ世帯	390	41.5	33.6	36.2	25.4	16.9	31.0	16.4	15.9	
	その他世帯	457	40.0	34.4	32.6	26.0	16.8	13.3	19.3	9.8	

		回答者数（人）	子どもや孫のこと	判断能力や財産の管理が心配である	社会の仕組み（金融制度、社会保障、年金）がわからない	家の管理や財産の相続、お墓のあること	一人きりで頼れる人がいない	その他	特にない	無回答	(%)
全	体	1,038	12.7	11.7	10.5	7.8	4.9	2.5	11.4	6.5	
性別	男性	458	13.8	13.5	7.9	9.0	5.5	2.4	12.2	6.8	
	女性	570	11.9	10.2	12.6	7.0	4.6	2.6	10.7	5.4	
年齢	65歳～69歳	208	16.8	11.1	8.7	5.8	4.3	2.9	15.9	3.4	
	70歳～74歳	245	13.5	10.2	9.8	7.3	2.9	1.6	13.1	7.8	
	75歳～79歳	236	11.9	13.1	12.7	8.1	6.4	3.0	10.6	3.4	
	80歳～84歳	149	10.1	16.1	9.4	9.4	8.1	2.0	7.4	8.1	
	85歳～89歳	118	16.1	11.0	14.4	12.7	6.8	3.4	7.6	7.6	
	90歳以上	66	1.5	7.6	9.1	4.5	—	3.0	9.1	7.6	
世帯構成	ひとり暮らし世帯	179	7.8	16.8	14.0	8.9	22.3	3.9	5.0	5.6	
	夫婦のみ世帯	390	11.0	15.9	11.0	9.2	1.0	2.3	12.1	6.4	
	その他世帯	457	16.4	6.3	9.0	6.3	1.5	2.2	13.3	5.7	

問23 あなたは、介護を受けるようになったらどこで暮らしたいと思いますか。既に介護を受けている方は、今後についてお答えください。（もっとも近い考えにひとつだけ○）

今後どこで介護を受けたいかについてたずねたところ、全体でみると、「自宅や親族の家など、在宅で暮らしたい」が48.5%と最も高くなっています。これに対して、『自宅以外』が34.1%となっており、具体的な内容は、「介護保険施設に入りたい」が12.1%、「数人で暮らせる、家庭的な介護つきホーム(施設)で暮らしたい」が7.7%、「主に介護サービスを利用して、高齢者向け住宅に住み替えて暮らしたい」が7.1%などとなっています。

図表2-18 今後どこで介護を受けたいか



調査種類別にみると、どの対象者とも「自宅や親族の家など、在宅で暮らしたい」が最も高くなっています。それ以外では、高齢者一般は「介護保険施設に入りたい」が16.0%、介護予防は「数人で暮らせる、家庭的な介護つきホーム（施設）で暮らしたい」が11.6%とやや高くなっています。

世帯構成別にみると、どの世帯でも「自宅や親族の家など、在宅で暮らしたい」が最も高く、その他世帯では56.0%と過半数となっています。それ以外では、ひとり暮らし世帯は「数人で暮らせる、家庭的な介護つきホーム（施設）で暮らしたい」が15.1%、夫婦のみ世帯は「介護保険施設に入りたい」が15.4%とやや高くなっています。

本人と配偶者の税込み年収別にみると、「主に介護サービスを利用して、高齢者向け住宅への住み替えて暮らしたい」は100万円～300万円未満、「有料老人ホームに入りたい」は300万円～500万円未満がやや高くなっています。

図表2-19 今後どこで介護を受けたいか
(調査種類別、世帯構成別、本人と配偶者の税込み年収別)

		回答者数（人）	自宅や親族の家など、在宅で暮らしたい	介護保険施設に入りたい	介護つきホーム（施設）で暮らしたい	数人で暮らせる、家庭的な介護つきホーム（施設）で暮らしたい	替えて暮らしたい	主に介護サービスを利用して暮らしたい	有料老人ホームに入りたい	病院に入院したい	その他	自宅以外不明	わからない	無回答	『自宅以外』	(%)
	全 体	1,038	48.5	12.1	7.7	7.1	2.8	2.8	1.0	0.6	10.1	7.3	34.1			
調査種類	高齢者一般	293	42.7	16.0	6.5	6.8	5.1	2.4	0.7	0.7	10.9	8.2	38.2			
	介護予防	310	48.1	10.0	11.6	7.7	1.0	1.9	1.0	0.3	13.2	5.2	33.5			
	要介護認定者	435	52.6	11.0	5.7	6.9	2.5	3.7	1.1	0.7	7.4	8.3	31.6			
世帯構成	ひとり暮らし世帯	179	32.4	10.6	15.1	11.7	3.4	2.8	1.7	1.1	14.5	6.7	46.4			
	夫婦のみ世帯	390	47.2	15.4	6.2	10.3	2.8	2.6	0.5	0.8	7.9	6.4	38.6			
	その他世帯	457	56.0	10.3	6.1	2.8	2.4	3.1	1.1	0.2	10.3	7.7	26.0			
本人と配偶者の税込み年収	100万円未満	218	46.8	12.8	9.6	4.6	0.0	2.3	0.9	0.5	15.6	6.9	30.7			
	100万円～300万円未満	516	49.8	13.0	8.1	9.1	2.3	2.9	1.2	0.4	7.2	6.0	37.0			
	300万円～500万円未満	189	50.3	12.2	6.3	5.8	6.9	2.1	0.5	0.5	9.5	5.8	34.3			
	500万円～700万円未満	29	51.7	13.8	6.9	3.4	3.4	0.0	0.0	3.4	10.3	6.9	30.9			
	700万円～1,000万円未満	10	80.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0			
	1,000万円以上	4	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0			

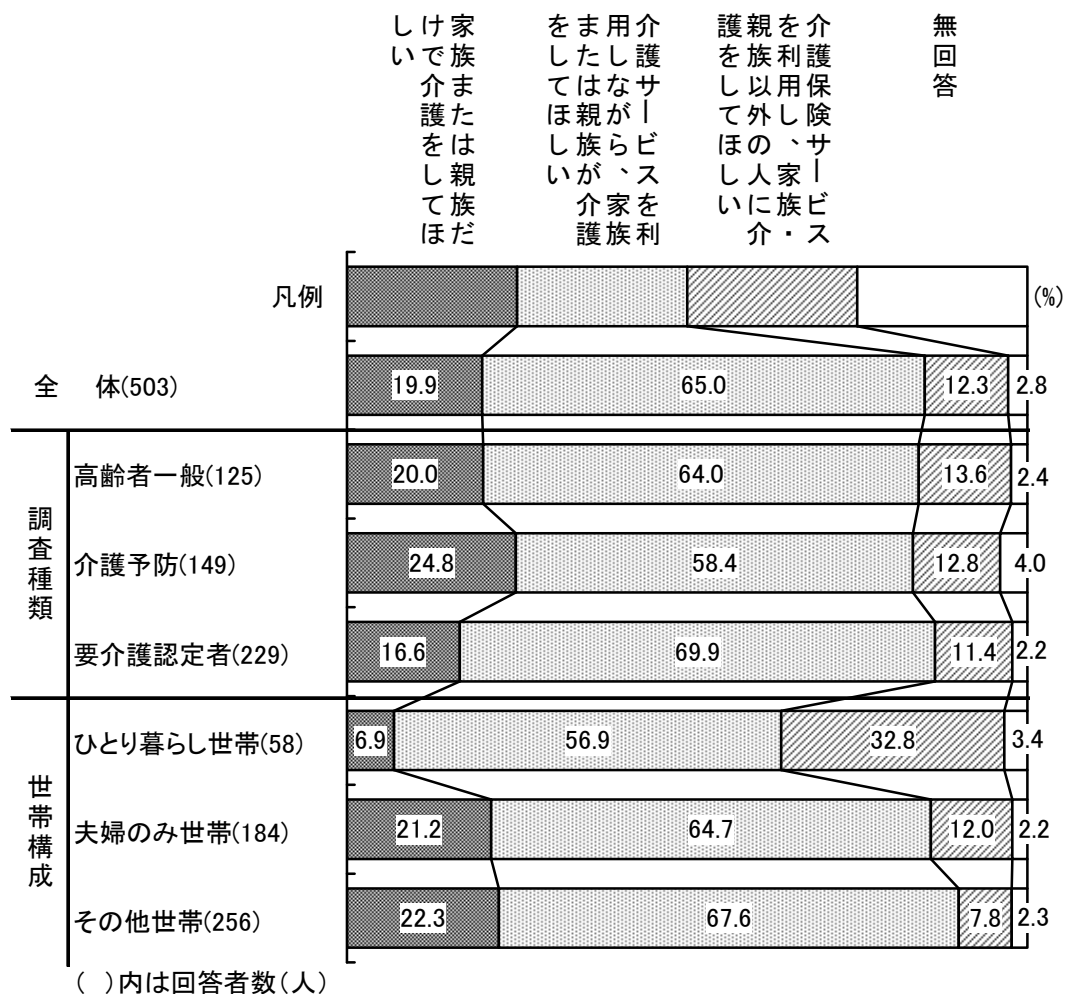
問23-1 問23で「1」と回答した方へ、介護を受けるとしたら誰に介護してほしいですか。
(もっとも近い考えひとつだけ○)

今後どこで介護を受けたいかで「自宅や親族の家など、在宅で暮らしたい」と回答した人に、今後だれから介護を受けたいかについてたずねたところ、全体でみると、「家族または親族だけで介護をしてほしい」が19.9%、「介護サービスを利用しながら、家族または親族が介護をしてほしい」が65.0%、「介護保険サービスを利用し、家族・親族以外の人に介護をしてほしい」が12.3%となっています。

調査種類別にみると、要介護認定者では「家族または親族だけで介護をしてほしい」が16.6%と低くなり、代わって、「介護サービスを利用しながら、家族または親族が介護をしてほしい」が69.9%と高くなっています。

世帯構成別にみると、ひとり暮らし世帯では「介護保険サービスを利用し、家族・親族以外の人に介護をしてほしい」が32.8%、一方、夫婦のみ世帯、その他世帯では「家族または親族だけで介護をしてほしい」が2割強とやや高くなっています。

図表2-20 自宅等の場合、今後だれから介護を受けたいか



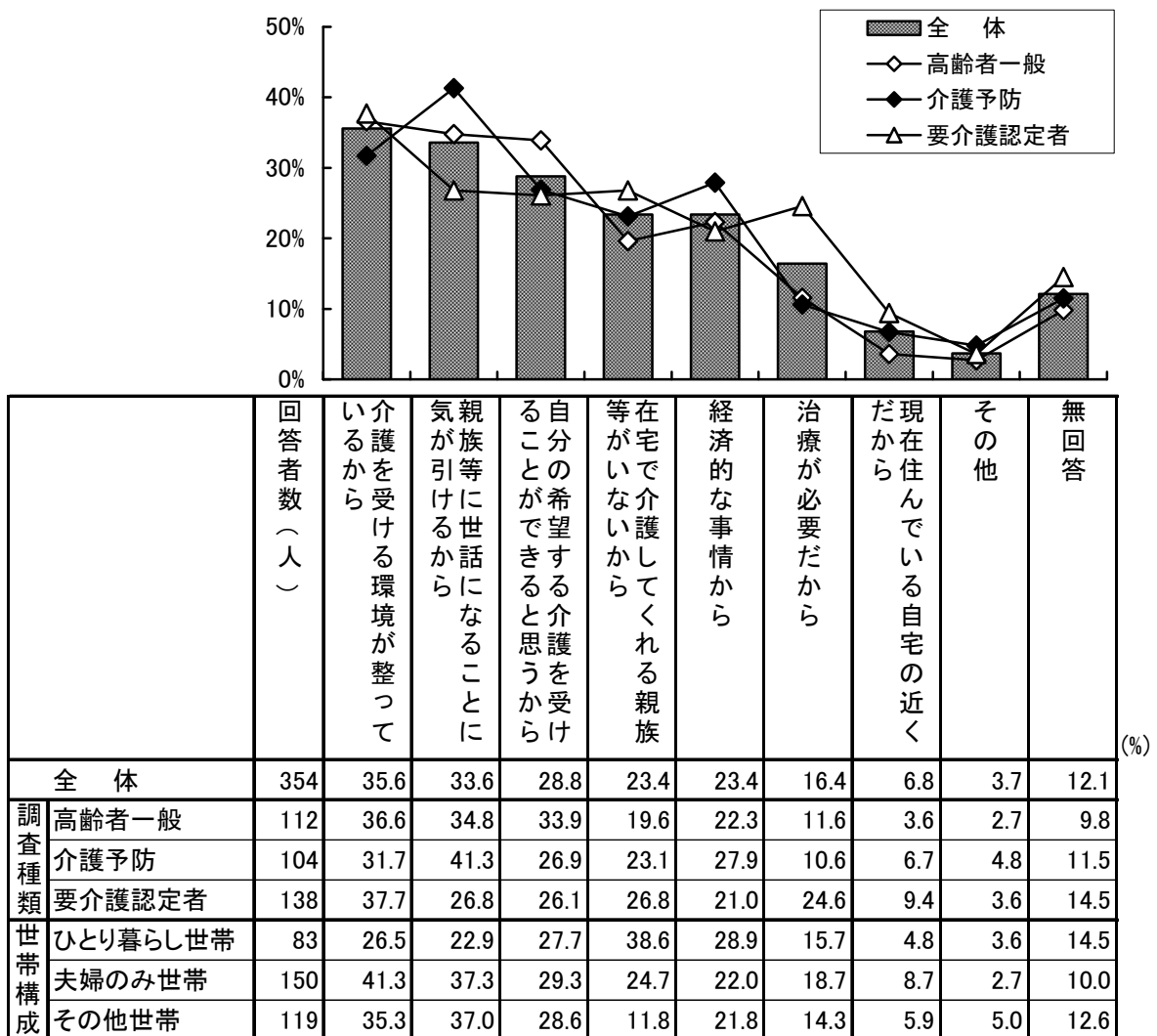
問23-2 問23で「2～7」と回答した方へ、その場所を選んだのは、どのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

今後どこで介護を受けたいかで「自宅や親族の家など、在宅で暮らしたい」以外と回答した人に、介護を受けたい場所を選んだ理由についてたずねたところ、全体でみると、「介護を受ける環境が整っているから」が35.6%と最も高くなっています。次いで、「親族等に世話になることに気が引けるから」が33.6%、「自分の希望する介護を受けることができると思うから」が28.8%、「在宅で介護してくれる親族等がないから」、「経済的な事情から」がそれぞれ23.4%などの順となっています。

調査種類別にみると、高齢者一般では「介護を受ける環境が整っているから」が36.6%、介護予防では「親族等に世話になることに気が引けるから」が41.1%と最も高くなっています。要介護認定者では「介護を受ける環境が整っているから」が37.7%と最も高いほか、「治療が必要だから」も24.6%とやや高くなっています。

世帯構成別にみると、ひとり暮らし世帯では「在宅で介護してくれる親族等がないから」が38.6%、夫婦のみ世帯では「介護を受ける環境が整っているから」が41.3%、その他世帯では「親族等に世話になることに気が引けるから」が37.0%と最も高くなっています。なお、ひとり暮らし世帯では、「経済的な事情から」が28.9%であり、2番目に高くなっています。

図表2-21 自宅等以外の場合、介護を受けたい場所を選んだ理由



問24 あなたは、人生の最期を迎える場所は、どこを希望していますか。(ひとつだけ○)

人生の最期を迎える場所で希望するところについてたずねたところ、全体でみると、「自宅」が50.3%と最も高く、過半数となっています。次いで、「病院」が17.1%、「施設」が4.7%となっています。なお、「わからない」が21.2%となっています。

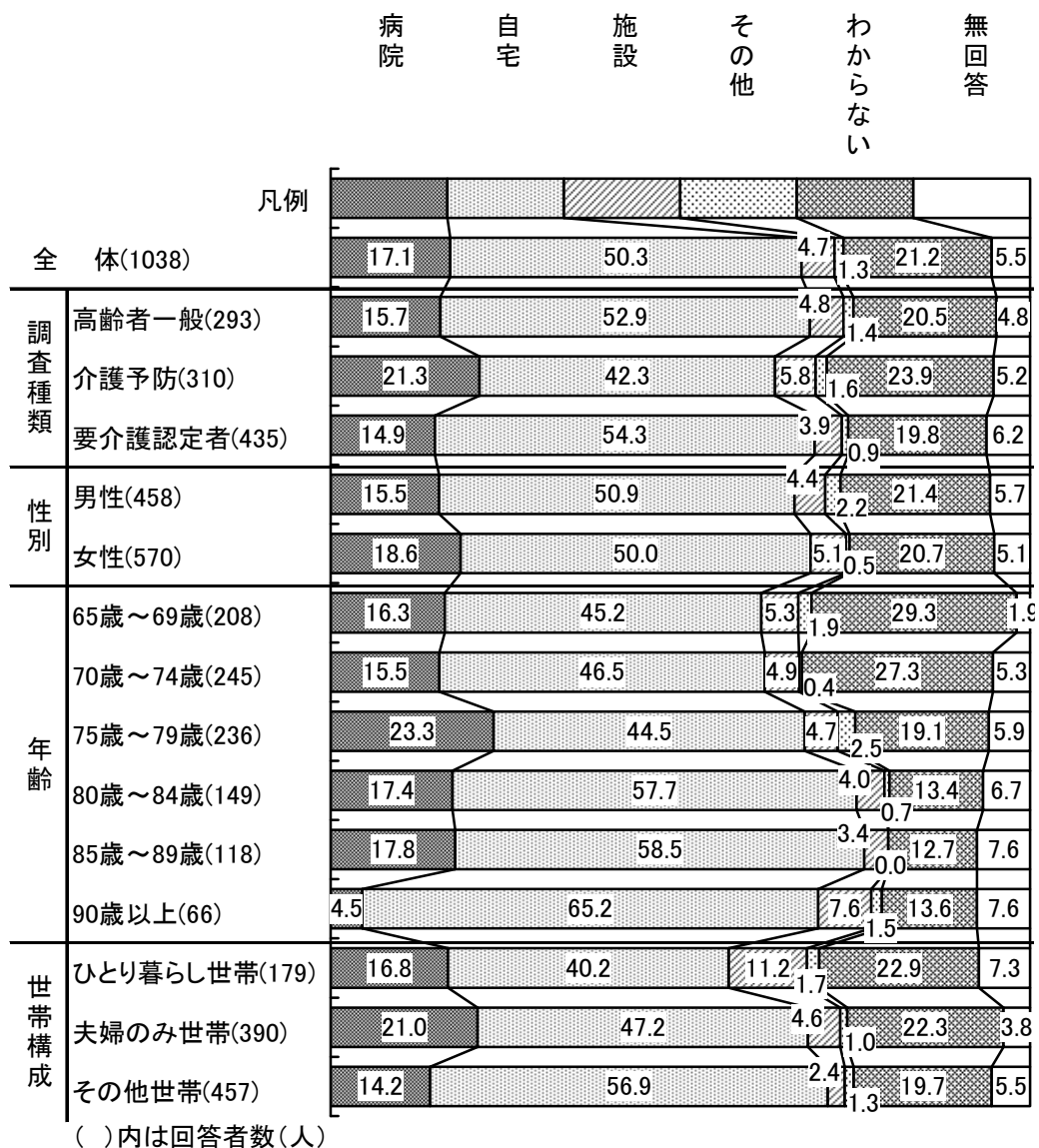
調査種類別にみると、いずれも「自宅」が4～5割程度と最も高くなっていますが、介護予防では「病院」が21.3%とやや高くなっています。

性別にみると、あまり大きな差は見られません。

年齢別にみると、80歳代では「自宅」が6割弱と高く、90歳以上では約3分の2となっています。75～79歳では「病院」が23.3%とやや高くなっています。

世帯構成別にみると、ひとり暮らし世帯では「施設」が11.2%、夫婦のみでは「病院」が21.0%と、他の世帯構成に比べるとやや高くなっています。一方、その他世帯では、「自宅」が56.9%と高く、過半数となっています。

図表2-22 人生の最期を迎える場所で希望するところ

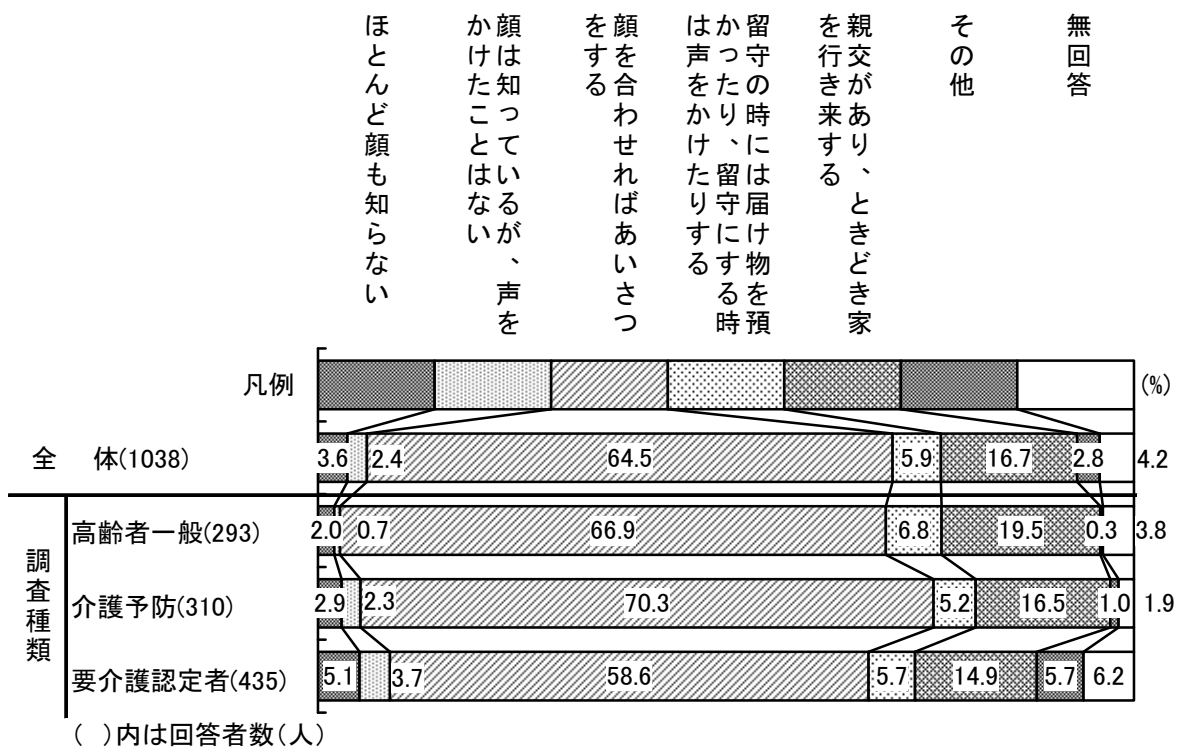


問25 あなたは、ご近所の人とどの程度のつきあいをしていますか。(ひとつだけ○)

近所の人とのつきあいの程度についてたずねたところ、全体でみると、「ほとんど顔も知らない」が3.6%、「顔は知っているが、声をかけたことはない」が2.4%、「顔を合わせればあいさつをする」が64.5%であり、つきあいの程度として比較的浅いものが、合わせて70.5%となっています。一方、「留守の時には届け物を預かったり、留守にする時は声をかけたりする」が5.9%、「親交があり、ときどき家を行き来する」が16.7%であり、つきあいの程度として比較的深いものは、合わせて22.6%となっています。

調査種類別にみると、「ほとんど顔も知らない」、「顔は知っているが、声をかけたことはない」は、高齢者一般、介護予防、要介護認定者の順で高くなっています。「顔を合わせればあいさつをする」は、要介護認定者では58.6%とやや低くなっています。

図表2-23 近所の人とのつきあいの程度

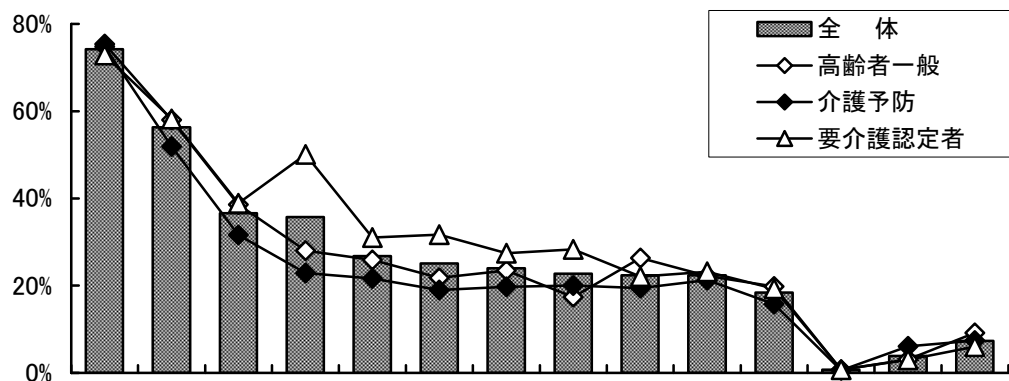


問26 あなたは、在宅で暮らし続けるために必要なことは、どのようなことであると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

在宅で暮らし続けるために必要と思うことについてたずねたところ、全体でみると、「住み続けられる住まいがある」が74.2%と最も高くなっています。次いで、「家族が同居している、または近くにいる」が56.3%、「身近に利用できる医療機関がある」が36.6%、「日中に訪問介護や通所サービスなど、普段から利用できる介護サービスがある」が35.7%などの順となっています。

調査種類別にみると、「住み続けられる住まいがある」、「家族が同居している、または近くにいる」、「身近に利用できる医療機関がある」は、高齢者一般、介護予防、要介護認定者であまり大きな差は見られません。一方、「日中に訪問介護や通所サービスなど、普段から利用できる介護サービスがある」、「自宅に医師が訪問して診療してくれる」、「必要に応じて、通ったり、宿泊することができるような介護サービスがある」、「介護者の入院など緊急時に入所可能な短期入所サービスが利用できる」、「入浴のみ、食事のみ、リハビリのみなど、短時間の通所サービスが受けられる」は、要介護認定者でやや高くなっています。

図表2-24 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと



	回答者数(人)	住み続けられる住まいがある	家族が同居している、または近くにいる	身近に利用できる医療機関がある	日中に訪問介護や通所サービスなど、普段から利用できる介護サービスがある	自宅に医師が訪問して診療してくれる	必要に応じて、通ったり、宿泊することができるような介護サービスがある	介護者の入院など緊急時に入所可能な短期入所サービスが利用できる	入浴のみ、食事のみ、リハビリのみなど、短時間の通所サービスが受けられる	見守ってくれる友人・知人が近くにいる	夜間にも訪問介護や訪問看護など、訪問してくれる介護サービスがある	介護者の心身の負担を軽減するさまざまな支援がある	その他	わからない	無回答
全体	1,038	74.2	56.3	36.6	35.7	26.8	25.1	24.0	22.7	22.4	22.4	18.4	0.7	3.9	7.3
調査種類															
高齢者一般	293	75.4	58.0	38.6	28.0	25.9	21.8	23.5	17.4	26.3	22.2	19.8	0.7	3.1	9.2
介護予防	310	74.8	51.9	31.6	22.9	21.6	19.0	19.7	20.0	19.4	21.3	15.8	0.6	6.1	7.4
要介護認定者	435	72.9	58.2	38.9	50.1	31.0	31.7	27.4	28.3	22.1	23.2	19.3	0.7	3.0	6.0

(%)

性別にみると、すべての項目において、男性より女性のほうが高くなっています。

年齢別にみると、「住み続けられる住まいがある」は、どの年齢でも7割強と最も高くなっています。「日中に訪問介護や通所サービスなど、普段から利用できる介護サービスがある」、「必要に応じて、通ったり、宿泊することができるような介護サービスがある」、「入浴のみ、食事のみ、リハビリのみなど、短時間の通所サービスが受けられる」は、80歳以上で高くなっています。

世帯構成別にみると、ひとり暮らし世帯では、「住み続けられる住まいがある」、「家族が同居している、または近くにいる」は、他の世帯構成に比べると大幅に低くなっています。「必要に応じて、通ったり、宿泊することができるような介護サービスがある」は、夫婦のみ世帯、その他世帯でやや高くなっています。

図表2-25 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと
(性別、年齢別、世帯構成別)

		回答者数 (人)	住み続けられる 住まいがある	家族が同居して いる、または近 くにいます	身近に利用で きる医療機関が ある	日中に訪問介 護や通所サー ビスがある、普 段から利用できる	自宅に医師が 訪問して診療し てくれる	必要に応じて、 通ったり、宿泊 すること	介護者の入 院など緊急時に 入所可能な短 期入所サー ビスが利用できる	入浴のみ、食 事のみ、リハ ビリのみなど、 短時間の通所 サービスが受け られる	見守ってく れる友人・知 人が近くに いる	夜間にも訪 問介護や訪問 看護など、訪 問サービスが ある	介護者の心 身の負担を 軽減するさ まざまな支 援がある
	全 体	1,038	74.2	56.3	36.6	35.7	26.8	25.1	24.0	22.7	22.4	22.4	18.4
性 別	男性	458	72.5	54.6	36.2	32.1	20.1	21.4	21.6	18.6	16.6	19.2	16.4
	女性	570	76.3	57.7	37.4	39.1	32.3	28.6	26.3	26.3	27.5	25.1	20.2
年 齢	65歳～69歳	208	75.0	56.3	34.6	38.9	27.9	26.4	29.3	24.5	22.1	25.5	23.6
	70歳～74歳	245	75.1	53.5	37.1	27.3	25.3	23.7	22.0	20.8	19.2	20.0	18.0
	75歳～79歳	236	73.3	48.7	36.4	29.2	21.2	18.2	19.1	16.9	22.9	19.9	14.0
	80歳～84歳	149	77.9	59.1	38.3	44.3	29.5	31.5	26.2	25.5	24.8	24.2	21.5
	85歳～89歳	118	71.2	65.3	38.1	48.3	33.1	30.5	26.3	28.8	27.1	27.1	18.6
	90歳以上	66	75.8	72.7	33.3	47.0	33.3	31.8	28.8	28.8	21.2	18.2	15.2
世 帯 構 成	ひとり暮らし世帯	179	60.9	26.8	33.0	38.0	25.1	17.3	20.1	25.1	28.5	24.6	15.6
	夫婦のみ世帯	390	78.5	52.1	37.4	36.9	28.7	29.5	26.2	22.3	23.1	23.8	21.0
	その他世帯	457	77.2	72.0	38.1	34.8	26.3	25.2	24.3	22.8	20.1	20.6	17.7

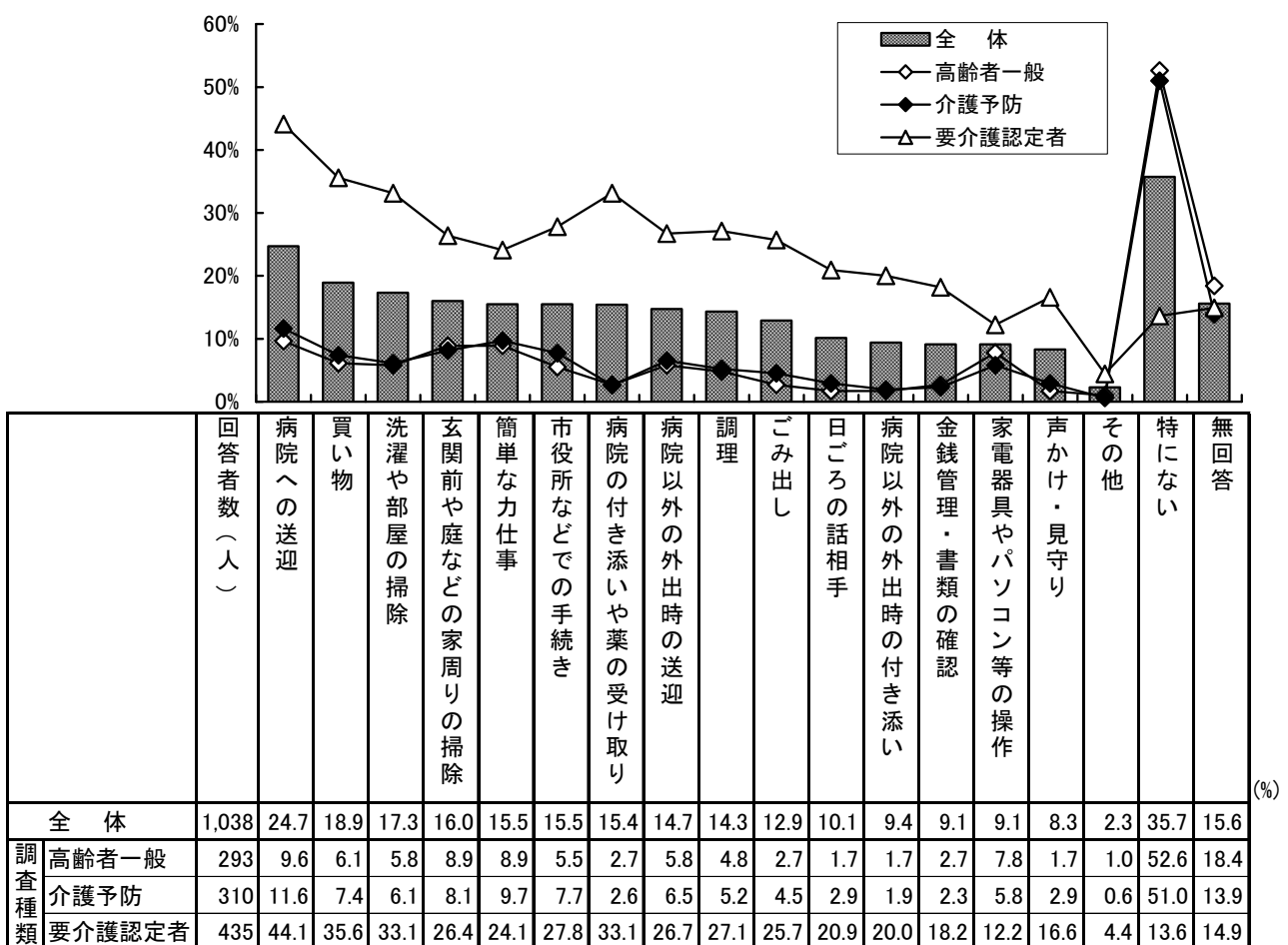
※「その他」、「わからない」、「無回答」は、表示を省略する。

問27 あなたは、普段の生活の中で手助けしてほしいことが何かありますか。
(あてはまるものすべてに○)

普段の生活の中で手助けしてほしいことについてたずねたところ、全体でみると、手助けしてほしいことがある中では、「病院への送迎」が24.7%と最も高くなっています。次いで、「買い物」が18.9%、「洗濯や部屋の掃除」が17.3%、「玄関前や庭などの家周りの掃除」が16.0%といった身の回りのことがやや高い値で続いています。なお、「特になし」が35.7%となっています。

調査種類別にみると、高齢者一般、介護予防では、ほとんど差が見られません。一方、要介護認定者は、他の2つに比べて手助けしてほしいことがあるすべての項目で高くなっており、その中でも、「病院への送迎」、「病院の付き添いや薬の受け取り」といった医療機関の受診、「買い物」、「洗濯や部屋の掃除」といった身の回りのことについては、3～4割強と高く、さまざまな手助けを求めていることがわかります。

図表2-26 普段の生活の中で手助けしてほしいこと



性別にみると、手助けしてほしいことがあるすべての項目で、男性より女性のほうが高くなっています。

年齢別にみると、おおむね年齢が高くなるにつれて各項目とも高くなっています。「病院への送迎」、「病院の付き添いや薬の受け取り」は、80歳以上では3～4割前後と高くなっています。「買い物」、「洗濯や部屋の掃除」といった身の回りのことは、85歳以上では3～4割と高くなっています。

世帯構成別にみると、ひとり暮らし世帯では、各項目とも他の世帯構成より高くなっています。

図表2-27 普段の生活の中で手助けしてほしいこと
(性別、年齢別、世帯構成別)

		回答者数(人)	病院への送迎	買い物	洗濯や部屋の掃除	玄関前や庭などの家周りの掃除	簡単な力仕事	市役所などでの手続き	病院の付き添いや薬の受け取り	病院以外の外出時の送迎	調理	ごみ出し	日ごろの話し相手	病院以外の外出時の付き添い	金銭管理・書類の確認	家電器具やパソコン等の操作	声かけ・見守り	その他	特にない	無回答
	全 体	1,038	24.7	18.9	17.3	16.0	15.5	15.5	15.4	14.7	14.3	12.9	10.1	9.4	9.1	9.1	8.3	2.3	35.7	15.6
性別	男性	458	17.2	12.7	15.5	12.4	11.1	9.4	10.5	7.9	11.8	8.1	5.5	5.2	5.9	6.1	4.4	1.3	45.6	14.6
	女性	570	30.7	23.9	18.8	18.8	19.1	20.4	19.3	20.4	16.3	16.8	14.0	12.8	11.6	11.4	11.6	3.2	28.1	15.6
年齢	65歳～69歳	208	9.1	6.7	10.6	12.5	11.1	6.3	4.8	7.7	9.6	6.3	2.9	5.3	4.3	5.3	2.4	1.4	58.7	11.5
	70歳～74歳	245	15.1	9.4	9.0	10.6	11.0	11.8	6.1	9.0	8.2	6.9	4.9	3.7	4.1	6.9	4.5	0.4	43.7	15.9
	75歳～79歳	236	27.1	16.9	11.4	13.6	14.0	14.4	9.3	13.6	8.5	8.5	7.6	5.9	8.1	7.6	6.8	1.7	32.6	16.1
	80歳～84歳	149	38.3	29.5	28.9	25.5	26.8	24.2	28.9	26.8	25.5	24.2	20.8	18.8	13.4	16.8	18.8	2.7	19.5	18.1
	85歳～89歳	118	43.2	41.5	36.4	24.6	21.2	23.7	35.6	23.7	24.6	24.6	19.5	18.6	18.6	11.9	13.6	6.8	15.3	12.7
	90歳以上	66	39.4	34.8	30.3	19.7	16.7	25.8	37.9	22.7	27.3	25.8	21.2	19.7	19.7	13.6	12.1	6.1	21.2	16.7
世帯構成	ひとり暮らし世帯	179	30.7	25.1	22.9	22.3	22.3	19.6	15.6	21.2	17.3	17.3	14.5	11.2	10.1	10.1	12.8	1.7	24.0	13.4
	夫婦のみ世帯	390	22.6	18.5	14.1	16.7	15.4	14.1	11.8	13.6	12.8	13.3	7.4	6.9	8.5	10.0	6.4	1.0	43.3	12.6
	その他世帯	457	24.5	17.1	18.2	13.1	13.1	15.3	18.6	13.6	14.4	11.2	10.9	11.2	9.4	8.1	8.3	3.7	34.1	17.7

(%)

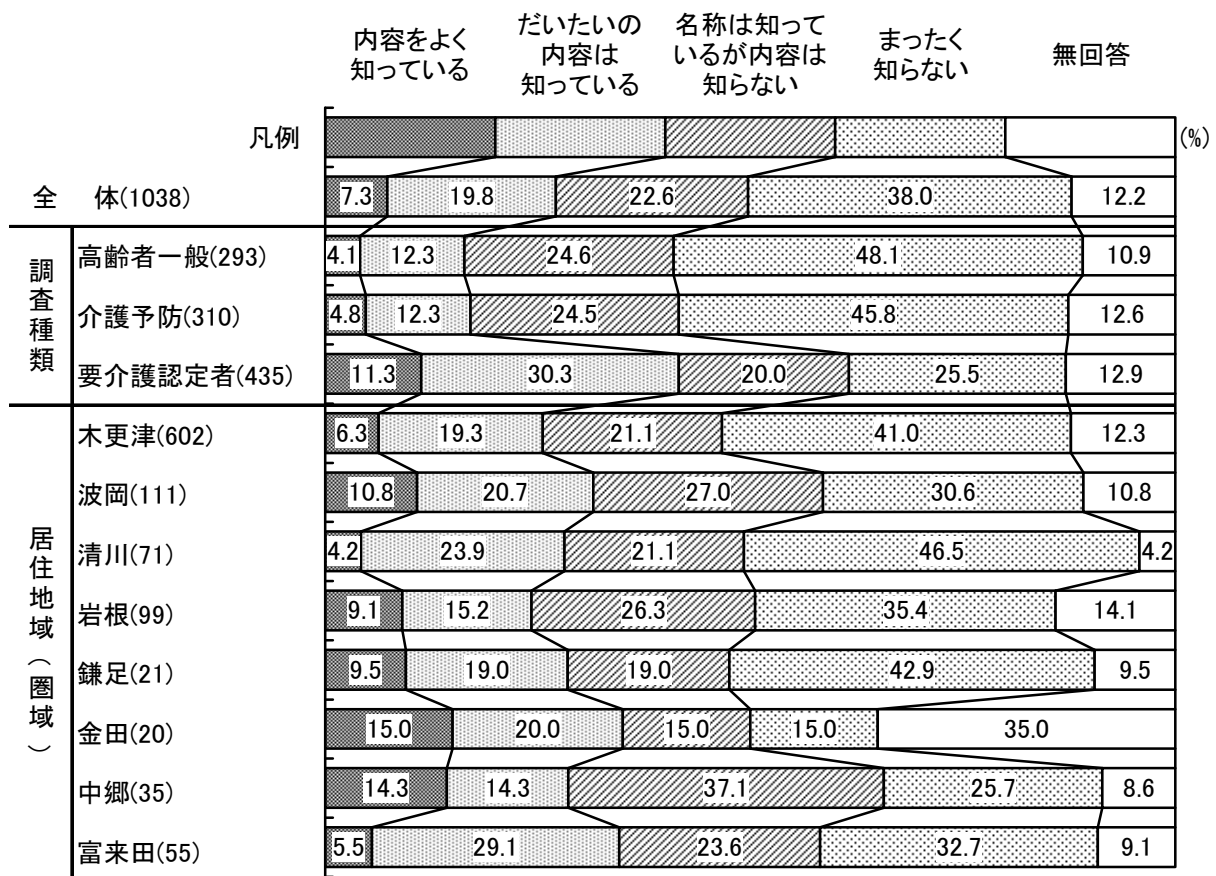
問28 あなたは、(1)地域包括支援センターを知っていますか。
(2)また、相談したことがありますか。(それぞれひとつだけ○)

地域包括支援センターの認知度についてたずねたところ、全体でみると、「内容をよく知っている」が7.3%、「だいたいの内容は知っている」が19.8%、「名称は知っているが内容は知らない」が22.6%であり、程度はともかくとして知っている人は合わせて49.7%と半数弱となっています。これに対して、「まったく知らない」が38.0%となっています。

調査種類別にみると、高齢者一般、介護予防よりも要介護認定者のほうが認知度は高くなっています。

居住地域（圏域）別にみると、波岡、金田、中郷では「内容をよく知っている」が1割強、また、中郷では「名称は知っているが内容は知らない」が4割弱となっています。木更津、清川、鎌足では、「まったく知らない」が4割強と他の地域より高くなっています。

図表2-28 地域包括支援センターの認知度



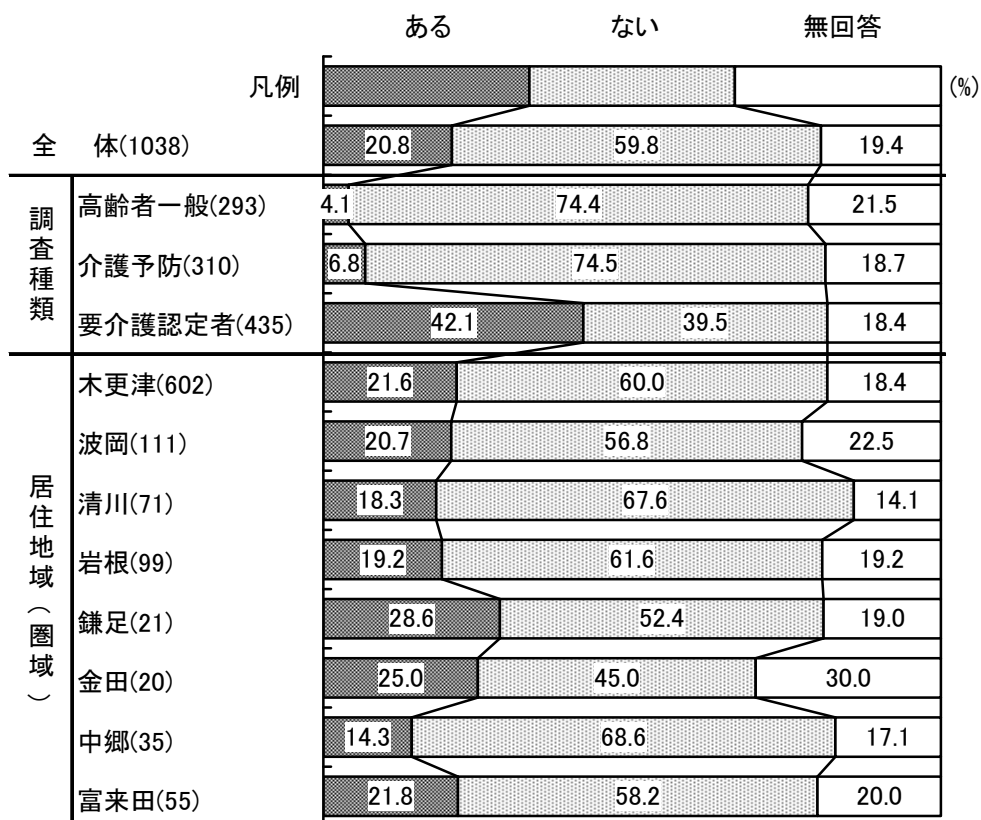
()内は回答者数(人)

地域包括支援センターへの相談の有無についてたずねたところ、全体でみると、「ある」が20.8%、「ない」が59.8%となっています。

調査種類別にみると、「ある」は、高齢者一般、介護予防では5%前後、これに対して、要介護認定者では42.1%となっています。

居住地域（圏域）別にみると、各地域とも「ある」は10%～20%台となっています。

図表2-29 地域包括支援センターへの相談の有無

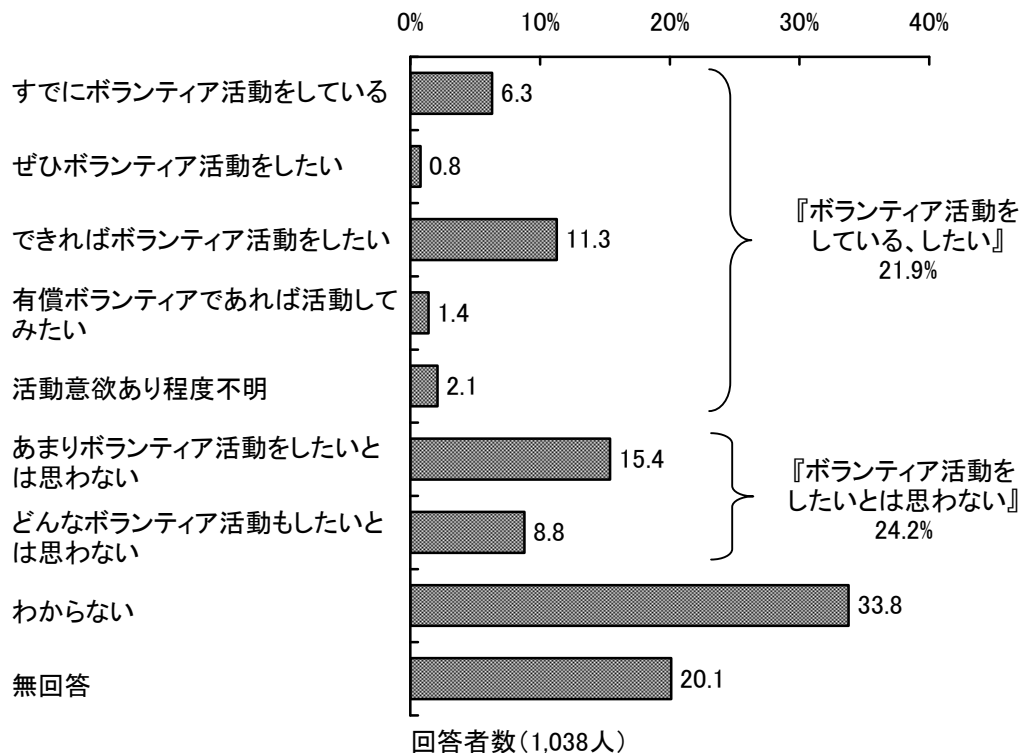


()内は回答者数(人)

問29 あなたは、お住まいの地域で何か他の人の手助け（ボランティア活動）をしたいと思いますか。（ひとつだけ○）

地域におけるボランティア活動の意向についてたずねたところ、全体でみると、『ボランティア活動をしている、したい』は21.9%であり、「すでにボランティア活動をしている」が6.3%、「できればボランティア活動をしたい」が11.3%などとなっています。これに対して、『ボランティア活動をしたいたとは思わない』は24.2%となっています。なお、「わからない」が33.8%と最も高く、無回答も20.1%となっています。

図表2-30 地域におけるボランティア活動の意向



調査種類別にみると、高齢者一般、介護予防はほぼ同じような傾向が見られ、『ボランティア活動をしている、したい』が3割弱となっています。これに対して、要介護認定者では1割強となっています。

性別にみると男性、年齢別にみるとおおむね年齢が低いほうが、『ボランティア活動をしている、したい』が高くなっています。

居住地域（圏域）別にみると、『ボランティア活動をしている、したい』は、波岡、清川で3割強と、他の地域より高くなっています。

図表2-31 地域におけるボランティア活動の意向
（調査種類別、性別、年齢別、居住地域別）

	回答者数（人）	すでにボランティア活動	ぜひボランティア活動を	できればボランティア活動	有償ボランティアであれば活動してみたい	活動意欲あり程度不明	あまりボランティア活動をしたくない	もしたくないとは思わない	わからない	無回答	『ボランティア活動をしている、したい』	『ボランティア活動をしたくない』
全 体	1,038	6.3	0.8	11.3	1.4	2.1	15.4	8.8	33.8	20.1	21.9	24.2
調査種類												
高齢者一般	293	10.2	1.7	13.3	2.0	1.7	20.1	6.5	25.9	18.4	28.9	26.6
介護予防	310	9.7	0.3	15.5	2.6	1.3	16.1	5.8	33.5	15.2	29.4	21.9
要介護認定者	435	1.1	0.5	6.9	0.2	3.0	11.7	12.4	39.3	24.8	11.7	24.1
性別												
男性	458	7.0	0.7	13.8	2.0	2.2	16.8	6.6	32.1	19.0	25.7	23.4
女性	570	5.6	0.9	9.3	1.1	2.1	14.6	10.5	35.3	20.7	19.0	25.1
年齢												
65歳～69歳	208	9.6	2.4	16.8	1.4	1.9	20.7	3.8	32.7	10.6	32.1	24.5
70歳～74歳	245	8.2	0.0	16.3	2.0	0.8	17.6	6.9	30.2	18.0	27.3	24.5
75歳～79歳	236	7.2	0.8	10.2	2.1	2.5	15.7	8.1	33.1	20.3	22.8	23.8
80歳～84歳	149	3.4	0.0	5.4	0.7	2.7	12.1	10.7	35.6	29.5	12.2	22.8
85歳～89歳	118	0.8	0.0	5.9	0.8	2.5	10.2	16.1	39.8	23.7	10.0	26.3
90歳以上	66	1.5	1.5	3.0	0.0	4.5	10.6	15.2	39.4	24.2	10.5	25.8
居住地域（圏域）												
木更津	602	6.1	0.8	11.5	1.2	1.8	15.4	7.8	34.6	20.8	21.4	23.2
波岡	111	10.8	1.8	16.2	2.7	1.8	13.5	4.5	34.2	14.4	33.3	18.0
清川	71	7.0	0.0	21.1	0.0	2.8	16.9	8.5	33.8	9.9	30.9	25.4
岩根	99	4.0	0.0	7.1	2.0	2.0	13.1	10.1	38.4	23.2	15.1	23.2
鎌足	21	9.5	0.0	9.5	0.0	0.0	19.0	14.3	33.3	14.3	19.0	33.3
金田	20	0.0	0.0	10.0	0.0	5.0	20.0	10.0	20.0	35.0	15.0	30.0
中郷	35	5.7	0.0	2.9	2.9	8.6	25.7	8.6	28.6	17.1	20.1	34.3
富来田	55	3.6	1.8	5.5	3.6	1.8	9.1	21.8	29.1	23.6	16.3	30.9

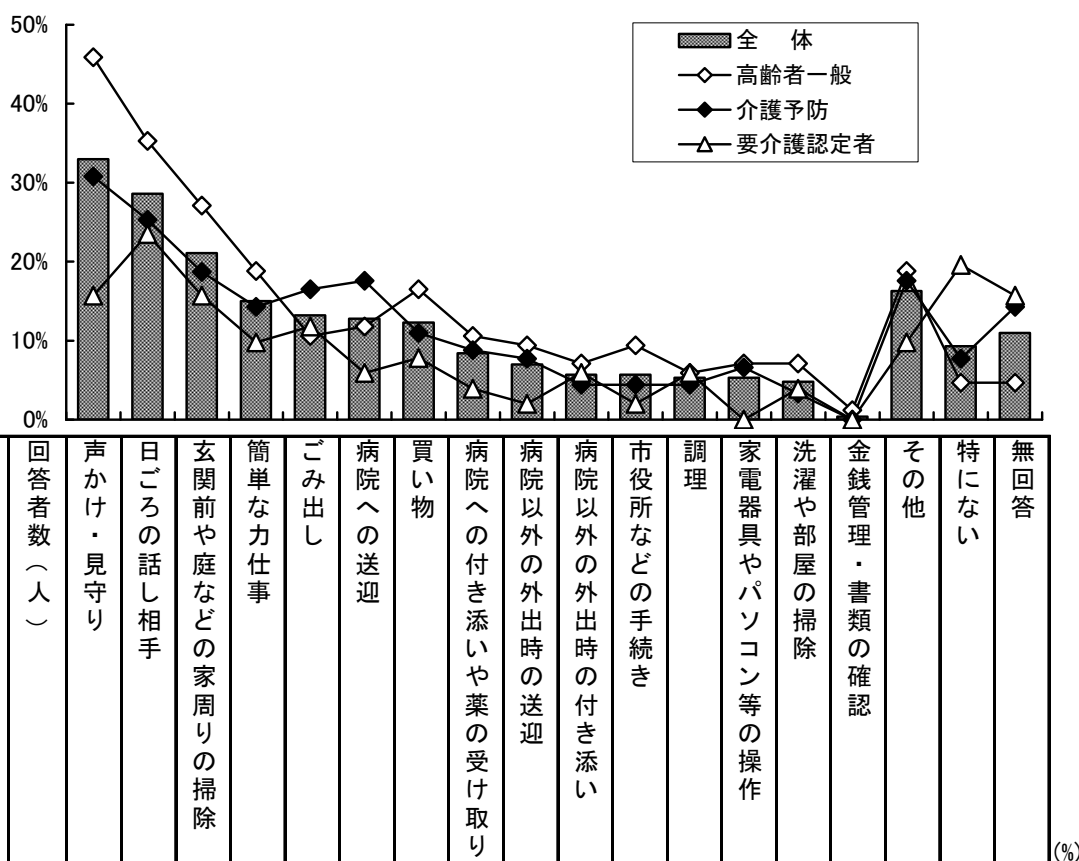
※『ボランティア活動をしている、したい』＝「すでにボランティア活動をしている」
～「有償ボランティアであれば活動してみたい」、「活動意欲あり程度不明」の合計
『ボランティア活動をしたくないとは思わない』
＝「あまりボランティア活動をしたくないとは思わない」＋「どんなボランティア活動もしたいとは思わない」

問29-1 問29で「1～4」「ボランティア活動をしている（したい）」と回答した方へ、どのようなボランティア活動をしていますか（したいですか）。（あてはまるものすべてに○）

「ボランティア活動をしている（したい）」と回答した人に、ボランティア活動の内容についてたずねたところ、全体でみると、「声かけ・見守り」が33.0%と最も高くなっています。次いで、「日ごろの話し相手」が28.6%、「玄関前や庭などの家周りの掃除」が21.1%、「簡単な力仕事」が15.0%などの順となっています。

調査種類別にみると、高齢者一般、介護予防では、「声かけ・見守り」が最も高く、次いで、「日ごろの話し相手」となっています。なお、介護予防では、「ごみ出し」、「病院への送迎」もやや高くなっています。要介護認定者では、「日ごろの話し相手」が最も高くなっています。

図表2-32 ボランティア活動の内容



	回答者数（人）	声かけ・見守り	日ごろの話し相手	玄関前や庭などの家周りの掃除	簡単な力仕事	ごみ出し	病院への送迎	買い物	病院への付き添いや薬の受け取り	病院以外の外出時の送迎	病院以外の外出時の付き添い	市役所などの手続き	調理	家電器具やパソコン等の操作	洗濯や部屋の掃除	金銭管理・書類の確認	その他	特にない	無回答
全体	227	33.0	28.6	21.1	15.0	13.2	12.8	12.3	8.4	7.0	5.7	5.7	5.3	5.3	4.8	0.4	16.3	9.3	11.0
調査種類																			
高齢者一般	85	45.9	35.3	27.1	18.8	10.6	11.8	16.5	10.6	9.4	7.1	9.4	5.9	7.1	7.1	1.2	18.8	4.7	4.7
介護予防	91	30.8	25.3	18.7	14.3	16.5	17.6	11.0	8.8	7.7	4.4	4.4	4.4	6.6	3.3	-	17.6	7.7	14.3
要介護認定者	51	15.7	23.5	15.7	9.8	11.8	5.9	7.8	3.9	2.0	5.9	2.0	5.9	-	3.9	-	9.8	19.6	15.7

性別にみると、男性は「玄関前や庭などの家周りの掃除」、「簡単な力仕事」、「病院への送迎」、「病院以外の外出時の送迎」、一方、女性は「声かけ・見守り」、「日ごろの話し相手」、「買い物」、「調理」が他方より高くなっています。

年齢別にみると、おおむね、年齢が低い方が、さまざまなボランティア活動の内容が高くなっています。
居住地域（圏域）別の表は参考表示です。

図表2-33 ボランティア活動の内容
（性別、年齢別、居住地域別）

		回答者数（人）	声かけ・見守り	日ごろの話し相手	玄関前や庭などの家周りの掃除	簡単な力仕事	ごみ出し	病院への送迎	買い物	病院への付き添いや薬の受け取り	病院以外の外出時の送迎	病院以外の外出時の付き添い	市役所などの手続き	調理	家電器具やパソコン等の操作	洗濯や部屋の掃除	金銭管理・書類の確認	その他	特にない	無回答
	全 体	227	33.0	28.6	21.1	15.0	13.2	12.8	12.3	8.4	7.0	5.7	5.7	5.3	5.3	4.8	0.4	16.3	9.3	11.0
性別	男性	117	29.1	19.7	23.1	22.2	10.3	17.9	9.4	9.4	12.0	6.8	7.7	0.9	10.3	1.7	—	14.5	12.0	7.7
	女性	108	37.0	38.9	19.4	7.4	16.7	7.4	15.7	7.4	1.9	4.6	3.7	10.2	—	8.3	0.9	18.5	6.5	13.9
年齢	65歳～69歳	67	41.8	29.9	29.9	23.9	19.4	16.4	16.4	10.4	7.5	9.0	6.0	9.0	10.4	10.4	1.5	17.9	6.0	6.0
	70歳～74歳	67	40.3	32.8	23.9	19.4	11.9	14.9	13.4	10.4	11.9	7.5	6.0	3.0	7.5	1.5	—	16.4	3.0	11.9
	75歳～79歳	54	18.5	25.9	14.8	1.9	7.4	9.3	7.4	5.6	1.9	—	3.7	1.9	—	1.9	—	16.7	18.5	11.1
	80歳～84歳	18	38.9	38.9	11.1	5.6	5.6	16.7	11.1	—	5.6	11.1	16.7	5.6	—	5.6	—	11.1	5.6	11.1
	85歳～89歳	12	25.0	8.3	8.3	16.7	16.7	—	8.3	8.3	8.3	—	—	8.3	—	8.3	—	8.3	8.3	33.3
	90歳以上	7	—	14.3	14.3	14.3	28.6	—	14.3	14.3	—	—	—	14.3	—	—	—	28.6	28.6	—
居住地域（圏域）	木更津	129	26.4	23.3	24.0	14.7	12.4	9.3	10.1	6.2	7.8	7.0	5.4	5.4	6.2	2.3	—	17.8	9.3	15.5
	波岡	37	51.4	43.2	16.2	16.2	18.9	21.6	21.6	18.9	5.4	8.1	8.1	8.1	8.1	13.5	2.7	18.9	5.4	—
	清川	22	36.4	40.9	22.7	9.1	4.5	9.1	—	4.5	9.1	—	4.5	—	—	—	—	22.7	9.1	4.5
	岩根	15	6.7	13.3	20.0	33.3	20.0	26.7	20.0	20.0	13.3	6.7	13.3	6.7	6.7	6.7	—	6.7	—	20.0
	鎌足	4	75.0	75.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	金田	3	33.3	—	33.3	33.3	—	—	33.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	33.3	—
	中郷	7	42.9	14.3	—	—	—	28.6	28.6	—	—	—	—	—	—	14.3	—	14.3	28.6	—
	富来田	9	66.7	44.4	22.2	11.1	33.3	11.1	11.1	—	—	—	—	11.1	—	11.1	—	—	22.2	—

(%)

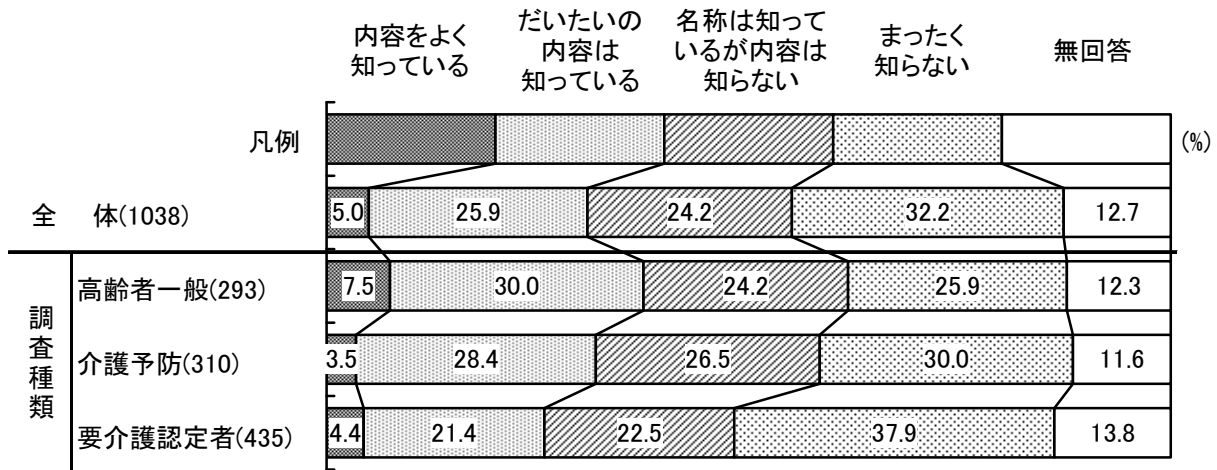
問30 あなたは、(1)成年後見制度を知っていますか。

(2) また、成年後見制度は今後自分に必要な制度であると思いますか。(それぞれひとつだけ○)

成年後見制度の認知度についてたずねたところ、全体でみると、「内容をよく知っている」が5.0%、「だいたいの内容は知っている」が25.9%、「名前は知っているが、内容は知らない」が24.2%であり、程度はともかく知っている人は合わせて55.1%となっています。これに対して、「まったく知らない」は32.2%となっています。

調査種類別にみると、高齢者一般、介護予防、要介護認定者の順に認知度が低くなっています。

図表2-34 成年後見制度の認知度



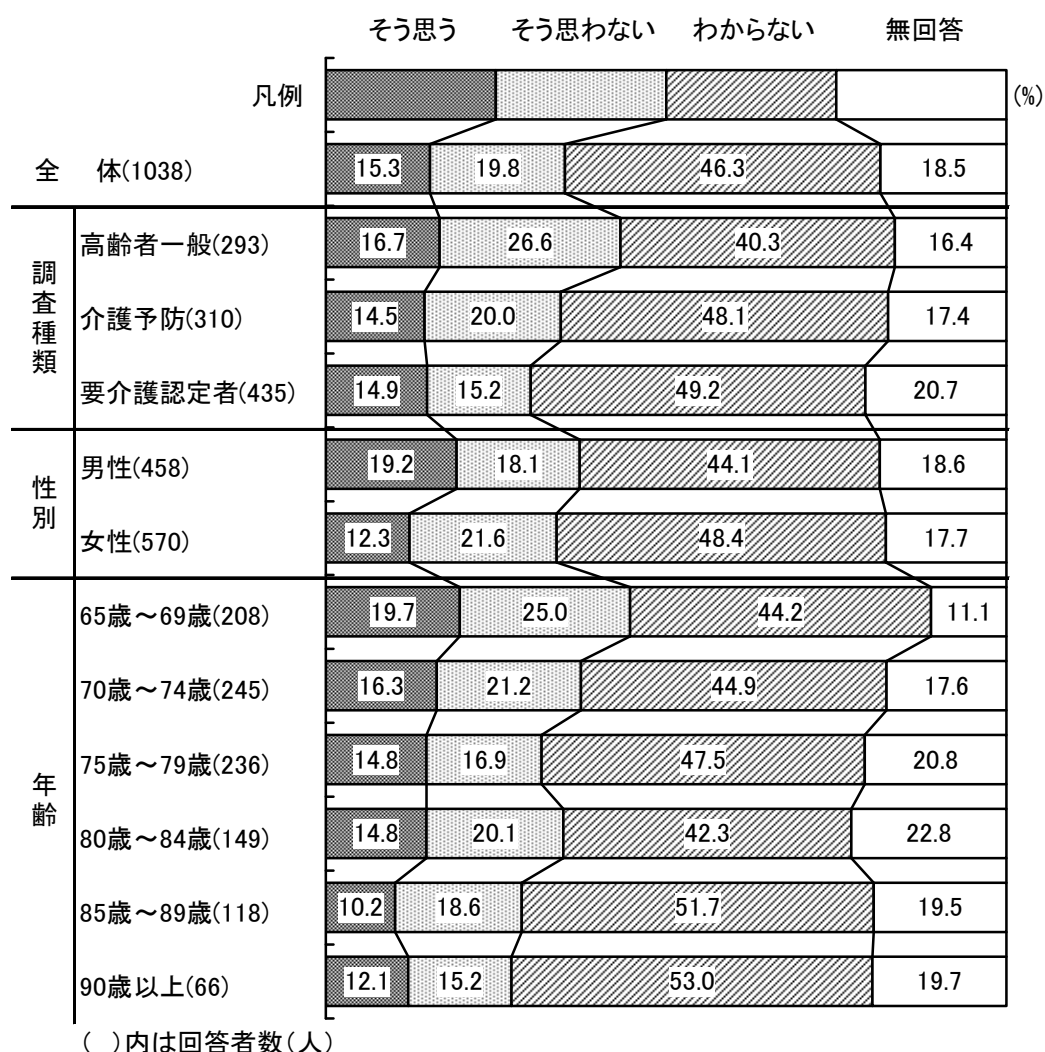
()内は回答者数(人)

次に、成年後見制度は自分に必要な制度と思うかについてたずねたところ、全体でみると、「そう思う」が15.3%、「そう思わない」が19.8%、「わからない」が46.3%となっています。

調査種類別にみると、高齢者一般、介護予防、要介護認定者の順に、「そう思わない」が低くなっています。

性別にみると男性、年齢別にみるとおおむね年齢が低いほうが、「そう思う」がやや高くなっています。

図表2-35 成年後見制度は自分に必要な制度と思うか



6 市の高齢者福祉施策について

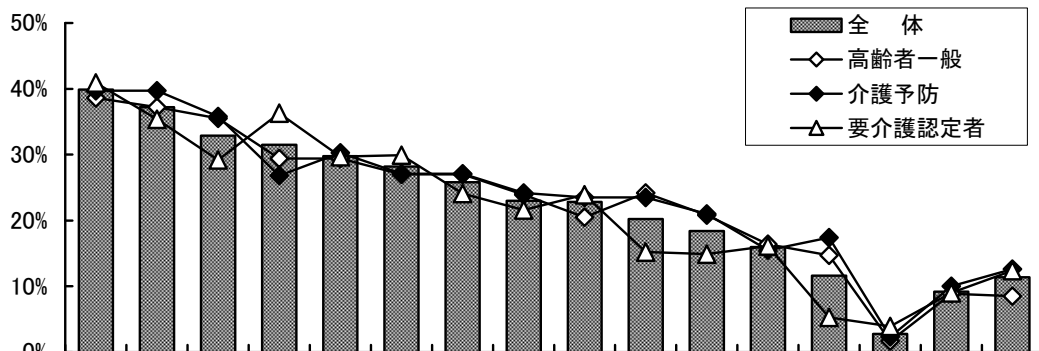
問3 1 あなたは、木更津市の高齢者福祉施策について、今後充実してほしいと思うことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

木更津市の高齢者福祉施策で充実してほしいと思うことについてたずねたところ、全体でみると、「介護する家族に対する支援」が39.9%と最も高くなっています。次いで、「介護を受けられる施設の整備」が37.2%、「申請や相談がしやすい窓口の設置」が32.9%、「介護保険や市の在宅介護サービス」が31.5%、「医療機関の整備など医療の充実」が29.8%などの順となっています。

調査種類別にみると、いずれの調査でも「介護する家族に対する支援」が4割前後で最も高くなっています。高齢者一般、介護予防はほぼ似たような傾向となっていますが、「申請や相談がしやすい窓口の設置」、「健康増進事業」「介護を予防するための事業」「高齢者の就労や社会参加の支援」が、要介護認定者より高く、一方、要介護認定者は「介護保険や市の在宅介護サービス」が高齢者一般、介護予防より高くなっています。

居住地域（圏域）別にみると、波岡、清川では全般的に高く、特に清川は「医療機関の整備など医療の充実」が54.9%と過半数となっています。中郷、富来田では、「判断能力が低下した場合の支援や高齢者の人権擁護」がやや高くなっています。

図表2-36 木更津市の高齢者福祉施策で充実してほしいと思うこと



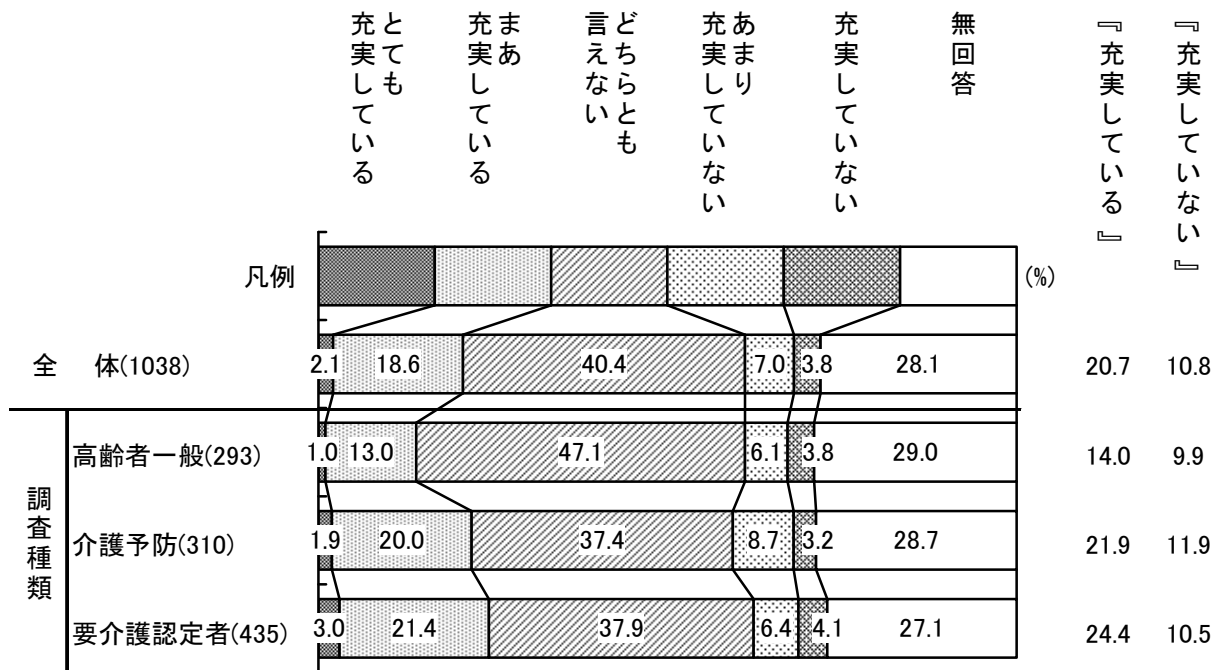
	回答者数（人）	介護する家族に対する支援	介護を受けられる施設の整備	申請や相談がしやすい窓口の設置	介護保険や市の在宅介護サービス	医療機関の整備など医療の充実	安全なまちづくり	段差解消や歩道の設置など	施策に関する情報提供	介護保険制度や市の高齢者など、地域の助けあい	定期的な見守りや安否確認など、地域の見守りや人権擁護の支援や高齢者の人権擁護	判断能力が低下した場合の健康増進事業	介護を予防するための事業	高齢者のための住宅施策	高齢者の就労や社会参加の支援	その他	特にない	無回答
全 体	1,038	39.9	37.2	32.9	31.5	29.8	28.2	25.8	23.0	22.8	20.2	18.4	16.0	11.6	2.8	9.2	11.4	
調査種類	高齢者一般	293	38.6	37.2	35.5	29.4	29.4	27.0	27.0	23.9	20.5	24.2	20.8	16.4	14.7	1.7	8.9	8.5
	介護予防	310	39.7	39.7	35.8	26.8	30.3	27.1	27.1	24.2	23.5	23.5	21.0	15.5	17.4	2.3	10.0	12.6
	要介護認定者	435	40.9	35.4	29.2	36.3	29.7	29.9	24.1	21.6	23.9	15.2	14.9	16.1	5.3	3.9	9.0	12.4
居住地域（圏域）	木更津	602	38.2	37.5	32.4	32.2	28.6	26.9	26.1	21.9	22.6	20.8	16.4	18.1	10.8	3.3	10.0	10.6
	波岡	111	45.0	42.3	36.0	29.7	35.1	35.1	31.5	23.4	29.7	19.8	25.2	13.5	20.7	0.9	8.1	8.1
	清川	71	46.5	42.3	46.5	40.8	54.9	43.7	35.2	35.2	28.2	28.2	28.2	22.5	14.1	4.2	4.2	7.0
	岩根	99	40.4	35.4	27.3	28.3	21.2	29.3	22.2	28.3	18.2	18.2	17.2	11.1	8.1	4.0	13.1	15.2
	鎌足	21	52.4	28.6	38.1	42.9	28.6	19.0	19.0	14.3	9.5	19.0	9.5	9.5	4.8	0.0	19.0	4.8
	金田	20	45.0	35.0	15.0	30.0	15.0	20.0	15.0	5.0	0.0	10.0	15.0	0.0	10.0	0.0	5.0	25.0
	中郷	35	37.1	28.6	34.3	22.9	20.0	22.9	14.3	22.9	28.6	28.6	11.4	14.3	2.9	0.0	0.0	8.6
	富来田	55	34.5	30.9	32.7	30.9	34.5	23.6	23.6	27.3	29.1	12.7	25.5	9.1	12.7	1.8	7.3	16.4

問 3 2 木更津市の高齢者福祉施策について、あなたはどのように感じますか。
(もっとも近い考えひとつだけ○)

木更津市の高齢者福祉施策の充実度についてたずねたところ、全体でみると、「とても充実している」が2.1%、「まあ充実している」が18.6%であり、合わせて『充実している』は20.7%となっています。一方、「あまり充実していない」が7.0%、「充実していない」が3.8%であり、合わせて『充実していない』は10.8%となっています。「どちらとも言えない」は40.4%となっています。

調査種類別にみると、『充実している』は、高齢者一般、介護予防、要介護認定者の順に高くなっており、介護の必要度が高い人ほど、市の高齢者福祉施策が『充実している』と感じていることがわかります。

図表2-37 木更津市の高齢者福祉施策の充実度



()内は回答者数(人)

※『充実している』=「とても充実している」+「まあ充実している」、
『充実していない』=「充実していない」+「あまり充実していない」

問32（続き） そのように感じている理由は何ですか

※そのように感じている理由【調査種別、性別、年齢、居住地区、世帯構成】

(1) とても充実している / (2) まあ充実している

介護予防事業に力を入れておられるところです。 【高齢者一般、女性、70歳～74歳、波岡、ひとり暮らし】
妻が2年3か月の病院生活、それ以外は在宅で介護のお世話になったから。 【介護予防、男性、75歳～79歳、木更津、子どもと同居】
緊急通報サービスの利用で、安心して生活ができる。 【要介護認定者、女性、75歳～79歳、木更津、ひとり暮らし】
担当者の親切・優しさが、行き届いている。 【要介護認定者、女性、85歳～89歳、木更津、子どもと孫と同居】
介護予防教室を実施したり、高齢者のための福祉や介護保健事業の見直し。 【高齢者一般、女性、70歳～74歳、岩根、子どもと同居】
介護施設が、だんだん増えている。【要介護認定者、女性、80歳～84歳、波岡、ひとり暮らし】
紙オムツの支給が、大変助かっている。 【要介護認定者、女性、85歳～89歳、波岡、子どもと同居】
デイサービスに行っていますが、とてもよくしていただいています。 【要介護認定者、女性、90歳以上、木更津、子どもと同居】
ホームヘルパーに、毎日来てもらっているから。 【要介護認定者、女性、90歳以上、岩根、ひとり暮らし】
木更津市内には、どの地区に行っても福祉の建物があるから。 【介護予防、男性、70歳～74歳、清川、夫婦ふたり暮らし】
公民館や老人福祉センター等の施設での活動。 【介護予防、男性、75歳～79歳、木更津、子どもと同居】
地域包括支援センターの方が、訪問または電話をくださり、心の支えになります。 【要介護認定者、女性、85歳～89歳、木更津、子どもと同居】
毎月、社会福祉の方が家に来て、いろいろと相談をしてくれていて、助かっています。 【要介護認定者、女性、85歳～89歳、木更津、子どもと同居】
国・県の介護保険制度に沿って、動いていると感じています。 【介護予防、女性、65歳～69歳、鎌足、ひとり暮らし】
健康診断の無料はありがたい。【高齢者一般、女性、75歳～79歳、木更津、子どもと同居】
主人の入院に際して、ケアマネジャーが親切な相談相手になってくださり、きめ細かく対応してもらって、大変ありがたかった。 【高齢者一般、女性、70歳～74歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】

(3) どちらとも言えない

高齢者が、高齢者を看るような状態ですので、もう少し安く診てくれる病院等、施設を増やして欲しいと思っています。【要介護認定者、女性、90歳以上、木更津、その他】
福祉施設を、もっと増やして欲しい。【介護予防、男性、70歳～74歳、金田、子どもと同居】
ショートステイを利用していますが、病院とショートステイの連携ができていないと思います。 【要介護認定者、女性、80歳～84歳、清川、子どもと孫と同居】
高齢者福祉施策のPRが不足している。 【介護予防、男性、75歳～79歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】

施設等は増えているようだが、内容や他の地域をよく知らない。 【要介護認定者、男性、85歳～89歳、木更津、子どもと孫と同居】
場所・日時・費用・申し込み方法等々不明で、参加していません。 【高齢者一般、男性、80歳～84歳、岩根、夫婦ふたり暮らし】
介護関係の公報を、それほど目にしない。 【高齢者一般、女性、65歳～69歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
自身が介護を含めて、その立場に接していないので、よくわかっていない。 【高齢者一般、男性、65歳～69歳、木更津、子どもと同居】
老々介護で、介護する側の老介護の負担軽減が不十分。 【介護予防・男性、70歳～74歳、波岡、子どもと同居】

(4) あまり充実していない / (5) 充実していない

〇〇ホームの人、ただ入れることばかり考えて不親切でした。デイサービスにも行きたくないと言っても休ませないで、よいことばかり言って連れて行き、何度、もう行きたくないと言ったのが可哀想でして。【高齢者一般、女性、75歳～79歳、波岡、ひとり暮らし】
高齢者のひとり暮らしの人が今後とも多くなる中で、介護施設が少なく、入所できない場合や利用料が高い等のことがある。【介護予防、男性、65歳～69歳、木更津、子どもと同居】
高齢者の外出時の交通機関の充実を図って欲しい。 【介護予防、女性、75歳～79歳、波岡、夫婦ふたり暮らし】
病院に通うのに足がなく、タクシーでは不便。 【要介護認定者、女性、80歳～84歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
公民館等、参加できるものが少ない。 【高齢者一般、女性、75歳～79歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
老人福祉施設が不足している。【要介護認定者、男性、90歳以上、波岡、子どもと同居】
施策の有無に対するアピールが足りない。 【高齢者一般、男性、65歳～69歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
高齢者が、自分で調べて行動していかないと、市からの働きかけはないと思う。家族のいない人、申請ができない人等に、もっと働きかけたり、チラシとかパンフレット・回覧板等を利用して、サービスの種類を、よくわかるように伝えていただきたい。 【高齢者一般、女性、65歳～69歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
文章だけの伝達で、実感がない。 【要介護認定者、女性、65歳～69歳、木更津、親と子どもと同居】
85歳になりますが、一度も健康に関する相談、安否確認等、来たことはありません。 【高齢者一般、男性、85歳～89歳、岩根、ひとり暮らし】
紙オムツ等、介護用品を、もう少しサービス（支給）できないか。 【要介護認定者、女性、65歳～69歳、清川、夫婦ふたり暮らし】
車椅子での生活者ですが、道路に段差あり、公民館の車椅子では利用できない。 【要介護認定者、女性、65歳～69歳、岩根、ひとり暮らし】
楽しく集える所がない。【高齢者一般、女性、70歳～74歳、木更津、ひとり暮らし】
情報を知ることがわからない。教えてくれる人、相談する人がいない。 【高齢者一般、女性、65歳～69歳、木更津、ひとり暮らし】
高い介護保険料を取られているのに、保険料の具体的な使用内容、活動内容が見えてこない。 【介護予防、男性、75歳～79歳、波岡、夫婦ふたり暮らし】

問 3 3 木更津市の高齢者福祉施策へのご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

※意見・要望の回答内容【調査種別、性別、年齢、居住地区、世帯構成】

(1) 健康づくり・介護予防

私は腰痛・首肩痛で、長いこと整形外科に通いました。その後、運動が大切と思って、市主催の太極拳・気功の講座に参加して、体調がよくなりました。高齢になることは、ある程度、努力して積極的に取り組まないと、身体の機能が弱っていくと感じています。これからも自分のことは自分でできるよう、努力していきます。 【高齢者一般、男性、70歳～74歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
介護予防教室に参加してみて、本当によい企画だと思った。今後も回数を多くしていくと、多数の人が勉強できるだろう。続けてください。 【高齢者一般、男性、75歳～79歳、清川、子どもと同居】
運動機能を維持・強化するトレーニングセンターの整備。 【高齢者一般、男性、80歳～84歳、岩根、夫婦ふたり暮らし】
低料金で、明るく気軽に入れる、木更津市独自の健康施設ができるとよいと思います。 【高齢者一般、女性、70歳～74歳、木更津、子どもと孫と同居】
公民館で自立支援体操に週 1 回行っております。もう 1 回、週 2 回位にしていだけたらと思っております。体操をしていると、気持ちも身体も軽くなります。 【高齢者一般、女性、75歳～79歳、清川、夫婦ふたり暮らし】

(2) 医療・病院

私が我慢して夫の世話をしましたが。2月に亡くなりました。自宅に、月 1 回でも訪問してくださる医師がいる専門病院が在ってもよいと思います。 【高齢者一般、女性、75歳～79歳、波岡、ひとり暮らし】
在宅医療について、なるべく希望者が受けられるだけの医療機関が欲しい。 【介護予防、女性、70歳～74歳、木更津、親と子どもと同居】
認知症でも病気のときに入院できる病院があると、よいと思います。「認知症がある方は家族の付き添いが必要だ」と言われました。私の仕事があるので、病院の付き添いはできません。 【要介護認定者、女性、80歳～84歳、清川、子どもと孫と同居】

(3) 介護サービス

軽度者の介護を、介護保険から市等へ移行させる施策には猛反対です。 【高齢者一般、男性、65歳～69歳、波岡、子どもと同居】
高齢者の訪問介護を充実していただきたい。 【高齢者一般、男性、70歳～74歳、富来田、夫婦ふたり暮らし】
福祉施設へ夫婦そろってお世話になりたい希望があります。他人様に迷惑を掛けたくない気持ちでいっぱいです。【高齢者一般、男性、80歳～84歳、木更津、子どもと孫と同居】
介護を受けられる施設の一層の整備・充実と、さらに多くの施設の増加建設をお願いしたいと思います。【高齢者一般、女性、70歳～74歳、波岡、夫婦ふたり暮らし】
ひとり暮らしの人が生活できなくなったとき、速やかに入所できる施設が多くあり、安く入れる所があればよいと思う。【高齢者一般、女性、70歳～74歳、清川、ひとり暮らし】
最期の看取りは、介護サービスにお世話になりたいと思う。体験から介護する方が体調を壊し、長い間かかりました。老々介護は、とても体力が要りました。 【介護予防、女性、75歳～79歳、富来田、親と子どもと同居】

ときには介護している者が骨休めのため、ショートへ1泊2日でよいからと思っても、受け入れてくれる所がなく、私が元気なときはよいけれど、突発的に入院とかしたらどうしようと、何時も考えています。小規模多機能型居宅介護施設みたいな施設があまりなく、金額もすごく高いです。予約のできる施設を、ぜひ造ってください。 【要介護認定者、男性、65歳～69歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
高齢者の足腰の痛い人が買い物に行く場合、介護タクシー等で行けるようにして欲しい。ホームヘルパーと一緒にできたらよいと思う。 【要介護認定者、男性、75歳～79歳、岩根、夫婦ふたり暮らし】
在宅介護サービスの充実。ホームヘルパーの質の向上。なるべくすべてのホームヘルパーが、同質のサービスができたらよい。 【要介護認定者、女性、65歳～69歳、清川、夫婦ふたり暮らし】
ケアマネジャーとの接点が月に一度しかなく、玄関での10分足らずの会話と事務手続きのみで、十分な意思疎通が図れない状況が長く続いており、不満かつ不安である。要介護者に会わずに帰ることもしばしば。コミュニケーション能力、知識や情報提供能力も不足している方に、今後も「形式上のみ」の世話になるのは心が痛むことしきり。 【要介護認定者、女性、75歳～79歳、木更津、子どもと孫と同居】
小規模多機能型居宅介護施設に通所・宿泊していますが、家族的雰囲気の中で、一人一人に声の届く介護をしてもらっています。今後、このような小規模な施設を増やして欲しいと思います。【要介護認定者、女性、85歳～89歳、波岡、子どもと同居】

(4) 生活支援サービス

買い物に行けない人に、車による移動販売の業者を増やす等、PRをお願いします。 【介護予防、男性、65歳～69歳、木更津、子どもと同居】
これから高齢者が多くなり、買い物難民も増え、一団地に小さくてもよいから、スーパーらしきものがあってもよいのではないかと、常に思っております。 【介護予防、女性、75歳～79歳、波岡、夫婦ふたり暮らし】

(5) 住宅、まちづくり、公園、交通

高齢者のひとり暮らしを支援する宿舎を整備し、できることなら、夜はその宿舎で宿泊できることが望ましいと思います。動ける人は、昼間は家に帰って自分のことをしたらよい。 【高齢者一般、男性、70歳～74歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
車が運転できなくなったときの足（交通）の確保。 【高齢者一般、男性、70歳～74歳、波岡、夫婦ふたり暮らし】
高齢者が安全なまちづくりが優先課題だと、常に感じています。高齢者が安全に外出できるような交通規則等、整備し直す必要があると思う。設備や規則づくりも大切だが、市民教育も大切である。【高齢者一般、男性、80歳～84歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
市民会館の土日の催し等に行きたいとき、バス送迎がないこと。老人福祉センター行きのバス送迎がないこと。【高齢者一般、女性、70歳～74歳、木更津、ひとり暮らし】
車椅子を使用するようになったときを考えると、歩道は凸凹で絶対に通れない。他の人を乗せた経験からそう思った。改善を願う。災害時、指定された避難所が安全かどうか危ぶまれる。 【高齢者一般、女性、75歳～79歳、木更津、子どもと同居】
一人住まいなので、今後、高齢になったとき、アパートの契約の更新を拒否されると思うので、高齢者用の住宅を充実して欲しい。【介護予防、男性、65歳～69歳、木更津、ひとり暮らし】
高齢者が一人でも生活できる住宅環境が必要である。特に近くに生活に必要な買物ができるのがよい。【介護予防、男性、75歳～79歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
車での行動が中心のライフスタイルから、歩いたり、バス等での行動ができるような町になるとよいと思います。歩いている人がいないので淋しいです。歩くことで健康にもなるし、予防にもなると思います。【介護予防、女性、65歳～69歳、木更津、子どもと同居】

今はまだ自分で歩き、病院等に行けますが、年々、年齢とともにできなくなったとき、木更津駅、病院等に通える巡回バスがあるとよい。 【介護予防、女性、75歳～79歳、木更津、子どもと同居】
自家用車がない者にとって、市内循環バスを網羅して、市役所等の公的機関及び主要なスーパーの買い物に利用できるようにして欲しい。 【要介護認定者、女性、80歳～84歳、波岡、夫婦ふたり暮らし】
いきいき館のような体力養成設備の完備を願う。市内交通の整備（バス等）や高齢者がフリーに行動できる交通の便を図ってもらいたい。 【高齢者一般、男性、70歳～74歳、波岡、ひとり暮らし】
各地区に、高齢者の多目的運動広場を要望します。 【高齢者一般、女性、75歳～79歳、木更津、子どもと同居】

(6) 地域・コミュニティ

町内の空き家を市役所で買い上げて、町内会とは別の団体に貸してください。用途は、談話室、湯呑み所、鍵っ子の下校後の相手、町内カフェ。 【高齢者一般、男性、80歳～84歳、岩根、夫婦ふたり暮らし】
高齢者でも公民館を利用できる人はよいのですが、歩くのも大変になってきますと、町内の集会所を利用した交流があれば、老人同士声をかけあったりして、身近な生活、自力で生活できるか考えたり、健康で楽しみもできるかと思うのですが。 【高齢者一般、女性、70歳～74歳、木更津、子どもと同居】
高齢者社会に向かい、身近な自治会を介護サービスの機関として利用、充実を図るべきです。老々介護が多くなってきている現状の分析と対策は、急速な高齢者社会とともに、市のためすべき急務です。【介護予防、男性、70歳～74歳、波岡、子どもと同居】
一人住まいや老人が多くなってきているが、声かけや見回りするサービスが少ないように思える。空き家への対応も欲しい。【介護予防、男性、70歳～74歳、波岡、子どもと孫と同居】
自分で考えると、近くで運動をしたり話ができるよう、お茶の道具や場所があるとうれしいと思います。そういう情報が、大きく知らされるとうれしいです。 【介護予防、女性、65歳～69歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】

(7) 就労、社会参加、生きがい

現役引退後、いかに自分の身体を管理するか、何をしようが自由の身です。老後を楽しく生きるため、福祉に甘えず、運動・趣味等に。自分の身体は自分で守る。介護の支援を受けないで済むような、自力の生活を送りたい。町内に、老人が何時でも自由に集まれる場所が欲しい。 【高齢者一般、男性、80歳～84歳、波岡、子どもと同居】
市の自立体操を、公民館でお世話になって助かっています。市内で参加できるウォーキング、バス旅行、集まり等を希望します。【高齢者一般、女性、65歳～69歳、木更津、ひとり暮らし】
老人福祉センターで、月1回、老人会の集まりがあるのですが、1日カラオケで終わってしまいます。介護予防教室等、実施できたら、もっと生き活きた生活が送れると思います。 【高齢者一般、女性、70歳～74歳、岩根、子どもと同居】
元気な高齢者が、楽しめる所が欲しい。お風呂、体操、お部屋で話のできる所。 【介護予防、女性、75歳～79歳、木更津、子どもと同居】
高齢者に雇用の機会を与えて欲しい。毎日ではなく、週何日として多くの人を雇用し、月2～3万円の収入でよい。【高齢者一般、男性、65歳～69歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】

(8) 情報提供、相談

当市の福祉施策がどんなものか、何をしているのか全然見えない。自分に今、必要ないから目が行かないのかもしれないが、もっと積極的にPRするべきだと思う。 【高齢者一般、男性、65歳～69歳、清川、夫婦ふたり暮らし】
何かあったとき、申請や相談に行けない高齢者がいると思います。そういうことを詳しく知らせていただきたいです。【高齢者一般、女性、65歳～69歳、岩根、子どもと同居】
「高齢者福祉施策」に対して、PR不足ではありませんか。市報及び公民館等で掲示、説明していると思われますが、なかなか目が行き届きません。もう少しわかりやすい資料で、誰でもわかる資料やPR（説明）願えれば幸いです。 【介護予防、男性、70歳～74歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
木更津市が行っている介護予防事業の内容も全く知らずにいたのは、私の無関心ばかりではなく、市の経済的意向があったのではないかと思うってしまうほど、目に付くところにはなかった。もっと市民が利用しやすく、幅を広げて、料金は安く、理解しやすく、広報の中にまとめて、高齢者福祉事業として、レジュメパンフレットとして入れてください。 【介護予防、女性、65歳～69歳、波岡、子どもと同居】
介護保険利用方法を知らない高齢者が多くいます。市役所（高齢者福祉課）の窓口相談に行かれない方もいます。地域の民生委員等の充実が必要と感じます。 【介護予防、女性、65歳～69歳、鎌足、ひとり暮らし】
高齢者が見て理解できるような、福祉面でのガイドブック等、作成していただければ助かります。【介護予防、女性、70歳～74歳、波岡、子どもと孫と同居】
木更津市内にいくつかの施設があるわけですが、その施設の名称・場所・費用等、細かいことについて比べて、何所が自分に合っているかを調べることができる資料等、あると助かると思います。直ぐにでも送っていただけたらと思います。 【要介護認定者、男性、80歳～84歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
地域包括支援センターが、高齢者に浸透していない。また、市から業務を委託されていることなど、知っている人は少ない。もっとアピールをしたほうがよいと思う。 【要介護認定者、男性、70歳～74歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
社会福祉士が中心となり、地区毎に見回りや声掛け運動を活発にすべきと思います。 【高齢者一般、男性、80歳～84歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】

(9) 市の高齢者福祉施策

高齢化はますます進みます。高齢者が、安心して地域で住み続けられるような、高齢者福祉の施策を充実させてください。【高齢者一般、男性、75歳～79歳、波岡、夫婦ふたり暮らし】
高齢者を弱者という一面だけをとらえて語られることが多いように思う。これでは自立・自助努力の考えを削ぎ、依頼心の助長になるだけと思う。高齢者の背中を押す、多目的・具体的な行動力が肝要と考える。各人の状態に応じた、ほんの少しの助言・手助けが、自立の一步になると思う。私事ですが、週3日、30分～1時間程、散歩しています。怠けると妻のきつい助言があり、続いています。お酒と食事が楽しく美味しい。 【高齢者一般、男性、80歳～84歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
年金も減り、医療費も高くなり、高齢者の生活がしにくくなる社会になってきている。いろいろ不自由になるなか、心細い限りです。今までの社会を支えた私たちに、安心して生活できる取り組みをしてください。【高齢者一般、女性、75歳～79歳、清川、ひとり暮らし】
現在は介護なしで暮らしていますが、年々、体力が衰えて不安です。高齢者福祉施策が充実して欲しいです。【介護予防、女性、75歳～79歳、富来田、夫婦ふたり暮らし】
在宅介護で、家族が仕事等を犠牲にして看ている場合の金銭的な支援ができるような施策があれば、家族が気持ちよく介護を引き受けるのではないかと。 【介護予防、女性、70歳～74歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】

7 介護サービスについて

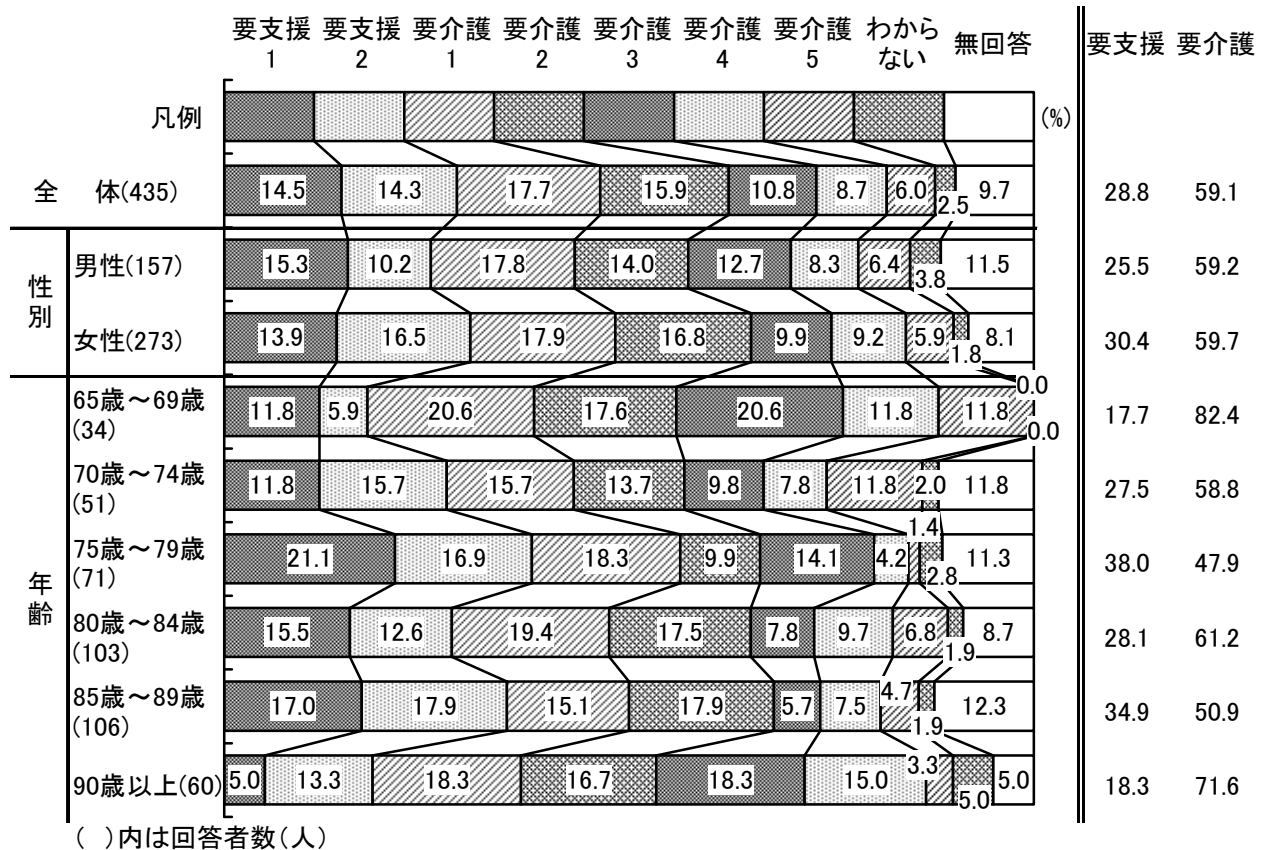
問34 あなたの要介護度は、次のうちどれに当てはまりますか。(ひとつだけ○)

要介護度についてたずねたところ、全体でみると、「要支援」が合わせて28.8%、「要介護」が合わせて59.1%（「要介護1～2」が合わせて33.6%、「要介護3～5」が合わせて25.5%）となっています。

性別にみると、女性は要支援がやや高くなっています。

年齢別にみると、70～89歳では、「要支援」が3割弱～4割弱と高く、特に75～79歳では、「要支援1」が21.1%となっています。65～69歳、90歳以上では、「要介護」が7～8割程度と高くなっています。

図表2-38 要介護度



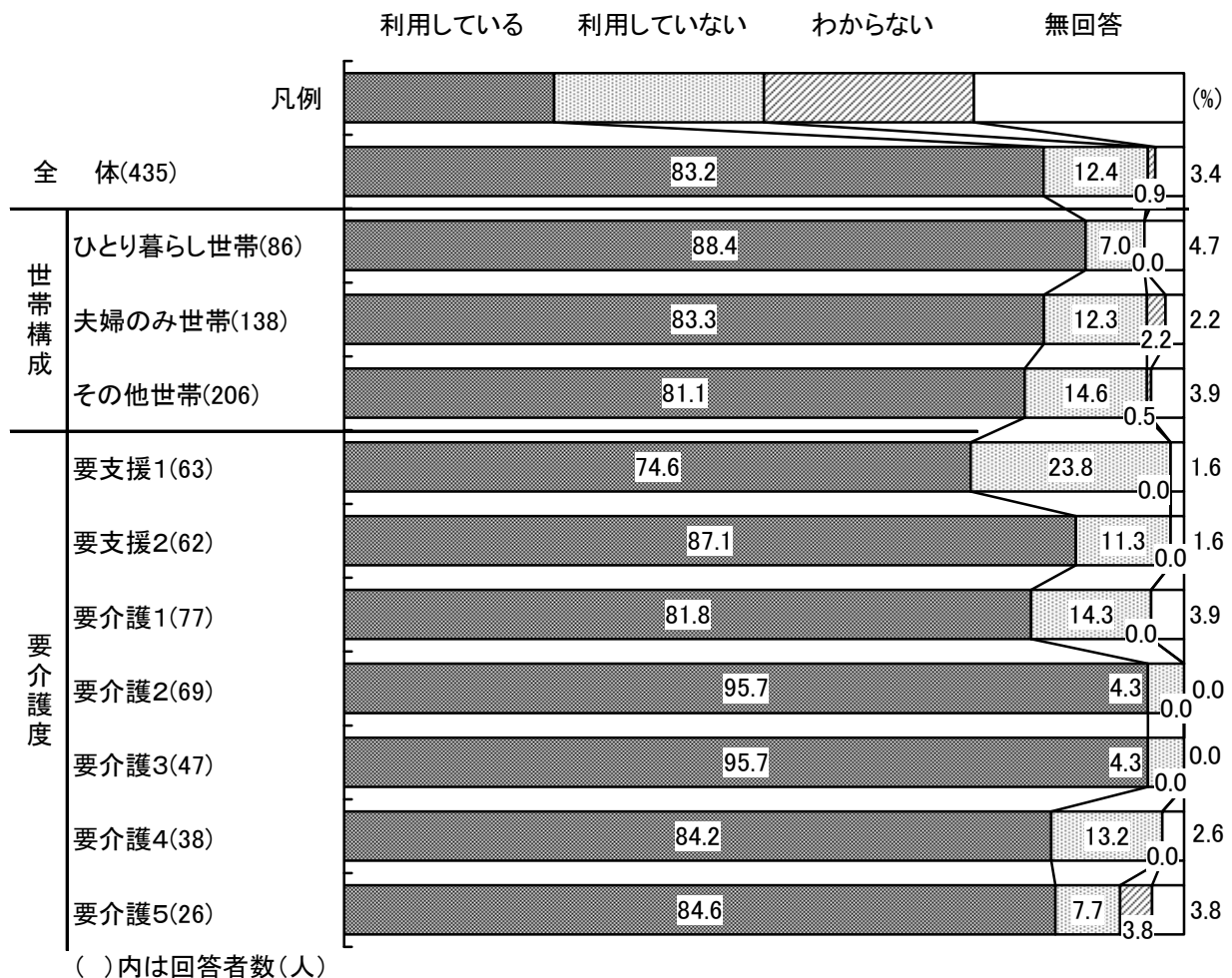
問35 あなた（あて名のご本人）は、現在介護保険サービスを利用していますか。
（ひとつだけ○）

介護保険サービスの利用有無についてたずねたところ、全体でみると、「利用している」が83.2%、「利用していない」が12.4%となっています。

世帯構成別にみると、ひとり暮らし世帯、夫婦のみ世帯、その他世帯の順で、「利用している」が低くなり、代わって「利用していない」が高くなっています。

要介護度別にみると、要支援1～要介護3にかけては、おおむね要介護度が高くなるにつれて、「利用している」も高くなっており、要介護2～3では95%超となっています。要介護4～5では、「利用している」が85%弱と、要介護2～3より10ポイント以上と低くなっています。

図表2-39 介護保険サービスの利用有無



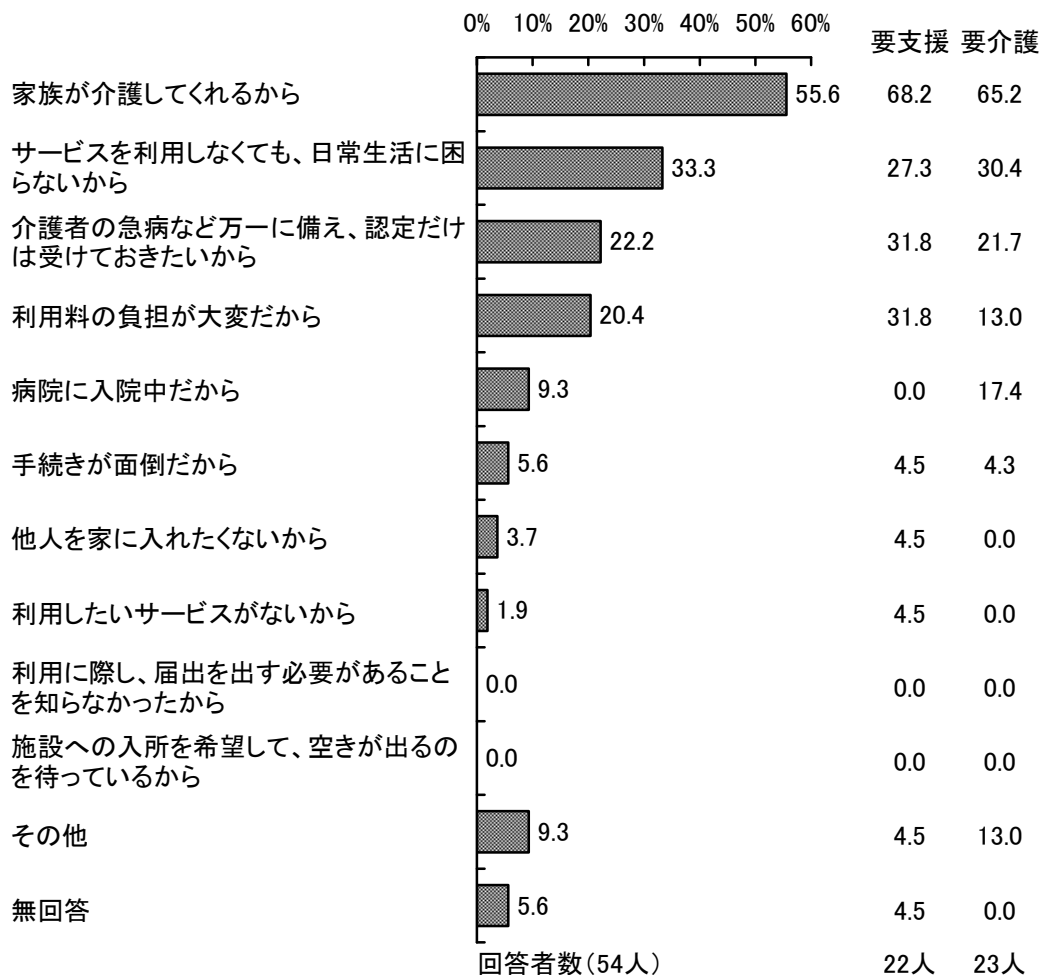
問35で「2」と回答した方に伺います。

問35-1 介護保険サービスを利用していない、もしくは利用をやめた理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

介護保険サービスを「利用していない」と回答した人に、介護保険サービスを利用していない、もしくは利用をやめた理由についてたずねたところ、全体でみると、「家族が介護してくれるから」が55.6%と最も高くなっています。次いで、「サービスを利用しなくても、日常生活に困らないから」が33.3%、「介護者の急病など万一に備え、認定だけは受けておきたいから」が22.2%、「利用料の負担が大変だから」が20.4%、「病院に入院中だから」が9.3%などの順となっています。

要支援者と要介護者についてみると、「家族が介護してくれるから」は、どちらも65%超と最も高くなっています。このほかでは、要支援者は「介護者の急病など万一に備え、認定だけは受けておきたいから」、「利用料の負担が大変だから」、一方、要介護者は「病院に入院中だから」が、それぞれ他方より高くなっています。

図表2-40 介護保険サービスを使用しない、利用をやめた理由



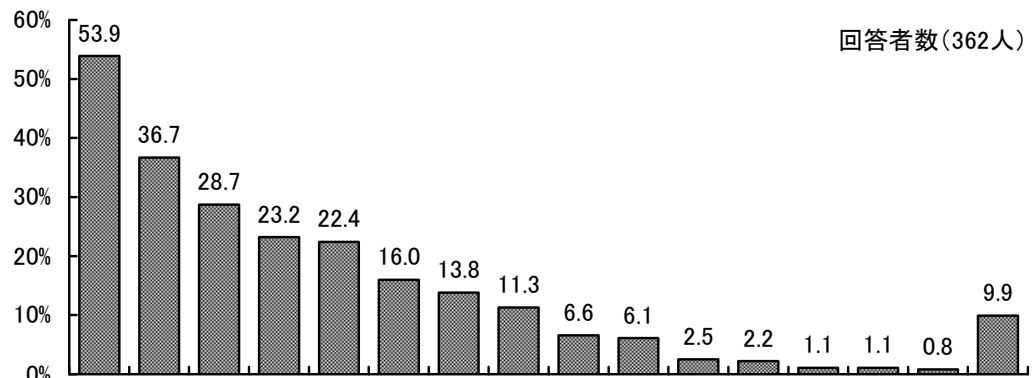
問36 あなたは、ご自分が利用したサービスについて満足していますか。
利用したものすべてに○を付けてください。(あてはまるものすべてに○)

利用した介護保険サービスについてたずねたところ、全体でみると、「通所介護（デイサービス）」が53.9%と最も高くなっています。次いで、「福祉用具貸与」が36.7%、「昼間・訪問介護（ホームヘルプサービス）」が28.7%などの順となっています。

世帯構成別にみると、ひとり暮らし世帯では「昼間・訪問介護（ホームヘルプサービス）」、その他世帯では「通所介護（デイサービス）」が高く、「短期入所生活介護（ショートステイ）」もやや高くなっています。夫婦のみ世帯ではその中間となっています。この3つのサービスについては、世帯構成により、利用状況が対称的なものとなっています。

要介護度別にみると、おおむね要介護度が高い人ほど、「福祉用具貸与」、「福祉用具購入費の支給」、「住宅改修費の支給」、「訪問入浴介護」、「訪問看護」、「訪問リハビリテーション」など、本人の自宅で提供されるさまざまにサービスの利用率が高くなっています。「通所介護（デイサービス）」は要介護1～4、「昼間・訪問介護（ホームヘルプサービス）」は要支援2、要介護1～2、要介護5、「短期入所生活介護（ショートステイ）」は要介護2～5で高くなっています。

図表2-41 利用した介護保険サービス



回答者数(362人)

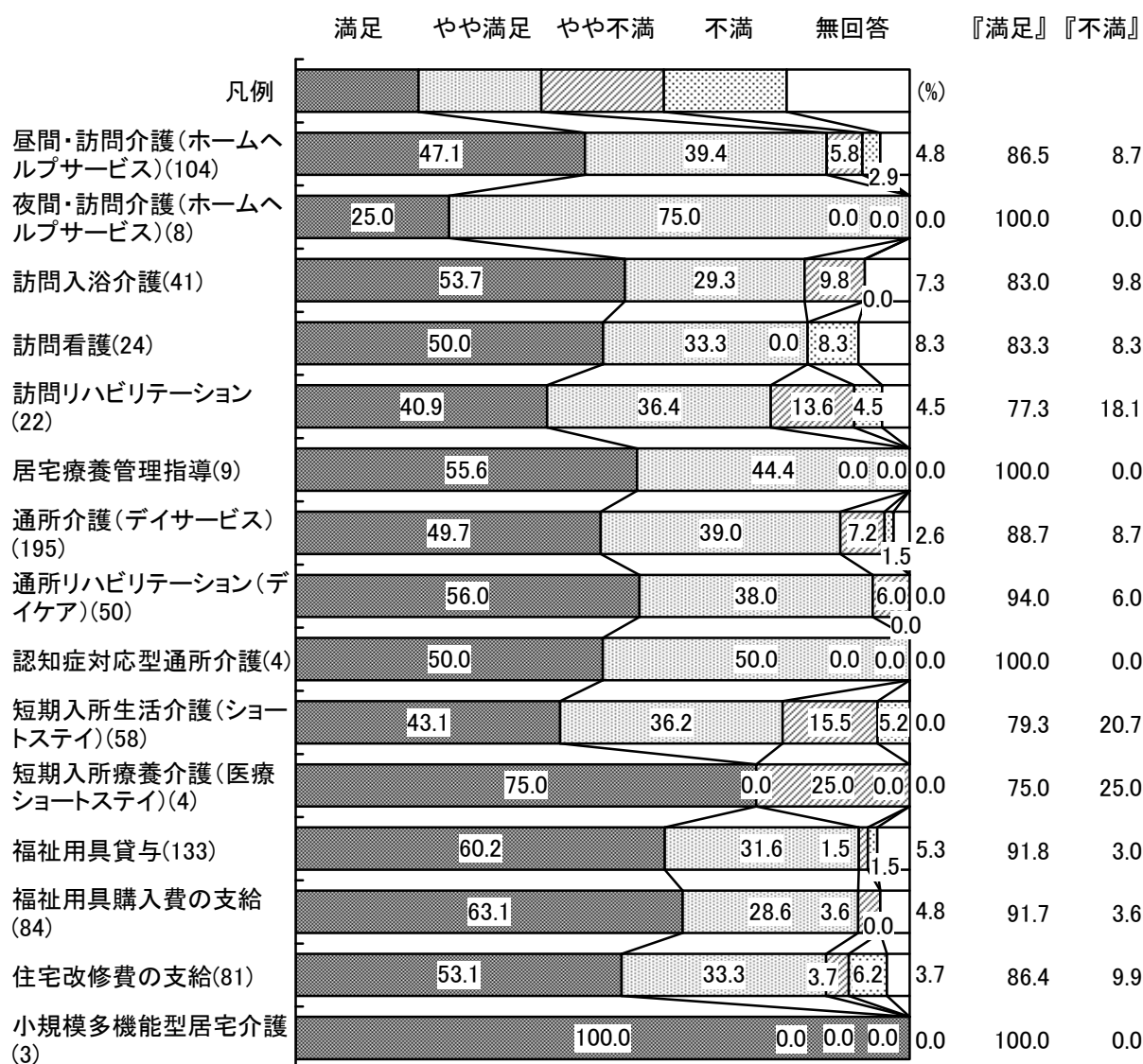
	回答者数（人）	通所介護（デイサービス）	福祉用具貸与	昼間・訪問介護（ホームヘルプサービス）	福祉用具購入費の支給	住宅改修費の支給	短期入所生活介護（ショートステイ）	通所リハビリテーション（デイケア）	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	居宅療養管理指導	夜間・訪問介護（ホームヘルプサービス）	認知症対応型通所介護	短期入所療養介護（医療ショートステイ）	小規模多機能型居宅介護	無回答
全 体	362	53.9	36.7	28.7	23.2	22.4	16.0	13.8	11.3	6.6	6.1	2.5	2.2	1.1	1.1	0.8	9.9
世帯構成																	
ひとり暮らし世帯	76	40.8	23.7	48.7	15.8	9.2	5.3	9.2	3.9	11.8	5.3	2.6	3.9	0.0	0.0	0.0	14.5
夫婦のみ世帯	115	52.2	38.3	32.2	29.6	30.4	13.0	14.8	14.8	8.7	8.7	2.6	0.9	0.0	0.9	0.0	13.0
その他世帯	167	61.7	41.9	17.4	22.2	23.4	22.2	15.6	11.4	3.0	4.2	2.4	2.4	2.4	1.8	1.8	4.8
要介護度																	
要支援1	47	34.0	21.3	21.3	17.0	25.5	4.3	10.6	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0	12.8
要支援2	54	48.1	29.6	29.6	18.5	11.1	1.9	9.3	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	11.1
要介護1	63	54.0	23.8	31.7	17.5	15.9	9.5	20.6	6.3	6.3	3.2	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	7.9
要介護2	66	65.2	40.9	28.8	24.2	25.8	22.7	18.2	7.6	4.5	3.0	1.5	3.0	0.0	1.5	0.0	7.6
要介護3	45	73.3	51.1	24.4	26.7	33.3	28.9	20.0	11.1	6.7	8.9	4.4	4.4	0.0	2.2	0.0	6.7
要介護4	32	65.6	71.9	25.0	53.1	37.5	37.5	6.3	40.6	12.5	15.6	6.3	0.0	0.0	3.1	3.1	3.1
要介護5	22	45.5	59.1	54.5	36.4	27.3	40.9	9.1	45.5	27.3	27.3	18.2	9.1	4.5	4.5	9.1	9.1

問36（続き） あなたは、ご自分が利用したサービスについて満足していますか。
また、それぞれの満足度について、該当するもの1つに○を付けてください。

利用した介護保険サービスの満足度についてたずねたところ、全体でみると、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』はほとんどのサービスで8割を超えています。

一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』が高いサービスとしては、回答者数が10人未満であるサービスを除くと、訪問リハビリテーション、短期入所生活介護（ショートステイ）が20%前後となっています。

図表2-42 利用した介護保険サービスの満足度



()内は回答者数(人)

※『満足』=「満足」+「やや満足」、『不満』=「やや不満」+「不満」

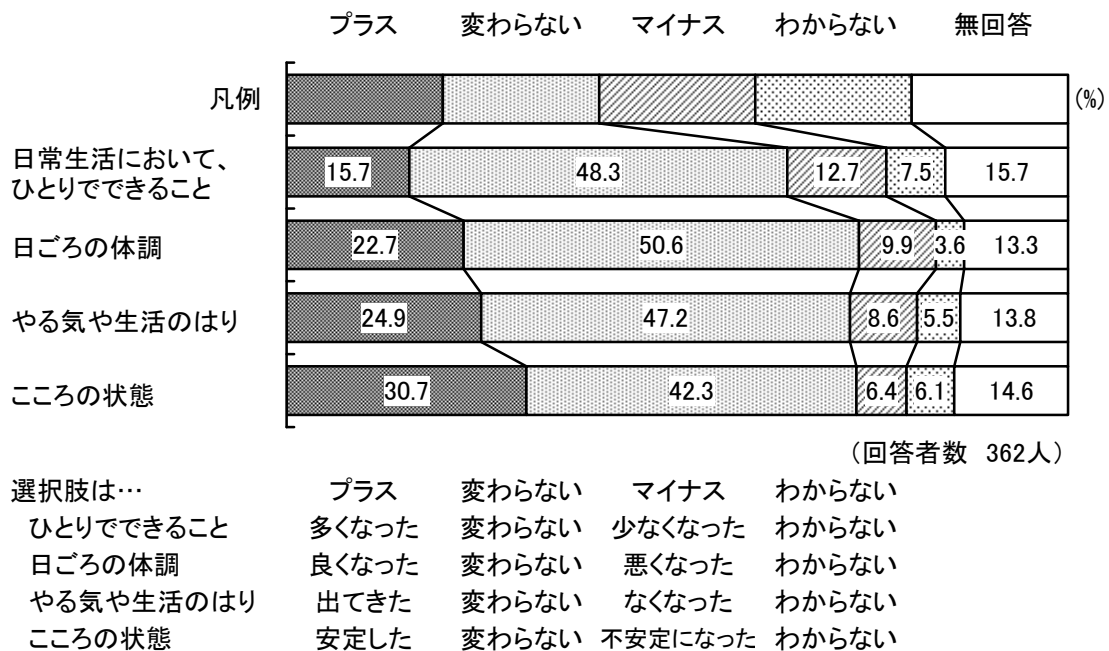
問36（続き） あなたは、ご自分が利用したサービスについて満足していますか。
「やや不満」「不満」に○をつけた方は、不満の理由もご記入ください。

サービス名	不満の理由（主なもの）
昼間・訪問介護 （ホームヘルプサービス）	・時間（曜日）がない。 ・昨年より弱くなったのに、介護が少なくなった。 ・時間が短い（45分）。 ・ホームヘルパーの優しさが欲しい。
訪問入浴介護	・お使いが雑。
訪問リハビリテーション	・マンネリ化、手抜き。 ・専門のPT（理学療法士）・OT（作業療法士）等がない。
通所介護（デイサービス）	・一人一人への気配りが足りない。 ・PT（理学療法士）・OT（作業療法士）等がない。 ・「何」を目的にしているのか、自分にはわからない。 ・昼食の献立を知りたい。 ・肢体機能回復介助がない。 ・優しくない。 ・外出が億劫。 ・リハビリテーションが、ほとんどない。 ・入浴場の設備が整っていない。 ・食事がよくない。老人が食べられる物がない。 ・風呂にゆっくり入りたい。あわただしく流れ作業。
通所リハビリテーション （デイケア）	・時間が短い。
短期入所生活介護 （ショートステイ）	・医師がない。 ・寂しい時間を過ごすことになったため。 ・入所の間の様子がわからない。連絡ノートが欲しい。 ・無責任な人が多い。利用者の要望が伝わらない。 ・個人で見られるテレビがなかったため。 ・何もしていないそうです。 ・することがなく、1日が単調。長い。
福祉用具貸与	・不要な物も貸与されており、保険料支出の無駄かと思う。 ・リース会社が、商品知識がない。 ・車椅子が必要なのに、対象外のため、自費で購入した。
福祉用具購入費の支給	・使用法の指導が不十分。
住宅改修費の支給	・もう少し、金額を増やして欲しい（玄関の上りの段差を解消したい、スロープが高い）。 ・改修業者の「いいなり」にせざるを得ず、これも不必要な額の支給となっていると思う。 ・支給額が少なすぎる。 ・自費が多過ぎた。 ・最小限の手すりしか設置できなかった。

問37 介護保険サービスを利用するようになって、あなた自身には、次のような変化がありましたか。(1)～(4)について、それぞれもっとも近いものひとつだけ○)

介護保険サービスの利用による変化についてたずねたところ、全体でみると、プラスの評価では、日常生活においてひとりでできることが「多くなった」が15.7%、日ごろの体調が「良くなった」が22.7%、やる気や生活のはりが「出てきた」が24.9%、こころの状態が「安定した」が30.7%となっています。一方、マイナスの評価では、日常生活においてひとりでできることが「少なくなった」が12.7%、日ごろの体調が「悪くなった」が9.9%などとなっています。

図表2-43 介護保険サービスの利用による変化



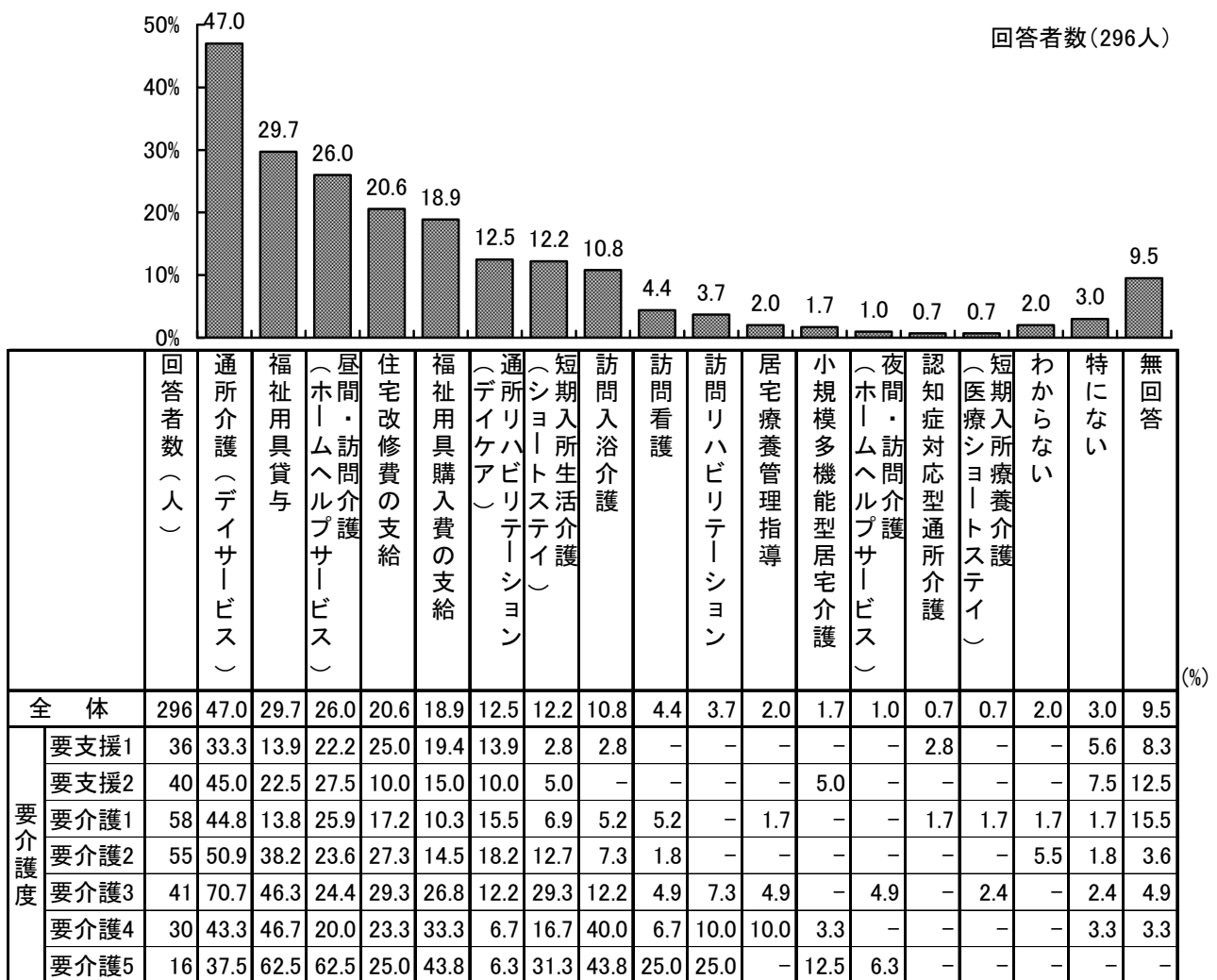
問37(1)～(4)で、1つでも「1、2」に○を付けた方に伺います。

問37-1 あなたにとって、(1) 役立ったサービス、(2) ご自身が努力したことはありますか。
(1)と(2)のどちらにもお答えください。

介護保険サービスの利用による変化でプラスまたは変わらないの評価を回答した人に、役立ったサービスについてたずねたところ、全体でみると、「通所介護（デイサービス）」が47.0%と最も高くなっています。次いで、「福祉用具貸与」が29.7%、「昼間・訪問介護（ホームヘルプサービス）」が26.0%、「住宅改修費の支給」が20.6%、「福祉用具購入費の支給」が18.9%などの順となっています。

要介護度別にみると、「通所介護（デイサービス）」は要介護2～3、「福祉用具貸与」、「福祉用具購入費の支給」はおおむね要介護度が高い人ほど、「昼間・訪問介護（ホームヘルプサービス）」は要介護5を除きほぼ同程度、「短期入所生活介護（ショートステイ）」は要介護3で、役立ったサービスとしての割合が高くなっています。

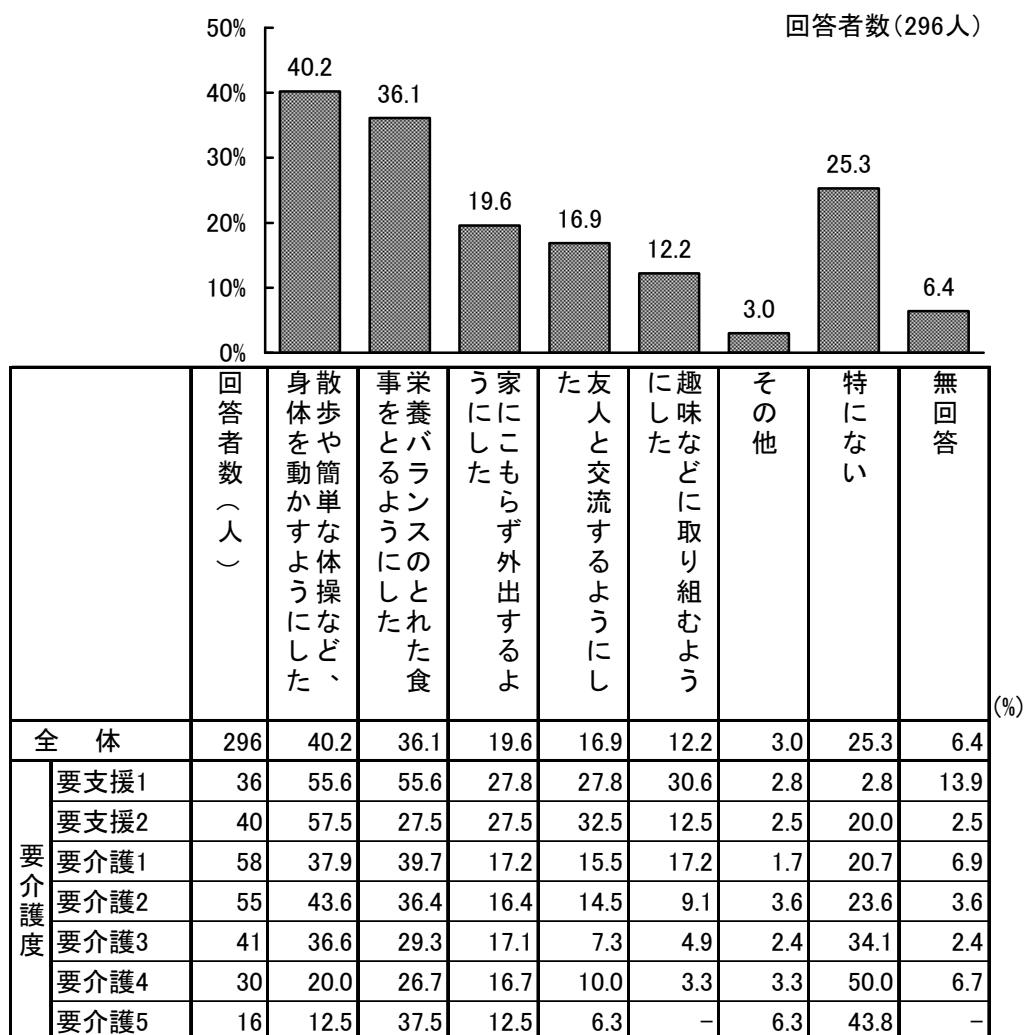
図表2-44 改善の要因（役立ったサービス）



介護保険サービスの利用による変化でプラスまたは変わらないの評価を回答した人に、続いて、本人の努力についてたずねたところ、全体でみると、「散歩や簡単な体操など、身体を動かすようにした」が40.2%と最も高くなっています。次いで、「栄養バランスのとれた食事をするようにした」が36.1%などとなっています。

要介護度別にみると、「散歩や簡単な体操など、身体を動かすようにした」は、おおむね要介護度が低い人ほど、特に要支援1～2で高くなっています。「栄養バランスのとれた食事をするようにした」は、要介護1～2で高くなっています。

図表2-45 改善の要因（本人の努力）



問38 介護保険サービスの利用額について、制度上利用できる上限額のうちの程度利用しましたか（ひとつだけ○）

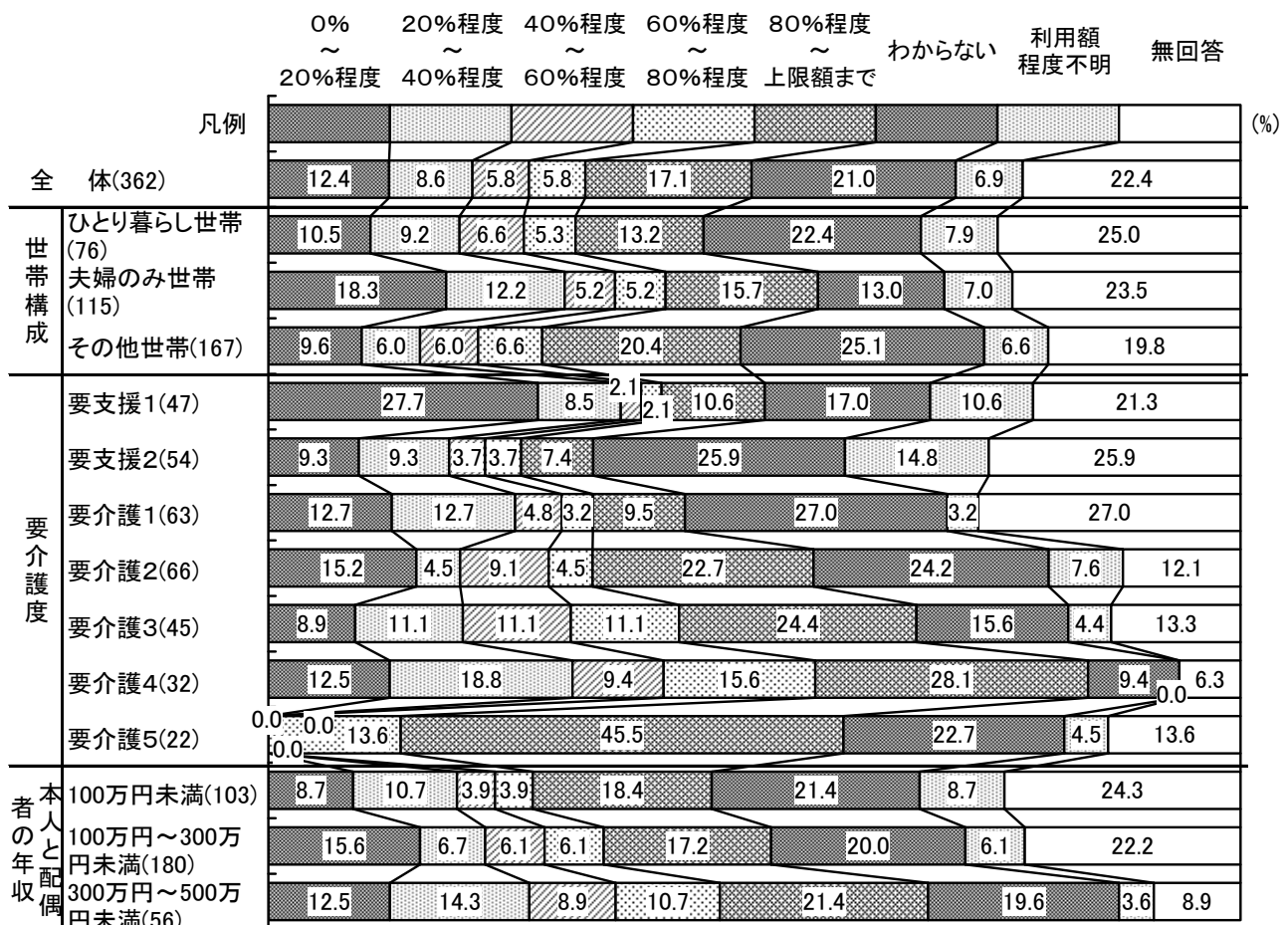
区分支給限度額に対する利用度合いについてたずねたところ、全体でみると、「0～20%程度」が12.4%、「20%程度～40%程度」が8.6%、「40%程度～60%程度」が5.8%、「60%程度～80%程度」が5.8%であり、80%未満は合わせて32.6%となっています。一方、「80%程度～上限額まで」が17.1%となっています。

世帯構成別にみると、夫婦のみ世帯では「0～20%程度」、「20%程度～40%程度」が高く、その他世帯では「80%程度～上限額まで」が高くなっています。

要介護度別にみると、要介護度が上がるにつれて、「80%程度～上限額まで」が高く、要介護4では28.1%、要介護5では45.5%となっています。

本人と配偶者の年収別にみると、おおむね年収が高い人ほど、「40%程度～60%程度」、「60%程度～80%程度」、「80%程度～上限額まで」が高く、区分支給限度額に対してより多く利用していることがうかがえます。

図表2-46 区分支給限度額に対する利用度合い



()内は回答者数(人)

※本人と配偶者の年収が「500万円～700万円未満」、「700万円～1,000万円未満」、「1,000万円以上」は表示を省略する。

問38で「1～4」（上限額の80%程度以下を利用）と回答した方に伺います。

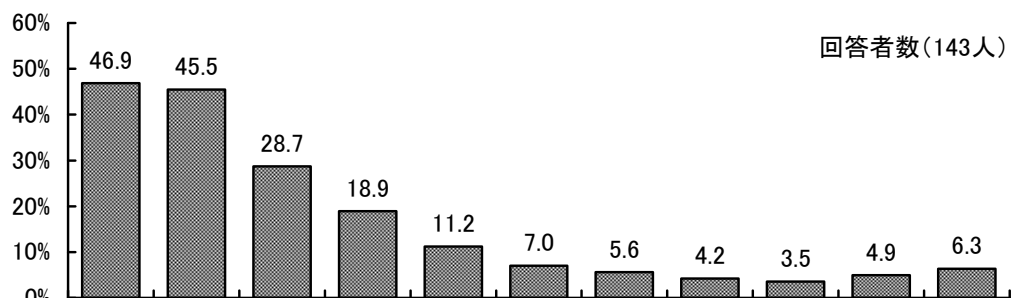
問38-1 上限額近くまで利用していない理由は何ですか。（主なもの3つまで○）

区分支給限度額に対して「上限額の80%程度以下を利用」と回答した人に、その理由についてたずねたところ、全体でみると、「家族が介護しているので、それほど多く利用しなくても済んでいる」が46.9%と最も高くなっています。次いで、「心身の状態からみて、今くらいのサービスで十分と考えるため」が45.5%、「利用料が高くなるため（経済的な理由のため）」が28.7%、「現在利用しているサービス以外に、どのようなサービスを利用していいかわからないため」が18.9%などの順となっています。

世帯構成別にみると、「家族が介護しているので、それほど多く利用しなくても済んでいる」は夫婦のみ世帯とその他世帯、「心身の状態からみて、今くらいのサービスで十分と考えるため」はひとり暮らし世帯、「利用料が高くなるため（経済的な理由のため）」は夫婦のみ世帯とその他世帯で高くなっています。

要介護度別の表は参考表示です。

図表2-47 区分支給限度額の上限まで利用していない理由



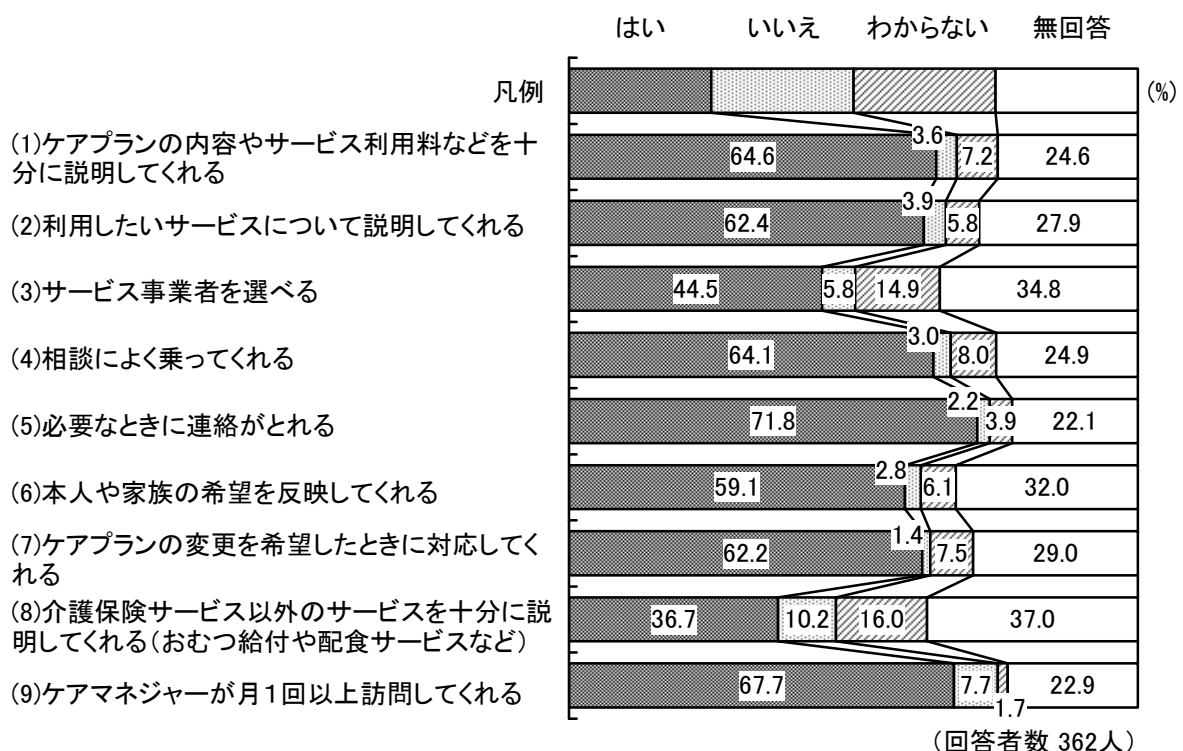
	回答者数（人）	家族が介護しているので、それほど多く利用しなくても済んでいる	心身の状態からみて、今くらいのサービスで十分と考えるため	利用料が高くなるため（経済的な理由のため）	どのようなサービスを利用していいかわからないため	ヘルパーなど他人が家に入るのはわずらわしいと思うため	なかつたため	短期間（ショートステイなど）のみの利用に抵抗があるため	通所介護（デイサービス）などの利用に抵抗があるため	ケアマネジャーがケアプランにうまく要望やニーズを反映してくれないため	その他	無回答
全 体	143	46.9	45.5	28.7	18.9	11.2	7.0	5.6	4.2	3.5	4.9	6.3
世帯構成												
ひとり暮らし世帯	30	20.0	63.3	23.3	20.0	13.3	6.7	6.7	3.3	6.7	6.7	6.7
夫婦のみ世帯	55	52.7	38.2	30.9	20.0	10.9	7.3	3.6	3.6	5.5	5.5	7.3
その他世帯	58	55.2	43.1	29.3	17.2	10.3	6.9	6.9	5.2	-	3.4	5.2
要介護度												
要支援1	24	41.7	54.2	37.5	20.8	4.2	8.3	-	4.2	4.2	-	20.8
要支援2	22	40.9	59.1	31.8	9.1	9.1	-	4.5	-	4.5	4.5	4.5
要介護1	23	39.1	39.1	21.7	17.4	13.0	13.0	8.7	4.3	4.3	8.7	4.3
要介護2	27	44.4	55.6	18.5	11.1	14.8	-	7.4	3.7	-	7.4	3.7
要介護3	21	52.4	47.6	28.6	28.6	14.3	9.5	4.8	9.5	-	4.8	4.8
要介護4	18	72.2	11.1	38.9	16.7	11.1	-	11.1	5.6	11.1	-	-
要介護5	4	50.0	50.0	25.0	25.0	-	25.0	-	-	-	25.0	-

問39 あなたは、ケアマネジャーの対応について、どのように感じていますか。それぞれの項目についてお答えください。(1)～(9)それぞれひとつだけ○)

ケアマネジャーの対応への感想についてたずねたところ、全体でみると、「はい」の割合が高いものから順に、「(5)必要なときに連絡がとれる」が71.8%、「(9)ケアマネジャーが月1回以上訪問してくれる」が67.7%、「(1)ケアプランの内容やサービス利用料などを十分に説明してくれる」が64.6%、「(4)相談によく乗ってくれる」が64.1%などの順となっています。一方、「(8)介護保険サービス以外のサービスを十分に説明してくれる(おむつ給付や配食サービスなど)」は36.7%と低くなっています。

要介護度別に「はい」の回答のみ抽出してみると、ほぼすべての項目ともおおむね要介護度が高くなるにつれて、「はい」の割合も高くなっています。

図表2-48 ケアマネジャーの対応への感想（上図）
ケアマネジャーの対応への感想のうち肯定的なもの（下図）



		回答者数（人）	ケアプランの内容やサービスの利用料などを十分に説明してくれる	利用したいサービスについて説明してくれる	サービス事業者を選べる	相談によく乗ってくれる	必要ときに連絡がとれる	本人や家族の希望を反映してくれる	ケアプランの変更に希望したときに対応してくれる	介護保険サービス以外のサービスをも十分に説明してくれる	ケアマネジャーが月1回以上訪問してくれる	(%)
	全 体	362	64.6	62.4	44.5	64.1	71.8	59.1	62.2	36.7	67.7	
要介護度	要支援1	47	59.6	51.1	40.4	57.4	61.7	46.8	48.9	29.8	61.7	
	要支援2	54	63.0	59.3	35.2	59.3	72.2	50.0	51.9	25.9	55.6	
	要介護1	63	60.3	57.1	42.9	57.1	66.7	55.6	63.5	39.7	68.3	
	要介護2	66	69.7	72.7	54.5	75.8	86.4	75.8	80.3	37.9	78.8	
	要介護3	45	77.8	75.6	53.3	77.8	84.4	73.3	68.9	46.7	82.2	
	要介護4	32	78.1	81.3	56.3	75.0	81.3	75.0	87.5	56.3	90.6	
	要介護5	22	86.4	90.9	68.2	77.3	86.4	81.8	72.7	54.5	81.8	

※数字はすべて「はい」

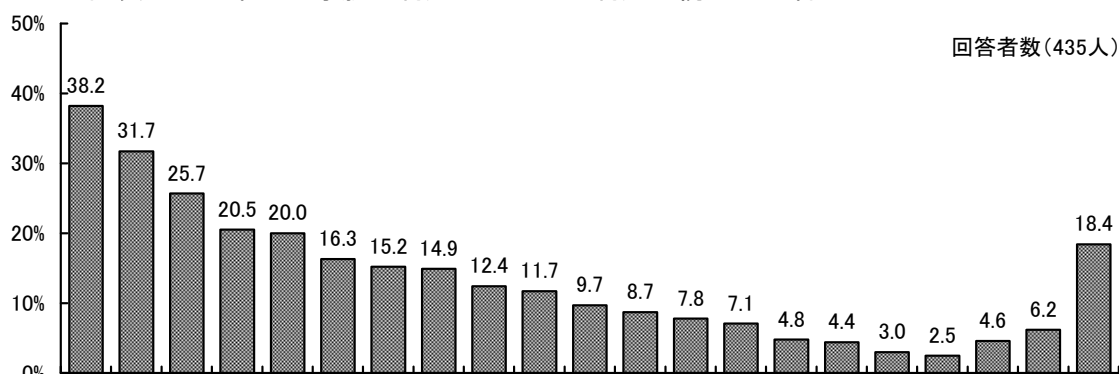
問40 あなたやあなたのご家族が、利用したいまたは利用し続けたい居宅サービスはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

本人や家族が利用したい又は利用し続けたい居宅サービスについてたずねたところ、全体でみると、「通所介護（デイサービス）」が38.2%と最も高くなっています。次いで、「福祉用具貸与」が31.7%、「昼間・訪問介護（ホームヘルプサービス）」が25.7%、「福祉用具購入費の支給」が20.5%、「短期入所生活介護（ショートステイ）」が20.0%などの順となっています。

世帯構成別にみると、ひとり暮らし世帯では「昼間・訪問介護（ホームヘルプサービス）」、夫婦のみ世帯、その他世帯では「通所介護（デイサービス）」、「福祉用具貸与」が高く、夫婦のみ世帯では「住宅改修費の支給」、その他世帯では「短期入所生活介護（ショートステイ）」もやや高くなっています。

要介護度別にみると、「通所介護（デイサービス）」は要介護2～要介護4、「福祉用具貸与」、「福祉用具購入費の支給」は要介護2～要介護5、「昼間・訪問介護（ホームヘルプサービス）」は要介護2、要介護4～5、「短期入所生活介護（ショートステイ）」は要介護3～5で高くなっています。

図表2-49 本人や家族が利用したい又は利用し続けたい居宅サービス



回答者数(435人)

		回答者数（人）	通所介護（デイサービス）	福祉用具貸与	昼間・訪問介護（ホームヘルプサービス）	福祉用具購入費の支給	短期入所生活介護（ショートステイ）	訪問入浴介護	通所リハビリテーション（デイケア）	住宅改修費の支給	訪問看護	短期入所療養介護（医療ショートステイ）	夜間・訪問介護（ホームヘルプサービス）	訪問リハビリテーション	認知症対応型通所介護	夜間対応型訪問介護	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	居宅療養管理指導	小規模多機能型居宅介護	複合型サービス※3	わからない	特にない	無回答
全 体		435	38.2	31.7	25.7	20.5	20.0	16.3	15.2	14.9	12.4	11.7	9.7	8.7	7.8	7.1	4.8	4.4	3.0	2.5	4.6	6.2	18.4
世帯構成	ひとり暮らし世帯	86	25.6	22.1	43.0	14.0	12.8	9.3	10.5	12.8	12.8	5.8	7.0	7.0	7.0	5.8	3.5	5.8	3.5	3.5	4.7	5.8	23.3
	夫婦のみ世帯	138	40.6	36.2	27.5	26.8	18.8	18.8	18.1	21.0	16.7	15.2	14.5	13.0	7.2	11.6	8.7	7.2	3.6	2.2	3.6	6.5	16.7
	その他世帯	206	42.7	33.0	17.0	18.9	23.8	18.0	15.5	12.1	9.7	12.1	7.8	6.8	8.7	4.9	2.9	1.9	2.4	2.4	5.3	5.8	17.0
要介護度	要支援1	63	34.9	17.5	23.8	19.0	7.9	14.3	9.5	12.7	7.9	9.5	7.9	3.2	9.5	7.9	7.9	3.2	3.2	4.8	1.6	9.5	22.2
	要支援2	62	27.4	27.4	19.4	12.9	14.5	8.1	16.1	9.7	8.1	8.1	6.5	6.5	3.2	3.2	-	3.2	3.2	-	12.9	3.2	22.6
	要介護1	77	35.1	26.0	26.0	20.8	16.9	11.7	18.2	10.4	9.1	5.2	7.8	7.8	10.4	2.6	3.9	-	-	1.3	6.5	6.5	18.2
	要介護2	69	56.5	37.7	31.9	24.6	24.6	17.4	18.8	21.7	11.6	15.9	4.3	7.2	8.7	7.2	7.2	4.3	1.4	2.9	-	10.1	5.8
	要介護3	47	61.7	44.7	27.7	23.4	36.2	14.9	12.8	23.4	17.0	12.8	17.0	10.6	8.5	10.6	6.4	8.5	4.3	4.3	2.1	4.3	8.5
	要介護4	38	52.6	55.3	31.6	31.6	36.8	36.8	26.3	21.1	21.1	23.7	21.1	10.5	13.2	13.2	5.3	7.9	7.9	5.3	2.6	2.6	2.6
	要介護5	26	30.8	53.8	42.3	34.6	34.6	42.3	15.4	26.9	42.3	23.1	26.9	34.6	7.7	19.2	7.7	11.5	11.5	-	3.8	-	11.5

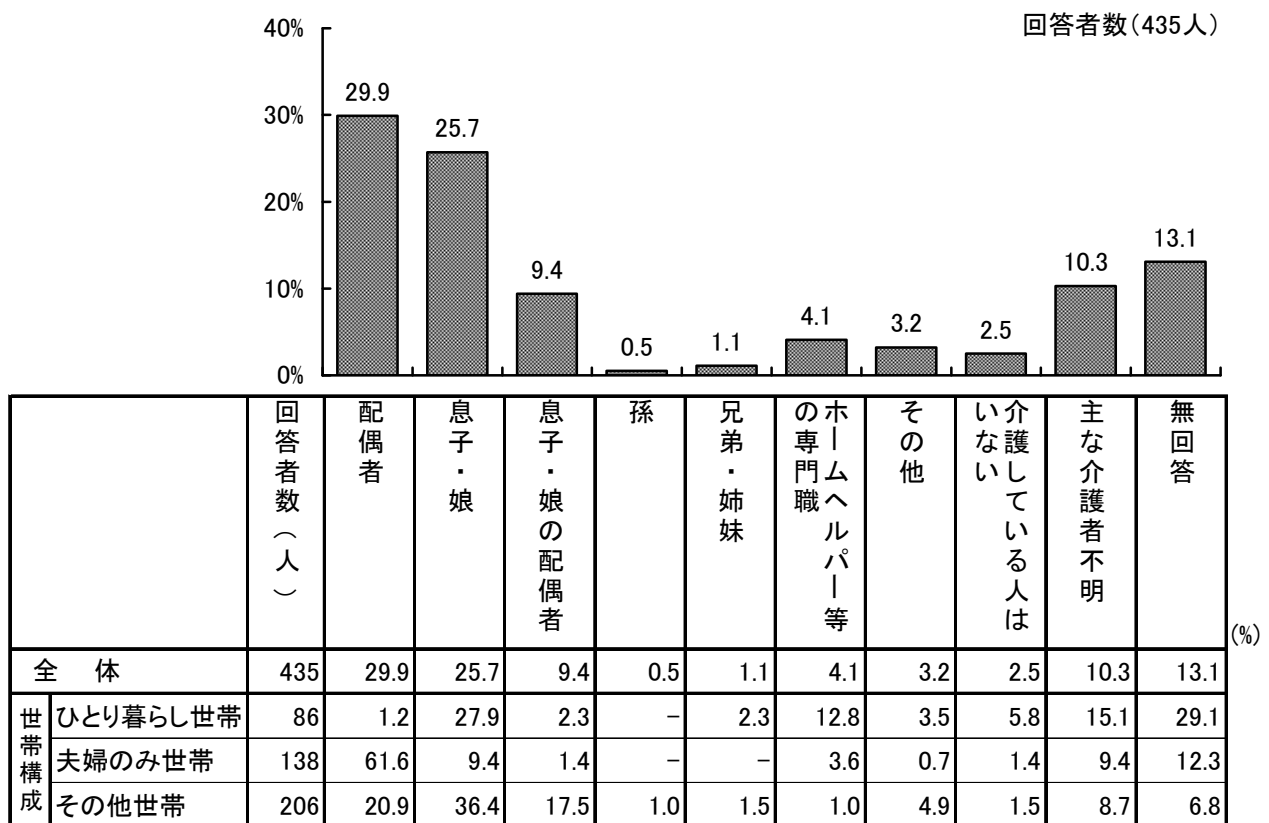
8 主な介護者について

問4 1 主に介護をしている方はご本人から見てどのようなご関係にありますか。
(ひとつだけ○)

これ以降は、主に介護している人に対する設問となっています。まず主な介護者と本人との関係についてたずねたところ、全体でみると、「配偶者」が29.9%と最も高くなっています。次いで、「息子・娘」が25.7%、「息子・娘の配偶者」が9.4%となっています。

世帯構成別にみると、ひとり暮らし世帯、その他世帯では「息子・娘」、夫婦のみ世帯では「配偶者」がそれぞれ最も高くなっています。それ以外では、ひとり暮らし世帯は「ホームヘルパー等の専門職」も12.8%とやや高くなっています。

図表2-50 主な介護者と本人との関係



※「主な介護者不明」とは、本設問に回答がなかったにも関わらず、次の設問以降に回答があった人を表している。

問４１で「１～５」（家族や親族）と回答した方に伺います。

問４１－１ 主に介護している方の性別と、現在の満年齢をお答えください。

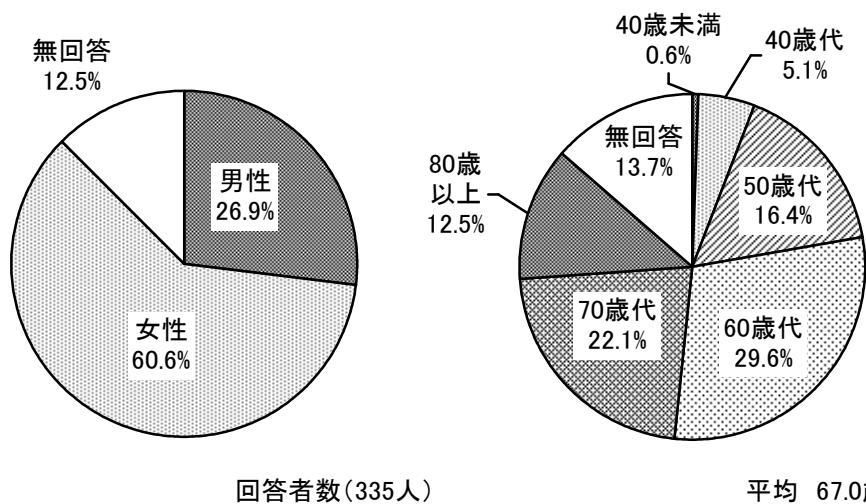
主な介護者の性別は、全体でみると、「女性」が60.6%、「男性」が26.9%となっています。

主な介護者の年齢は、「60歳代」が29.6%と最も高くなっています。次いで、「70歳代」が22.1%、「50歳代」が16.4%、「80歳以上」が12.5%となっています。「70歳未満」は51.7%、「70歳以上」は34.6%、平均年齢は67.0歳となっています。

主な介護者の年齢について、主な介護者の性別にみると、「70歳以上」は、男性が56.6%、女性が32.0%であり、特に主な介護者が男性である場合は高齢化していることがうかがえます。

世帯構成別にみると、ひとり暮らし世帯は「50歳代」、その他世帯は「60歳代」がそれぞれ最も高くなっており、両者とも「70歳未満」が５割～６割程度となっています。それに対して、夫婦のみ世帯では「70歳代」が38.1%最も高く、次いで、「80歳以上」が22.1%と高くなっており、「70歳以上」が合わせて６割強、また、平均年齢も72.4歳となっており、老々介護の様子がうかがえます。

図表2-51 主な介護者の性別（左図）及び年齢（右図）



		(回 答 者 数)	4 0 歳 未 満	4 0 歳 代	5 0 歳 代	6 0 歳 代	7 0 歳 代	8 0 歳 以 上	無 回 答	7 0 歳 未 満	7 0 歳 以 上	(平 均 年 齢)
全	体	335	0.6	5.1	16.4	29.6	22.1	12.5	13.7	51.7	34.6	67.0
性	男	90	1.1	4.4	12.2	23.3	33.3	23.3	2.2	41.0	56.6	70.7
介 護 者	女	203	0.5	6.4	21.7	38.4	21.7	10.3	1.0	67.0	32.0	65.4
世 帯 構 成	ひとり暮らし世帯	42	-	4.8	28.6	21.4	7.1	4.8	33.3	54.8	11.9	61.4
	夫婦のみ世帯	113	-	1.8	9.7	18.6	38.1	22.1	9.7	30.1	60.2	72.4
	その他世帯	177	1.1	7.3	17.5	39.0	15.3	8.5	11.3	64.9	23.8	64.6

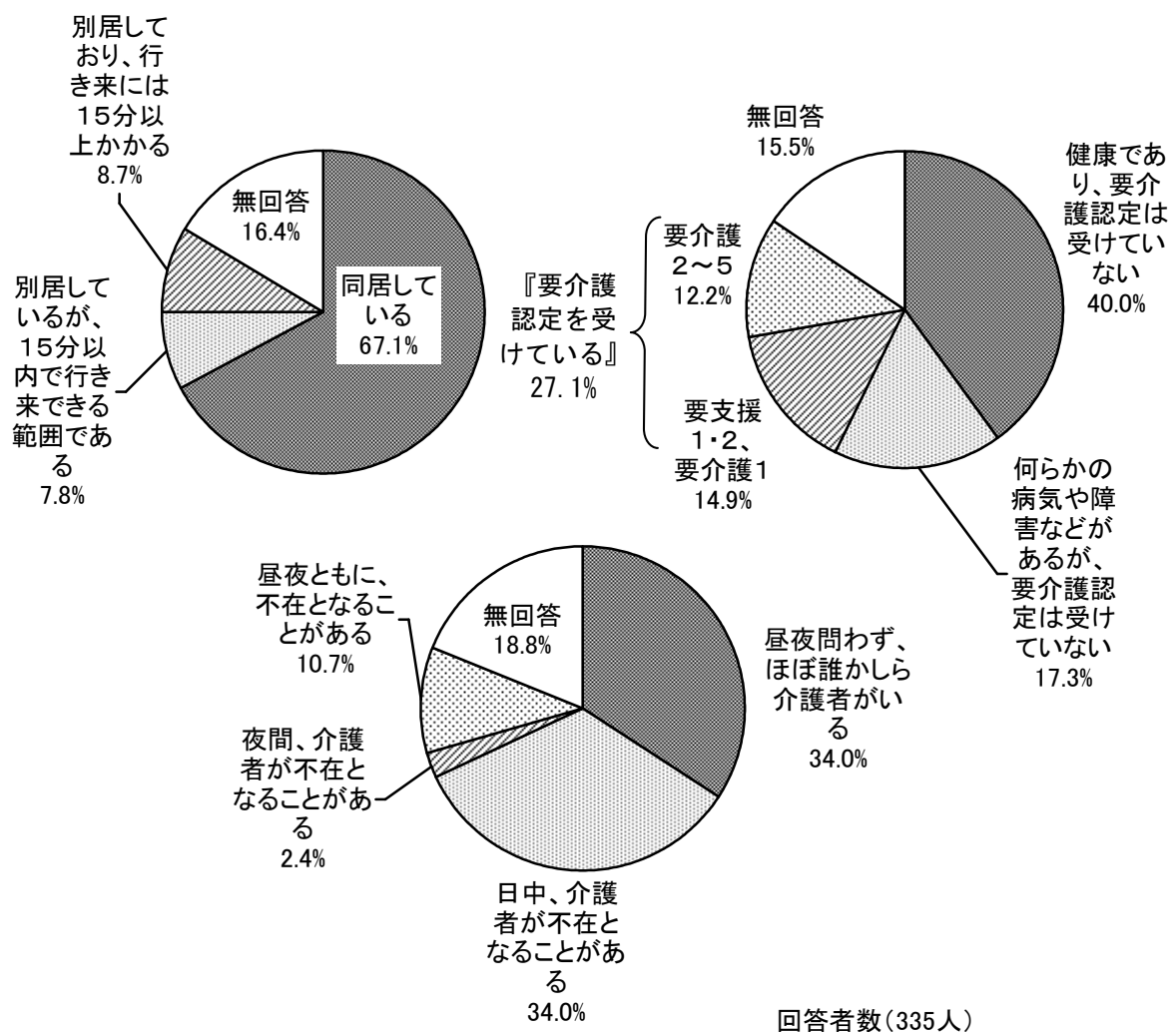
問 4 2	あて名のご本人と主に介護をしている方は、同居されていますか。(ひとつだけ○)
問 4 3	主に介護をしている方は、要介護認定を受けていますか。(ひとつだけ○)
問 4 4	主に介護をしている方だけでなく、あて名のご本人を介護している方全体のことについて伺います。介護をしている方が不在となることはありますか。(ひとつだけ○)

主な介護者に対して、同居の状況についてたずねたところ、全体でみると、「同居している」が67.1%、「別居しているが、15分以内で行き来できる範囲である」が7.8%、「別居しており、行き来には15分以上かかる」が8.7%となっています。

介護者自身が要介護認定を受けているかどうかについてたずねたところ、「健康であり、要介護認定は受けていない」が40.0%、「何らかの病気や障害などがあるが、要介護認定は受けていない」が17.3%となっています。また、「要支援1・2、要介護1」が14.9%、「要介護2～5」が12.2%であり、「要介護認定を受けている」が合わせて27.1%となっています。このことから、5人に1人は、要介護認定者が要介護認定者を介護しているという状況がうかがえます。

本人を介護している人全体が不在になることがあるかどうかについてたずねたところ、全体でみると、「昼夜問わず、ほぼ誰かしら介護者がいる」、「日中、介護者が不在となることがある」がそれぞれ34.0%と最も高くなっています。

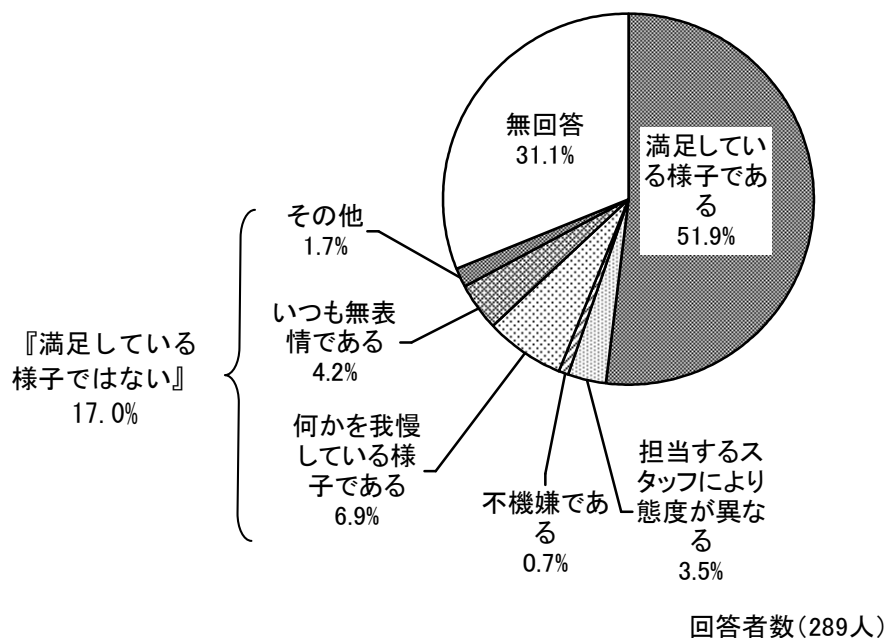
図表2-52 主な介護者の同居の状況（左上図）、主な介護者の要介護認定の状況（右上図）、主な介護者が不在になることはあるか（下図）



問 4 5 （ご本人が介護サービスを利用されている方へ、）介護サービスを利用しているときのご本人の様子はいかがですか。（ひとつだけ○）

主な介護者に対して、介護サービス利用中の本人の様子についてたずねたところ、全体でみると、「満足している様子である」が51.9%と最も高く、過半数となっています。一方、『満足している様子ではない』が17.0%であり、具体的には、「何かを我慢している様子である」が6.9%、「いつも無表情である」が4.2%となっています。

図表2-53 介護サービス利用中の本人の様子

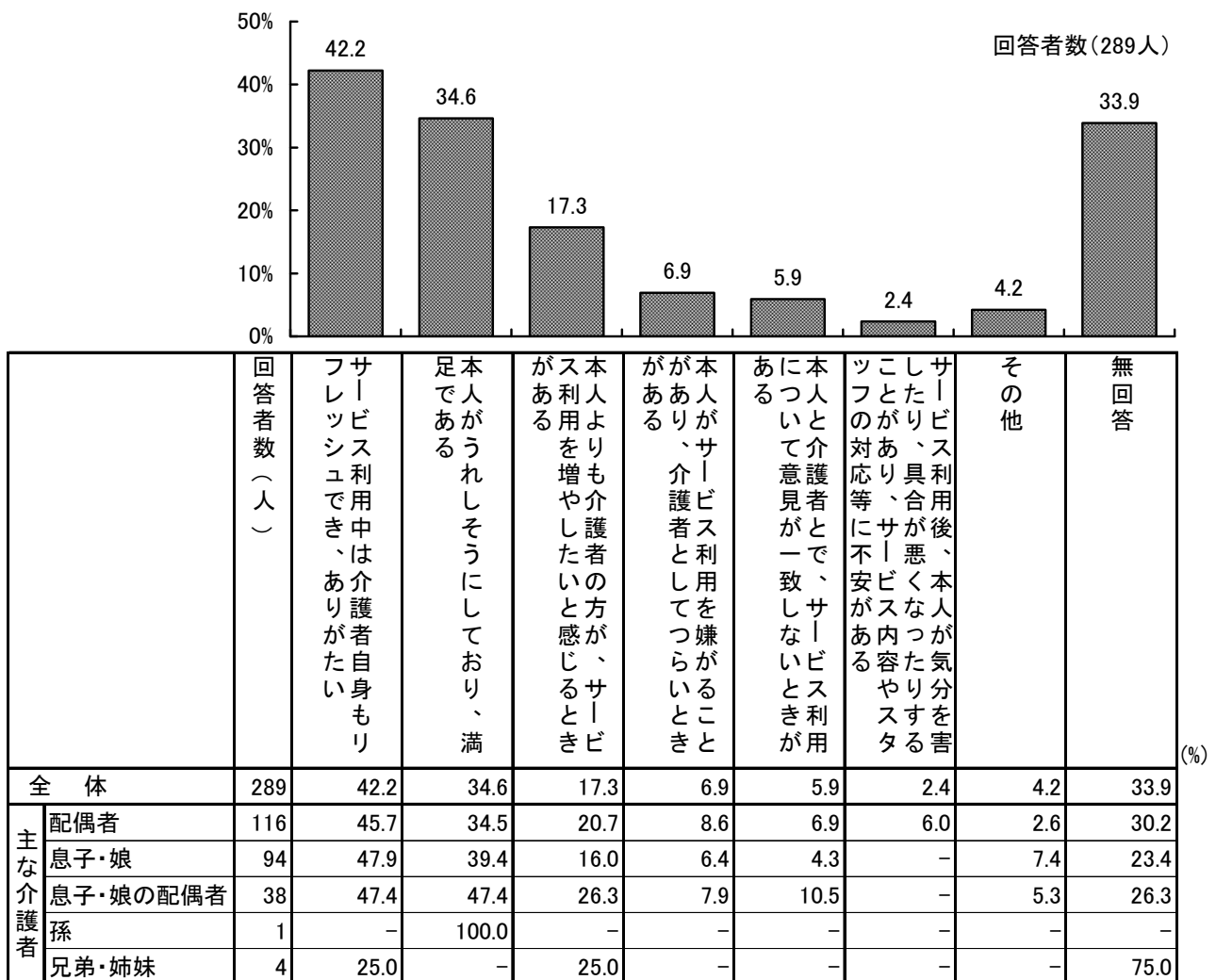


問 4 6 （ご本人が介護サービスを利用されている方へ、）介護サービスを利用しているとき、あなた（主に介護している方）ご自身はどのようにお感じですか。（主なもの3つまで○）

主な介護者に対して、本人が介護サービス利用しているときの主な介護者自身の感想についてたずねたところ、全体でみると、「サービス利用中は介護者自身もリフレッシュでき、ありがたい」が42.2%と最も高くなっています。次いで、「本人がうれしそうにしており、満足である」が34.6%、「本人よりも介護者の方が、サービス利用を増やしたいと感じるときがある」が17.3%などの順となっています。

主な介護者別にみると、いずれも「サービス利用中は介護者自身もリフレッシュでき、ありがたい」が最も高く、さらに息子・娘の配偶者では「本人がうれしそうにしており、満足である」も最も高くなっています。

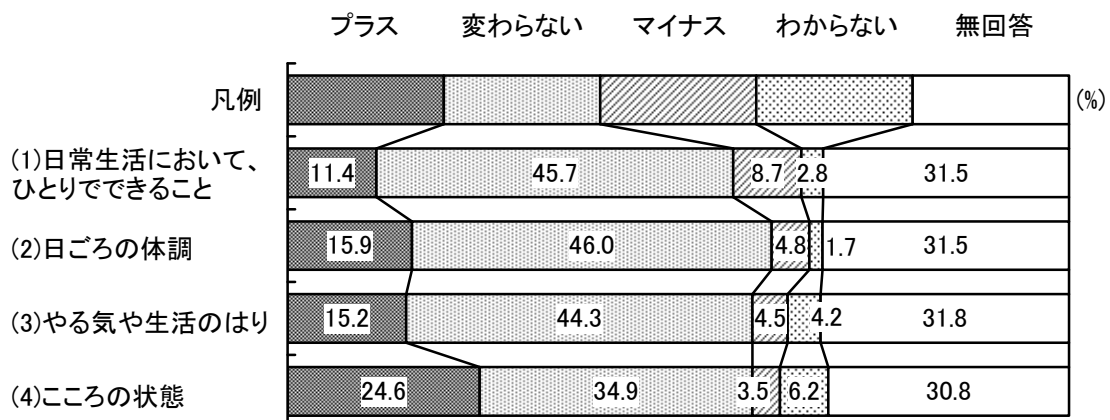
図表2-54 本人が介護サービス利用しているときの主な介護者自身の感想



問 4 7 （ご本人が介護サービスを利用されている方へ、）あなた（主に介護をしている方）から見て、介護保険サービスを利用するようになってから、次のような変化がありましたか。
（(1)～(4)について、それぞれもっとも近いものにひとつだけ○）

介護保険サービスの利用による変化についてたずねたところ、全体でみると、プラスの評価では、日常生活においてひとりでできることが「多くなった」が11.4%、日ごろの体調が「良くなった」が15.9%、やる気や生活のはりが「出てきた」が15.2%、こころの状態が「安定した」が24.6%となっています。一方、マイナスの評価では、日常生活においてひとりでできることが「少なくなった」が8.7%、日ごろの体調が「悪くなった」が4.8%などとなっています。

図表2-55 主な介護者から見た介護保険サービスの利用による変化



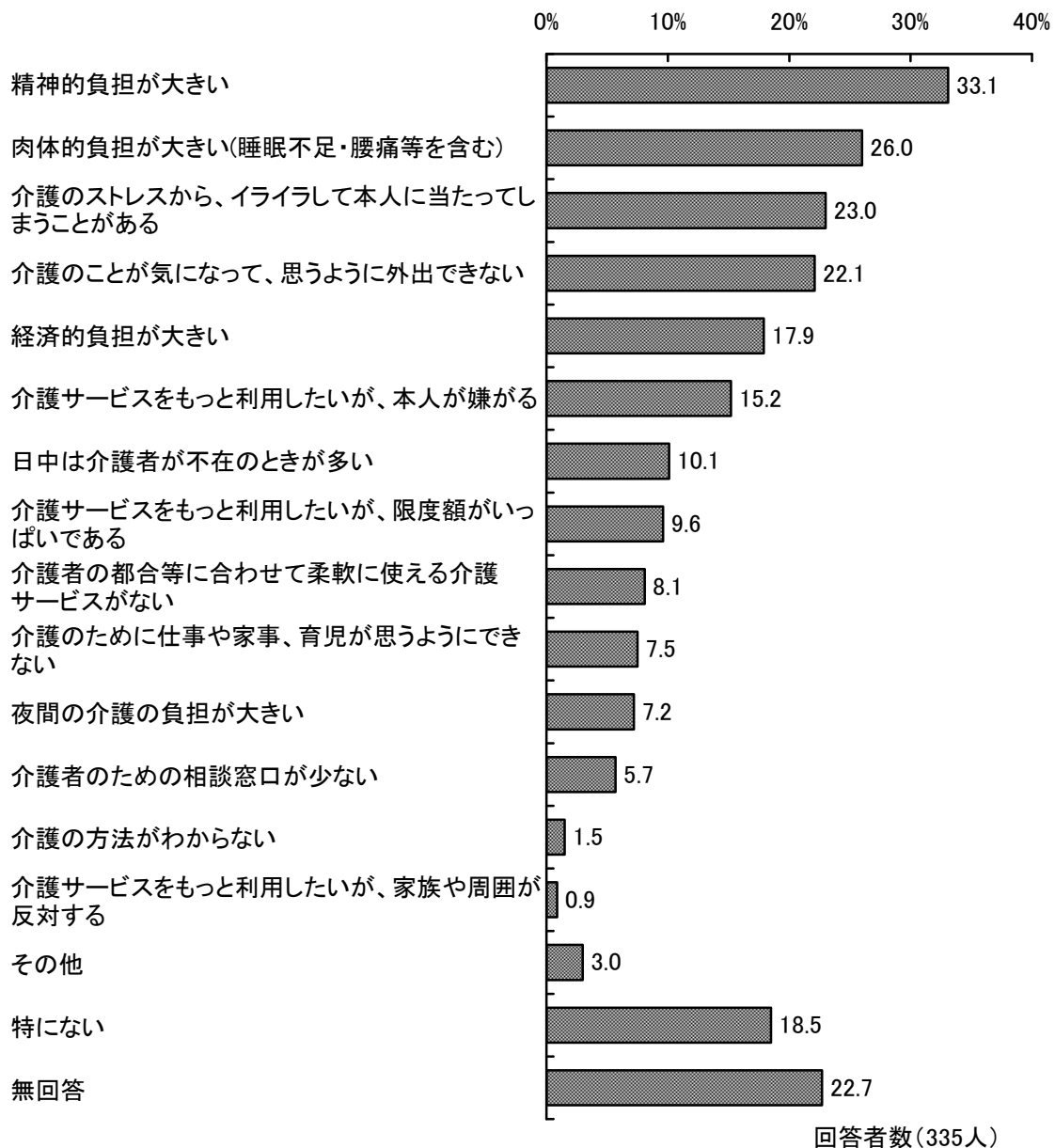
（回答者数 289人）

選択肢は…	プラス	変わらない	マイナス	わからない
ひとりでできること	多くなった	変わらない	少なくなった	わからない
日ごろの体調	良くなった	変わらない	悪くなった	わからない
やる気や生活のはり	出てきた	変わらない	なくなった	わからない
こころの状態	安定した	変わらない	不安定になった	わからない

問48 介護をするうえで、困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

主な介護者に対して、介護をするうえで困っていることについてたずねたところ、全体でみると、「精神的負担が大きい」が33.1%と最も高くなっています。次いで、「肉体的負担が大きい(睡眠不足・腰痛等を含む)」が26.0%、「介護のストレスから、イライラして本人に当たってしまうことがある」が23.0%、「介護のことが気になって、思うように外出できない」が22.1%などの順となっています。

図表2-56 主な介護者が介護をするうえで困っていること



主な介護者別にみると、配偶者では、「肉体的負担が大きい（睡眠不足・腰痛等を含む）」が最も高く、次いで、「精神的負担が大きい」となっています。息子・娘では、「精神的負担が大きい」が最も高く、次いで、「介護のストレスから、イライラして本人に当たってしまうことがある」、「介護のことが気になって、思うように外出できない」となっています。息子・娘の配偶者では、「精神的負担が大きい」が61.0%と特に高く、次いで、「肉体的負担が大きい（睡眠不足・腰痛等を含む）」、「介護のことが気になって、思うように外出できない」となっています。「経済的負担が大きい」は、息子・娘の配偶者で36.6%と他の主な介護者と比べ高くなっています。

図表2-57 主な介護者が介護をするうえで困っていること
(主な介護者別)

	回答者数（人）	精神的負担が大きい	肉体的負担が大きい（睡眠不足・腰痛等を含む）	介護のストレスから、イライラして本人に当たってしまうことがある	介護のことが気になって、思うように外出できない	経済的負担が大きい	介護したいが、本人が嫌と利	日中は介護者が不在のときが多い	介護したいが、限度額が	介護者の都合等に合わせることができない	(%)
全 体	335	33.1	26.0	23.0	22.1	17.9	15.2	10.1	9.6	8.1	
主な介護者	配偶者	130	30.8	34.6	29.2	23.1	20.8	14.6	8.5	10.0	
	息子・娘	112	38.4	23.2	24.1	24.1	14.3	17.9	18.8	11.6	9.8
	息子・娘の配偶者	41	61.0	39.0	22.0	39.0	36.6	24.4	14.6	14.6	4.9
	孫	2	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-
	兄弟・姉妹	5	20.0	-	20.0	-	-	20.0	20.0	-	-

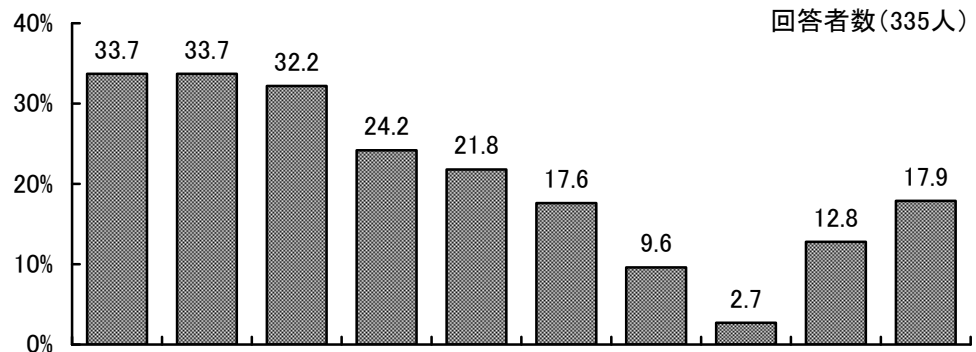
	回答者数（人）	介護の負担が大きい（睡眠不足・腰痛等を含む）	介護の負担が大きい（睡眠不足・腰痛等を含む）	介護の負担が大きい（睡眠不足・腰痛等を含む）	介護の負担が大きい（睡眠不足・腰痛等を含む）	介護の負担が大きい（睡眠不足・腰痛等を含む）	介護の負担が大きい（睡眠不足・腰痛等を含む）	介護の負担が大きい（睡眠不足・腰痛等を含む）	介護の負担が大きい（睡眠不足・腰痛等を含む）	介護の負担が大きい（睡眠不足・腰痛等を含む）	(%)
全 体	335	7.5	7.2	5.7	1.5	0.9	3.0	18.5	22.7		
主な介護者	配偶者	130	6.9	11.5	6.9	1.5	-	4.6	20.8	20.0	
	息子・娘	112	11.6	6.3	7.1	1.8	2.7	2.7	22.3	9.8	
	息子・娘の配偶者	41	7.3	4.9	2.4	-	-	2.4	4.9	9.8	
	孫	2	-	-	-	-	-	-	50.0	-	
	兄弟・姉妹	5	-	-	-	-	-	-	-	60.0	

問４９ 介護をしているご家族に対する市の支援として、どのようなサービスが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

主な介護者に対して、介護家族に対して必要な市の支援サービスについてたずねたところ、全体で見ると、「冠婚葬祭・急病時に預けられるような緊急ショートステイの充実」、「家族が休みたいときに利用できるショートステイの充実」がそれぞれ33.7%と最も高くなっています。次いで、「経済的支援の充実」が32.2%、「冠婚葬祭・急病時に在宅で面倒を見てくれるサービス」が24.2%、「介護に関する相談事業の充実」が21.8%などとなっています。

主な介護者別にみると、配偶者、息子・娘、息子・娘の配偶者とも、上位3つは順位が異なるものの同様であり、配偶者は「冠婚葬祭・急病時に預けられるような緊急ショートステイの充実」、息子・娘、息子・娘の配偶者は「家族が休みたいときに利用できるショートステイの充実」がそれぞれ最も高くなっています。なお、「冠婚葬祭・急病時に在宅で面倒を見てくれるサービス」、「介護に関する相談事業の充実」は、配偶者、息子・娘では2割台とやや高くなっていますが、息子・娘の配偶者では1割前後と低くなっており、介護家族に対する支援のニーズにやや差が見られます。

図表2-58 介護家族に対して必要な市の支援サービス



	回答者数(人)	冠婚葬祭・急病時に預けられるような緊急ショートステイの充実	家族が休みたいときに利用できるショートステイの充実	経済的支援の充実	在宅で面倒を見てくれるサービス	介護に関する相談事業	介護の教室などの開催	介護者同士の交流の場の提供	その他	特になし	無回答
全 体	335	33.7	33.7	32.2	24.2	21.8	17.6	9.6	2.7	12.8	17.9
主な介護者											
配偶者	130	36.2	30.8	32.3	26.2	23.8	18.5	10.8	1.5	10.8	18.5
息子・娘	112	36.6	38.4	33.9	29.5	24.1	23.2	8.0	1.8	17.0	8.0
息子・娘の配偶者	41	39.0	46.3	34.1	7.3	12.2	14.6	4.9	9.8	9.8	12.2
孫	2	50.0	50.0	-	-	-	-	50.0	-	-	-
兄弟・姉妹	5	20.0	-	40.0	40.0	-	-	-	-	40.0	20.0

Ⅲ 日常生活圏域ニーズ調査の分析

1 総括

(1) 分析の目的と使用データ

日常生活圏域ニーズ調査は、日常生活圏域における高齢者の地域生活の課題を探り、それらの課題を踏まえた介護保険事業計画の策定に資するため、高齢者一般調査、介護予防意識調査、要介護・要支援認定者調査の中で、必要な設問を組み込んだうえで実施しました。

質問項目は、「健康状態」、「運動や閉じこもりの状況」、「転倒予防」、「口腔・栄養の状況」、「物忘れの状況」、「日常生活の状況」、「社会参加の状況」に関して、地域支援事業の介護予防事業の基本チェックリストのほか、これまで学術的に有効性が認められてきた項目であり、それぞれの調査票のうち、「健康状態について」の中に配しています。

本節では、日常生活圏域ニーズ調査の個々の設問の回答がどうであったかということより、高齢者のさまざまなニーズを今後検討していくために必要となる高齢者の状態像や介護予防等の割合を多角的に分析することにします。

また、分析の対象とする事柄に対して関連性のある設問をいくつかに分類して判定するとともに、全体での介護予防対象者の調査結果としての整合性を保ちながら分析することにします。このため、さまざまに判定項目において必要となる設問それぞれすべてに回答したものを、各判定項目の分析での有効データとしています。

したがって、日常生活圏域ニーズ調査の分析で使用可能な回答者数については、以下のものとしています。

<日常生活圏域ニーズ調査の分析で使用可能な回答者数について>

(人)

調査種類	通常集計における回答者数		性別・年齢・要介護度が無回答であるものを除外し、分析で使用可能な回答者数(最大での値)		
合 計	1,038	→	合 計	971	
高齢者一般	293	→	高齢者一般	290	
介護予防	310	→	介護予防	307	
要介護認定者	435	→	要支援1～2	122	要介護認定者 計 374
			要介護1～2	142	
			要介護3～5	110	

※性別・年齢・要介護度が無回答であるものを除外し、分析で使用可能な回答者数(最大での値)であり、図表での回答者数として表示している。個々の判定条件で実際に使用できる回答者数は、当該判定条件を構成する設問すべてに回答の合ったもののみとなる。例えば、運動器の判定は5項目すべて、虚弱の判定は20項目すべてに回答があったもののみが使用可能なものとなる。

※要介護3～5については、日常生活圏域ニーズ調査の対象者としては求められていないが、本調査では、要介護・要支援認定者調査の対象者の一環として実施している。そして、参考までに要支援1～2、要介護1～2と同様に回答された内容を分析し、報告書の図表に掲載しているが、本文では言及していない。

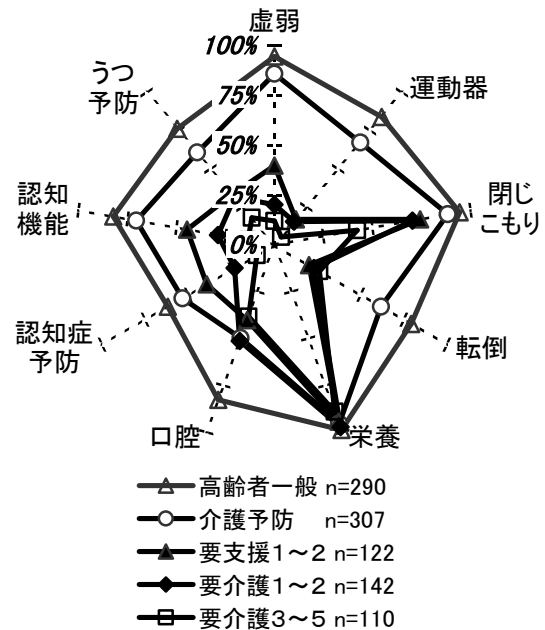
(2) 機能

① 項目別評価結果

生活機能の各評価項目ごとの非該当者（リスクなし）の割合をみると、要介護・要支援認定を受けておらず、また、介護予防事業の対象にもならない高齢者一般でその割合が最も高く、次いで、介護予防、要支援1～2、要介護1～2の順となっており、それぞれの生活機能のレベルを反映した結果となっています。

なお、高齢者一般の中にも、運動器、転倒、口腔、認知症予防、認知機能、うつ予防については、介護予防に比べて率は低いものの、該当者（リスク者）が相当数いることがうかがえます。

図表3-1 生活機能項目非該当者の割合

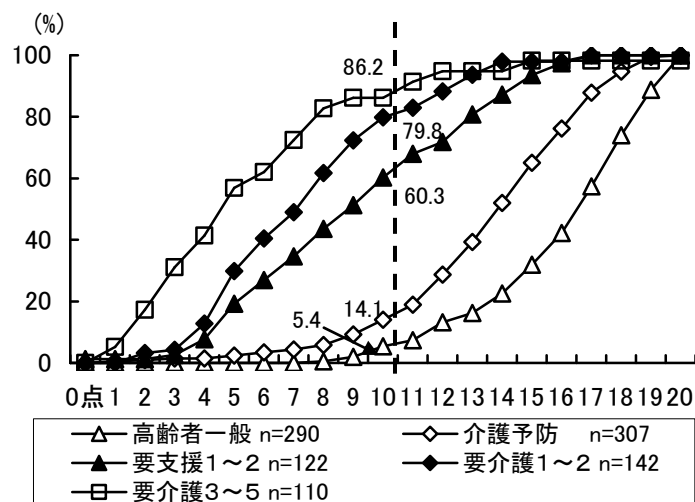


	虚弱	運動器	閉じこもり	転倒	栄養	口腔	認知症予防	認知機能	うつ予防	(%)
高齢者一般 n=290	94.6	83.7	94.5	79.2	98.7	82.7	62.0	82.3	76.1	
介護予防 n=307	85.9	67.0	88.5	62.0	95.4	49.8	53.4	70.7	60.5	
要支援1～2 n=122	39.7	16.8	74.4	20.0	94.2	40.2	39.3	44.5	33.0	
要介護1～2 n=142	20.2	15.3	70.5	23.0	97.1	51.2	23.1	28.9	31.3	
要介護3～5 n=110	12.1	5.1	42.2	26.1	88.9	38.1	10.1	13.5	17.9	

② 総合指標

基本チェックリストのうつ予防に関する設問を除く20問について、各設問で非該当となる回答をした場合を各1点として、その合計得点の分布を累積相対度数に表してみると、10点以下の者の割合は、高齢者一般が5.4%、介護予防が14.1%、要支援1～2が60.3%、要介護1～2が79.8%となっています。

図表3-2 基本チェックリスト非該当累積相対度数分布



(3) 日常生活

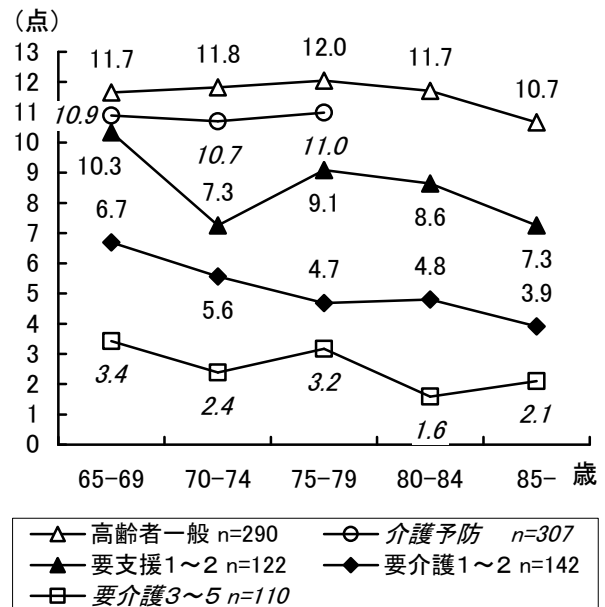
① 老研式活動能力指標（IADL）

手段的日常生活動作（IADL：Instrumental Activity of Daily Living）自立度を中心とした高齢者の比較的高次の生活機能の指標として定着している老研式活動能力指標（13項目）について、その生活機能得点（平均）をみると、高齢者一般、介護予防、要支援1～2、要介護1～2の順となっています。

高齢者一般、要支援1～2は75歳以上で、また、要介護1～2は65歳以上で、おおむね年齢が上がるにつれて、その得点が低下しています。介護予防は、65歳～79歳では年齢とのあきらかに関係は見られません。

※老研式活動能力指標：高次の生活機能の評価を行うための評価尺度。手段的自立、知的能動性、社会的役割の3つの観点で評価する。

図表3-3 IADL生活機能得点（平均）



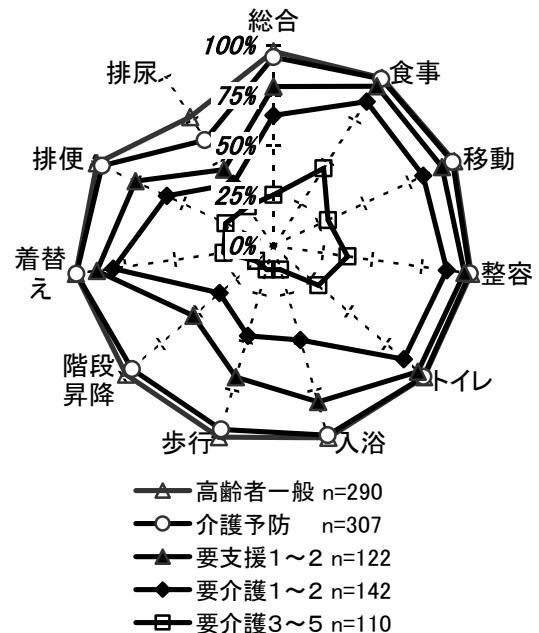
※介護予防の80歳以上は対象者が少ないため省略

② 日常生活動作（ADL）

高齢者の日常生活動作（ADL：Activities of Daily Living）の状況をみると、「自立」と評価される者の割合は、全ての項目で高齢者一般が最も高く、次いで介護予防、要支援1～2、要介護1～2の順となっています。

要介護1～2と介護予防の中間に位置する要支援1～2について詳しくみると、食事、移動、整容、トイレ動作、着替えについては、いずれも自立の割合が9割前後になっている一方で、入浴、歩行、階段昇降、排便、排尿については、自立の割合が低下しています。このことから、日常生活動作の中でも、比較的早い時期に低下するものとそうでないものがあることがうかがえます。

図表3-4 項目別ADL自立度



	総合	食事	移動	整容	トイレ	入浴	歩行	階段昇降	着替え	排便	排尿	(%)
高齢者一般 n=290	97.1	100.0	100.0	100.0	100.0	99.6	99.3	97.9	100.0	97.5	76.7	
介護予防 n=307	94.2	99.3	99.0	99.3	99.7	98.3	95.3	94.0	99.7	94.7	63.0	
要支援1～2 n=122	79.5	95.0	93.3	96.6	95.9	81.1	68.3	53.3	89.3	76.3	45.5	
要介護1～2 n=142	65.1	85.8	82.9	87.7	86.3	48.9	46.7	35.8	81.2	58.8	37.0	
要介護3～5 n=110	25.5	46.2	30.2	37.4	29.9	12.3	12.4	11.4	25.2	26.4	23.6	

※整容：洗面や歯磨きなど、身だしなみを整えること

(4) 健康・疾病

① 現在治療中、または後遺症のある病気

現在治療中、または後遺症のある病気をみると、要介護の原因となる脳卒中、心臓病、筋骨格の病気、外傷、呼吸器の病気では要支援1～2、要介護1～2が高くなっています。なお、高血圧、糖尿病、高脂血症に関しては、介護予防対象者でも高く、高齢者一般でも比較的高い割合で見られます。

脳卒中、心臓病、筋骨格の病気は、介護・介助が必要になった主な原因疾病の中でも高くなっています。

図表3-5 現在治療中、または後遺症のある病気

	回答者数（人）	高血圧	目の病気	筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）	糖尿病	心臓病	高脂血症（脂質異常）	胃腸・肝臓・胆のうの病気	脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	腎臓・前立腺の病気	耳の病気	呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）	がん（悪性新生物）	外傷（転倒・骨折等）	うつ病	認知症（アルツハイマー病等）	パーキンソン病	血液・免疫の病気	その他	ない
全 体	971	43.7	22.7	18.5	18.2	13.1	11.2	10.4	10.1	9.7	7.3	7.2	5.8	5.7	2.6	2.0	2.0	1.6	10.1	5.5
高齢者一般	290	46.2	22.4	12.8	13.4	7.9	14.1	10.7	3.1	9.0	5.9	4.5	4.1	1.4	0.7	0.3	0.3	0.3	9.7	8.6
介護予防	307	40.4	20.8	14.3	19.2	10.1	13.0	11.4	3.3	9.8	5.9	5.9	4.6	2.9	2.9	1.0	1.0	1.6	8.5	7.2
要支援1～2	122	45.9	28.7	36.1	22.1	21.3	12.3	7.4	12.3	9.8	5.7	10.7	6.6	12.3	2.5	1.6	1.6	2.5	9.8	0.8
要介護1～2	142	50.0	26.8	25.4	21.8	20.4	4.9	9.9	20.4	10.6	12.7	12.7	8.5	9.9	4.9	4.2	4.2	2.8	10.6	2.1
要介護3～5	110	35.5	16.4	17.3	19.1	16.4	5.5	10.9	31.8	10.0	10.0	7.3	9.1	11.8	3.6	6.4	6.4	2.7	15.5	1.8

※()内は回答者数(人)、表頭の無回答は省略。

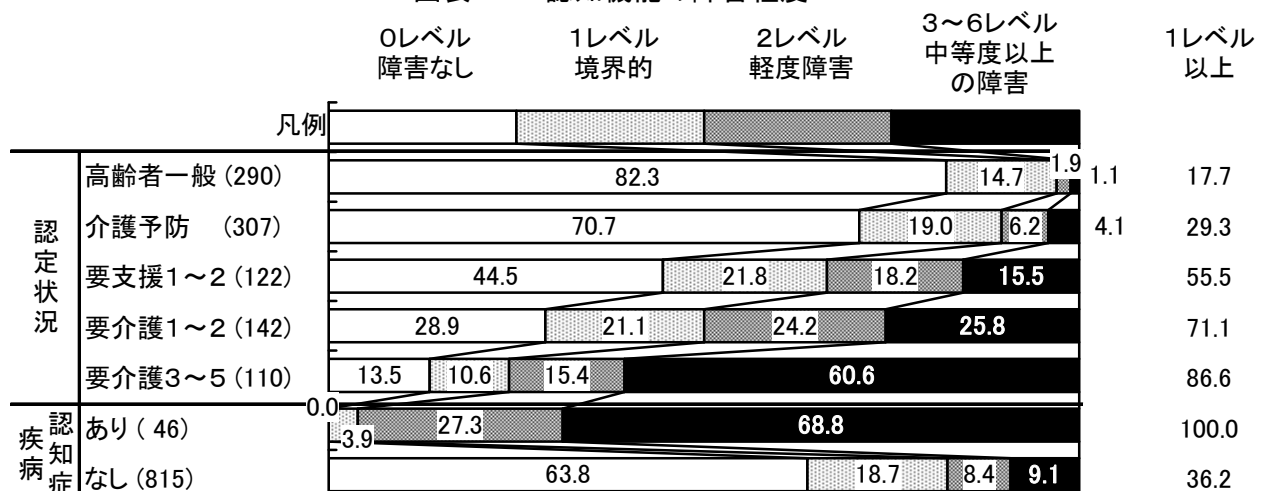
② 認知機能の障害程度

回答結果からC P S (Cognitive Performance Scale、認知機能の障害程度の指標として有用とされる)に準じて評価される認知機能の障害程度区分の分布をみると、認知機能の障害ありと評価される1レベル以上の者の割合は、要介護1～2が71.1%と最も高くなっています。次いで、要支援1～2が55.5%、介護予防が29.3%、高齢者一般が17.7%の順となっています。

C P Sで認知症の行動・心理症状がみられるのは3レベル以上と言われており、その割合は、要介護1～2が25.8%、要支援1～2が15.5%、介護予防が4.1%となっています。

認知症疾病の有無別に1レベル以上の者の割合をみると、認知症疾病ありでは100.0%、認知症疾病なしでは36.2%となっています。

図表3-6 認知機能の障害程度



()内は回答者数(人)

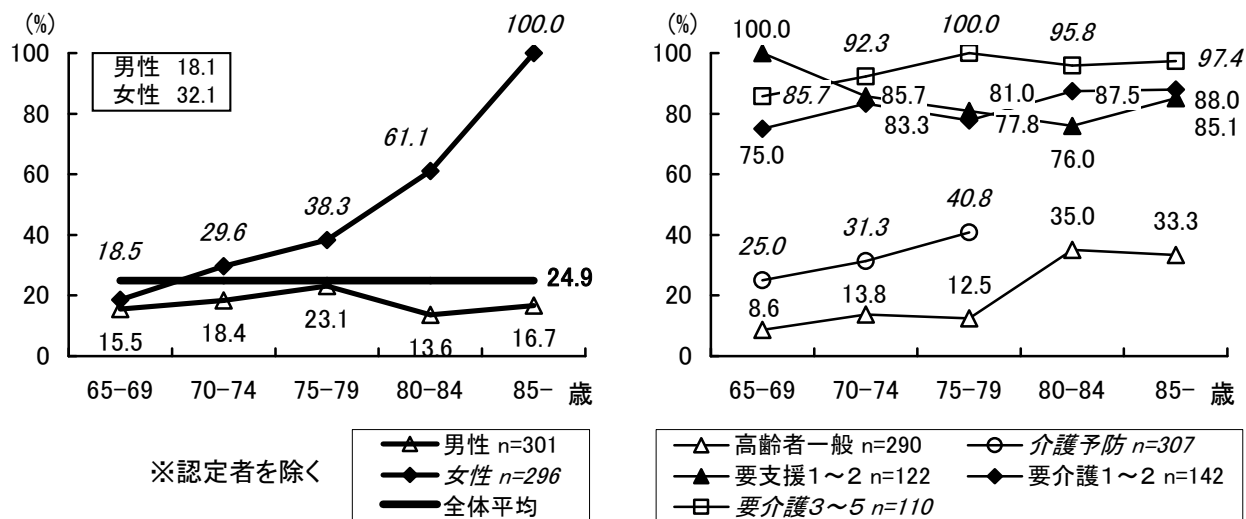
2 機能に関する分析結果

(1) 運動器

基本チェックリストに基づく運動器の評価結果を分析したところ、認定者を除く全体が24.9%、男性が18.1%、女性が32.1%で該当者となっています。男性より女性のほうが、また、女性は年齢が上がるにつれて、該当者割合が高くなっています（注：女性80歳以上は基数が少ない（以降同様））。

認定状況別にみると、どの年齢でも介護予防より、要支援1～2、要介護1～2のほうが、該当者割合が高くなっています。介護予防と要支援1～2の間では大きな差が見られる一方で、要支援1～2と要介護1～2の間では大きな差は見られません。

図表3-7 運動器 該当者割合（性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図））



※介護予防の80歳以上は対象者が少ないため省略（右図、以降の認定状況・年齢階級別のグラフはすべて同様）

図表3-8 運動器 判定で使用した設問及び関連設問

		判定 (%)				
認定状況		高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
回答者数(人)		290	307	122	142	110
判定	問12-1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(「いいえ」)	33.1	47.0	89.8	88.5	93.0
	問12-2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(「いいえ」)	14.7	24.8	82.2	80.6	93.0
	問12-3 15分位続けて歩いていますか。(「いいえ」)	13.4	27.9	55.4	70.9	90.1
	問13-1 この1年間に転んだことがありますか。(「はい」)	16.2	31.5	45.0	50.4	59.0
	問13-2 転倒に対する不安は大きいですか。(「はい」)	37.4	61.2	86.4	87.3	89.1

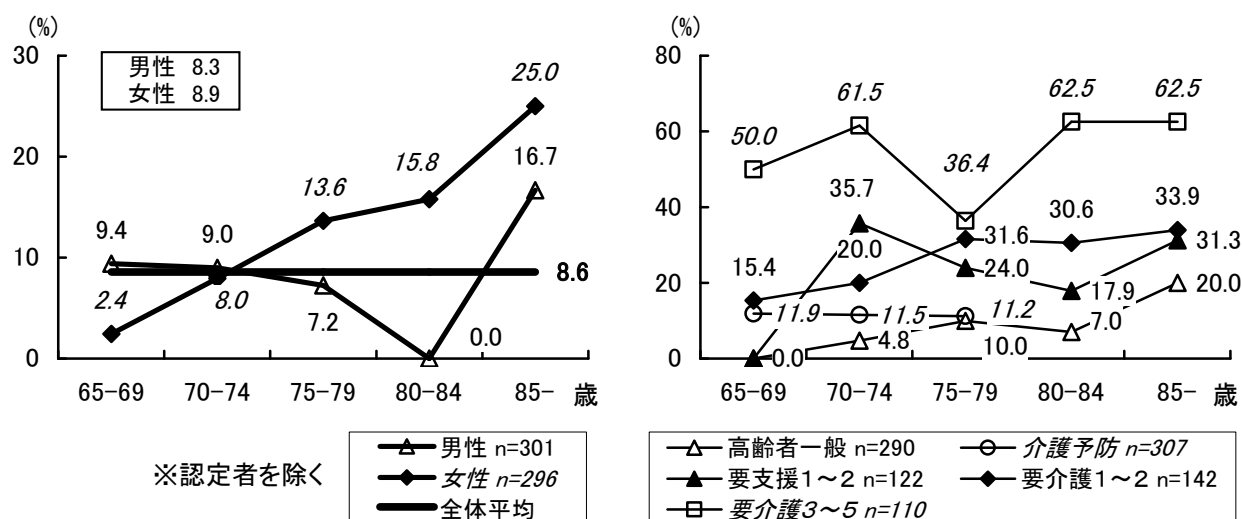
※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。
運動器の判定：5項目中、3項目が該当するもの。

(2) 閉じこもり予防

基本チェックリストに基づく閉じこもり予防の評価結果を分析したところ、認定者を除く全体が8.6%、男性が8.3%、女性が8.9%で該当者となっています。75歳以上では男性より女性のほうが、また、女性では年齢が上がるにつれて、該当者割合が高くなっています。

認定状況別にみると、70歳以上では介護予防より、要支援1～2、要介護1～2のほうが、該当者割合が高くなっています。

図表3-9 閉じこもり予防 該当者割合（性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図））



図表3-10 閉じこもり予防 判定で使用了設問及び関連設問

		判定 (%)				
	認定状況	高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
	回答者数(人)	290	307	122	142	110
判定	問12-4 週に1回以上は外出していますか。(「いいえ」)	5.5	11.5	25.6	29.5	57.8
関連	問12-5 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(「はい」)	70.9	61.9	26.9	32.1	24.0

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

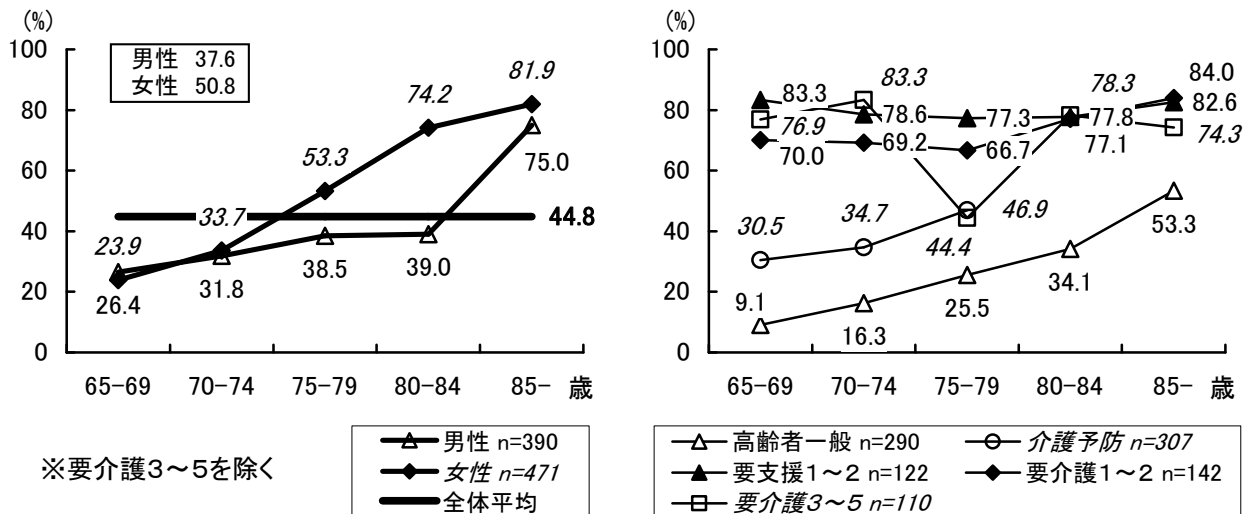
閉じこもり予防の判定: 1項目中、1項目が該当するもの。

(3) 転倒

基本チェックリストに基づく転倒の評価結果を分析したところ、全体(要介護3～5を除く)が44.8%、男性が37.6%、女性が50.8%で該当者となっています。70歳以上では男性より女性のほうが、また、男女とも年齢が上がるにつれて、該当者割合が高くなっています。

認定状況別にみると、どの年齢でも介護予防より、要支援1～2、要介護1～2のほうが、該当者割合が高くなっています。介護予防、高齢者一般では、年齢が上がるにつれて、該当者割合が高くなっています。

図表3-11 転倒 該当者割合(性・年齢階級別(左図)、認定状況・年齢階級別(右図))



図表3-12 転倒 判定で使った設問及び関連設問

		(%)				
	認定状況	高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
	回答者数(人)	290	307	122	142	110
判定	問13-1 この1年間に転んだことがありますか。(「はい」5点)	16.2	31.5	45.0	50.4	59.0
	問13-3 背中が丸くなってきましたか。(「はい」2点)	28.5	37.7	59.0	63.0	68.4
	問13-4 以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか。(「はい」2点)	54.2	75.7	96.6	91.0	89.5
	問13-5 杖を使っていますか。(「はい」2点)	5.9	13.0	62.2	59.6	48.5
	問11-3 現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいますか。(「5種類以上」2点)	26.4	26.4	48.4	58.0	59.3

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

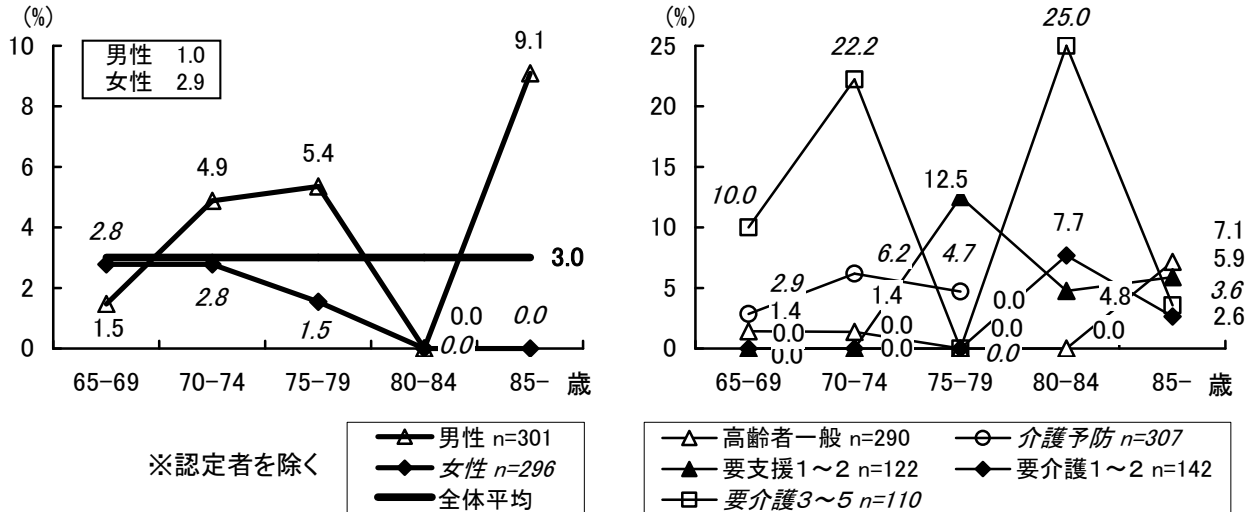
転倒の判定:5項目の配点で、6点以上のもの。

(4) 栄養

基本チェックリストに基づく栄養の評価結果を分析したところ、認定者を除く全体が3.0%、男性が1.0%、女性が2.9%で該当者となっています。70～79歳では、女性より男性のほうが該当者割合が高くなっています。

認定状況別にみると、介護予防でも該当者割合が比較的高く、状態像別の明確な差は見られません。

図表3-13 栄養 該当者割合（性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図））



図表3-14 栄養 判定で使用した設問及び関連設問

	認定状況	(%)				
	回答者数(人)	高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
判定	問14-1 6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。(「はい」)	9.7	18.0	26.0	18.1	31.3
	問14-2 身長、体重 (BMI=体重÷(身長×身長)<18.5)	7.0	9.6	13.7	10.7	24.1
関連	問16-6 食事は自分で食べられますか。(「一部介助があればできる」または「できない」)	0.0	0.7	5.0	14.2	53.8
	問14-9 1日の食事の回数は何回ですか。(「2回以下」)	12.6	18.5	9.8	9.4	17.0
	問14-10 食事を抜くことがありますか。(「ある」)	11.4	21.9	23.5	18.6	26.7

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

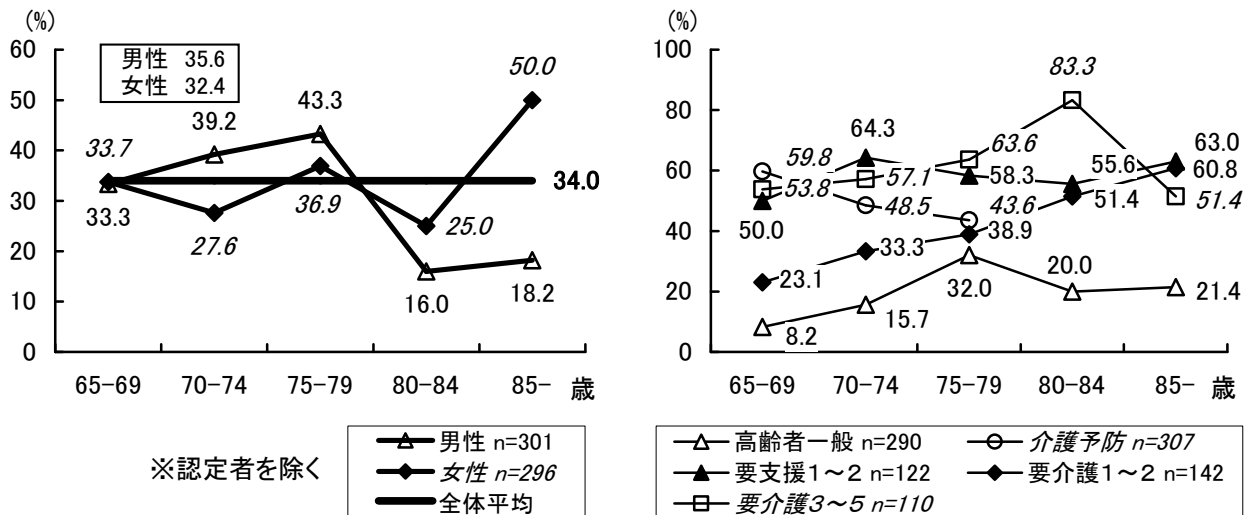
栄養の判定: 2項目中、2項目が該当するもの。

(5) 口腔

基本チェックリストに基づく口腔の評価結果を分析したところ、認定者を除く全体で34.0%、男性で35.6%、女性32.4%が該当者となっています。70～79歳では女性より男性のほうが、該当者割合が高くなっています。65～69歳では、男女による差は見られません。

認定状況別にみると、介護予防と要支援1～2の間では全体的にはあまり大きな差が見られません。高齢者一般については、65～79歳では、年齢が上がるにつれて該当者割合が高まっています。

図表3-15 口腔 該当者割合（性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図））



図表3-16 口腔 判定で使用した設問及び関連設問

		(%)				
	認定状況	高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
	回答者数(人)	290	307	122	142	110
判定	問14-3 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(「はい」)	28.1	56.9	66.4	59.0	73.5
	問14-4 お茶や汁物等でむせることがありますか。(「はい」)	22.3	44.4	50.4	49.2	66.0
	問14-5 口の渇きが気になりますか。(「はい」)	19.4	46.3	58.1	41.5	48.0
関連	問14-6 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか。(「いいえ」)	12.1	13.7	18.0	17.6	34.5
	問14-7 定期的に歯科受診(健診を含む)を受けていますか。(「いいえ」)	57.2	57.7	77.0	69.7	72.7
	問14-8 入れ歯を使用していますか。(「はい」)	56.2	60.9	77.0	73.2	54.5
	回答者数(人)	131	217	86	70	51
	問14-8-1 (入れ歯のある人)噛み合わせは良いですか。(「いいえ」)	14.1	31.0	35.1	28.8	26.7
	問14-8-2 (入れ歯のある人)毎日入れ歯の正しい手入れをしていますか。(「いいえ」)	4.9	12.3	17.0	16.3	25.0

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

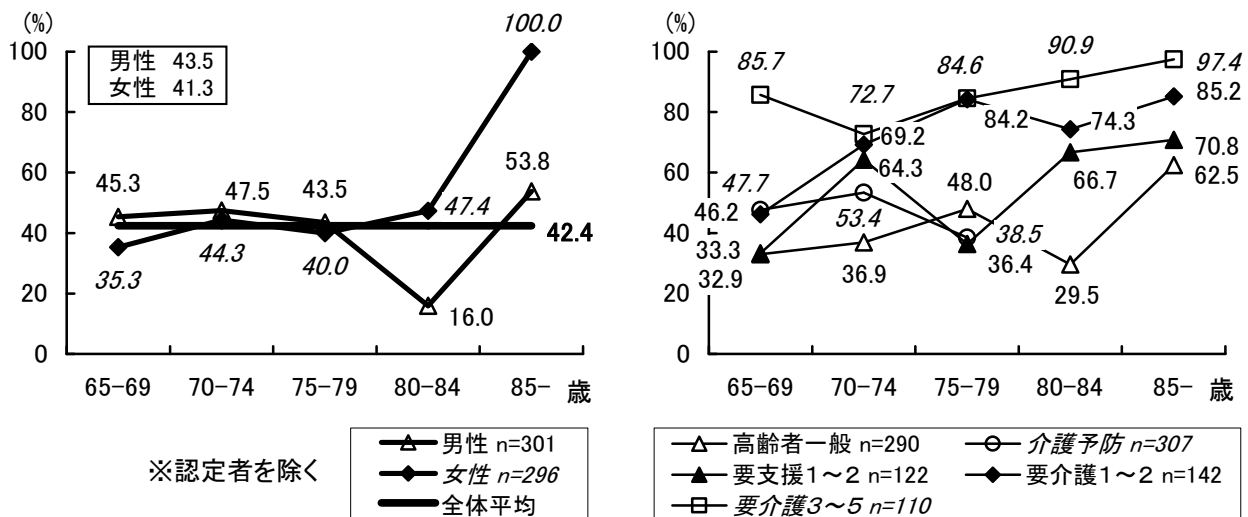
口腔の判定:3項目中、2項目が該当するもの。

(6) 認知

基本チェックリストに基づく認知の評価結果を分析したところ、認定者を除く全体で42.4%、男性で43.5%、女性41.3%が該当者となっています。79歳以下では女性より男性のほうが、わずかに該当者割合が高くなっています。

認定状況別にみると、どの年齢でも、要支援1～2より要介護1～2のほうが、該当者割合が高くなっています。

図表3-17 認知 該当者割合（性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図））



図表3-18 認知 判定で使用した設問及び関連設問

		(%)				
	認定状況	高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
	回答者数(人)	290	307	122	142	110
判定	問15-1 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われますか。（「はい」）	17.0	20.7	33.9	56.6	63.7
	問15-2 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。（「いいえ」）	11.4	16.2	25.6	52.6	81.7
	問15-3 今日が何月何日かわからない時がありますか。（「はい」）	24.2	32.3	42.9	58.4	70.2
関連	問11-2_14 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。（認知症）	0.3	1.0	4.9	26.1	31.8

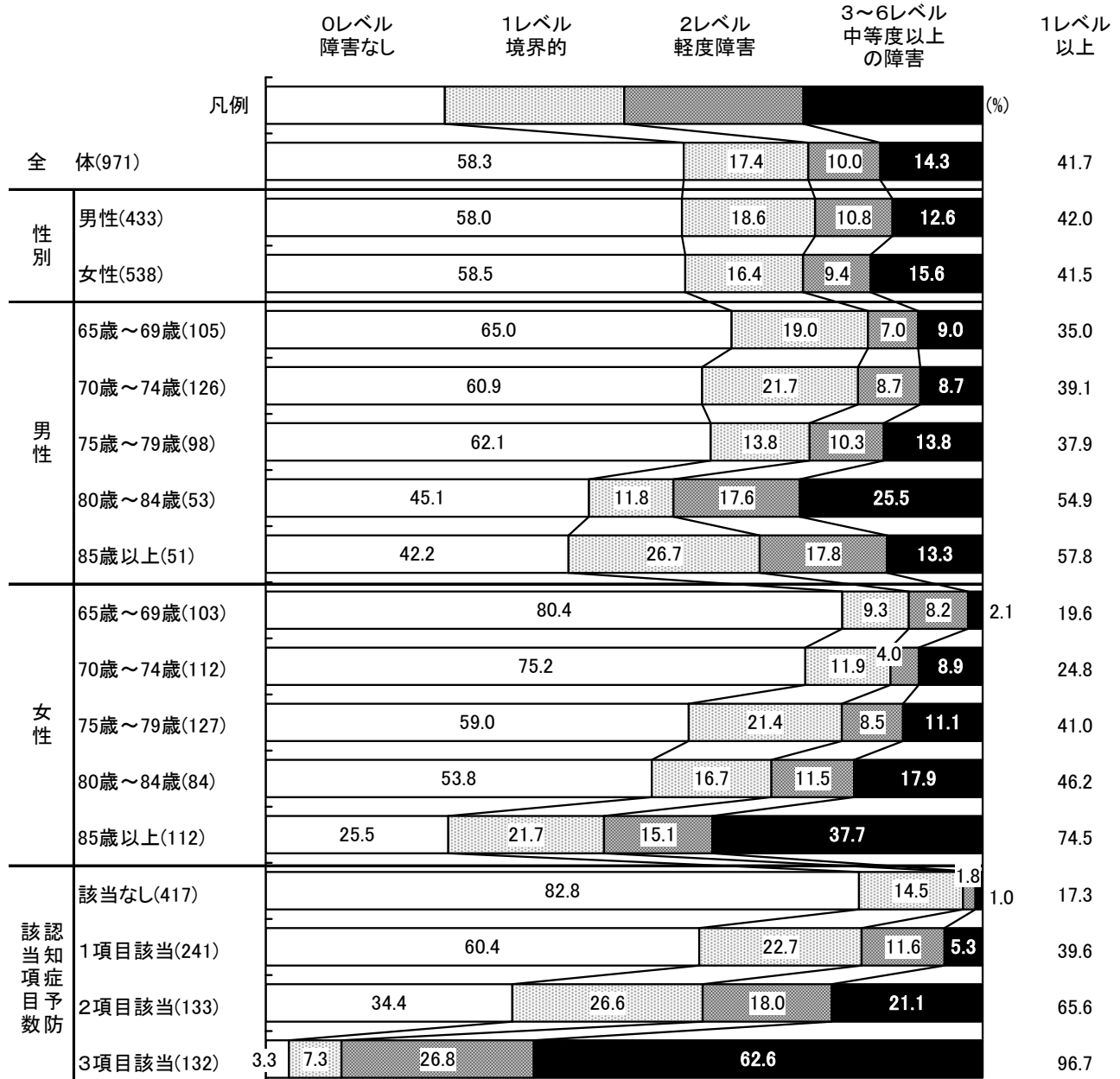
※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

認知の判定：3項目中、1項目が該当するもの。

今回の調査には、認知機能の障害程度の指標として有用とされるCPS（Cognitive Performance Scale）に準じた設問を組み込んであります。設問に対する回答内容により、0レベル（障害なし）から6レベル（最重度の障害がある）までの評価が可能となっています。

性別にみると、男性と女性で大きな差は見られません。年齢別にみると、男性は75～79歳を境に、また、女性は年齢が上がるにつれて、障害程度の重い人が増えています。また、前ページで判定した認知症予防該当項目数別にみると、項目数が多いほど障害程度の重い人が増えており、3項目すべてに該当する場合は、ほとんどがレベル1以上であり、特に6割強が3～6レベルとなっています。

図表3-19 認知機能障害程度（CPS）区分別割合（性・年齢階級別、認知症予防該当項目別）

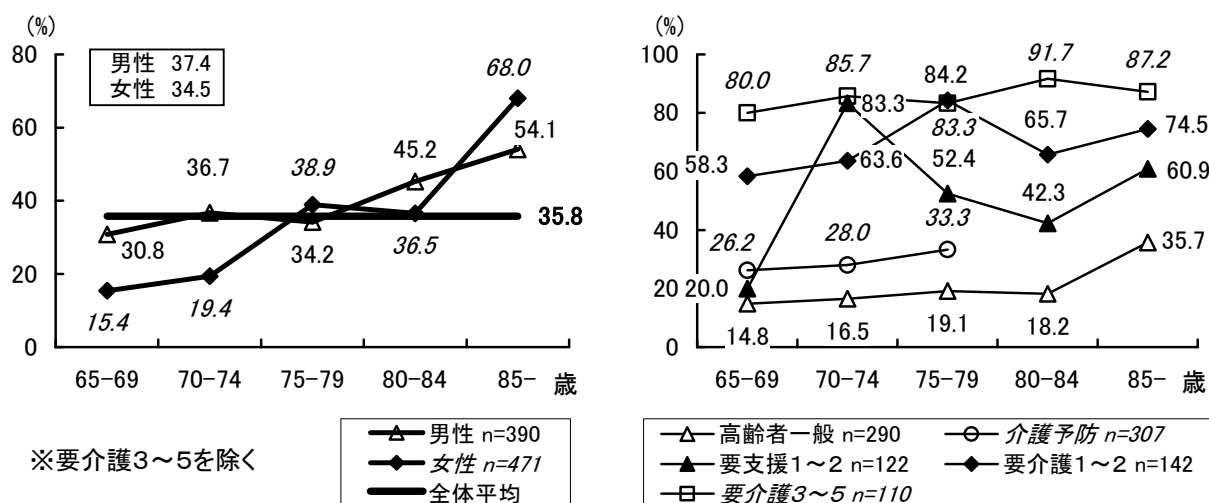


()内は回答者数(人)

認知機能リスク者割合（CPS 1項目以上該当）を分析したところ、1レベル以上の障害程度と評価されるリスク者の割合は、全体が35.8%、男性が37.4%、女性が34.5%であり、74歳以下では女性より男性のほうが、該当者割合が高くなっています。また、年齢別にみると、おおむね年齢が上がるにつれて、リスク者割合が高くなっています。

認定状況別にみると、70～79歳では介護予防より要支援1～2のほうが、75歳以上では要支援1～2より要介護1～2のほうが、該当者割合が高くなっています。

図表3-20 認知機能リスク者割合（CPS 1項目以上該当）
（性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図））



図表3-21 認知機能リスク者割合 評価で使った設問及び関連設問

		(%)				
認定状況	回答者数(人)	高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
問15-4 5分前のことが思い出せますか。(「いいえ」)	290	8.2	10.7	19.3	37.1	50.0
問15-5 その日の活動(食事を する、衣服を選ぶなど)を自分で 判断できますか。* 参照	290	4.6	10.6	40.8	60.1	85.0
問15-6 人に自分の考えをうまく 伝えられますか。* * 参照	290	8.1	19.5	42.4	51.4	70.5
問16-6 食事は自分で食べられ ますか。(「一部介助があれば できる」、「できない」)	290	0.0	0.7	5.0	14.2	53.8

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

認知機能の障害程度の評価方法：4項目の内容により、0～6レベルの7段階で評価(詳細は省略)。

* 問15-5(「いくらか困難であるが、できる」、「判断するとき、他人からの合図や見守りが必要」、「ほとんど判断できない」)

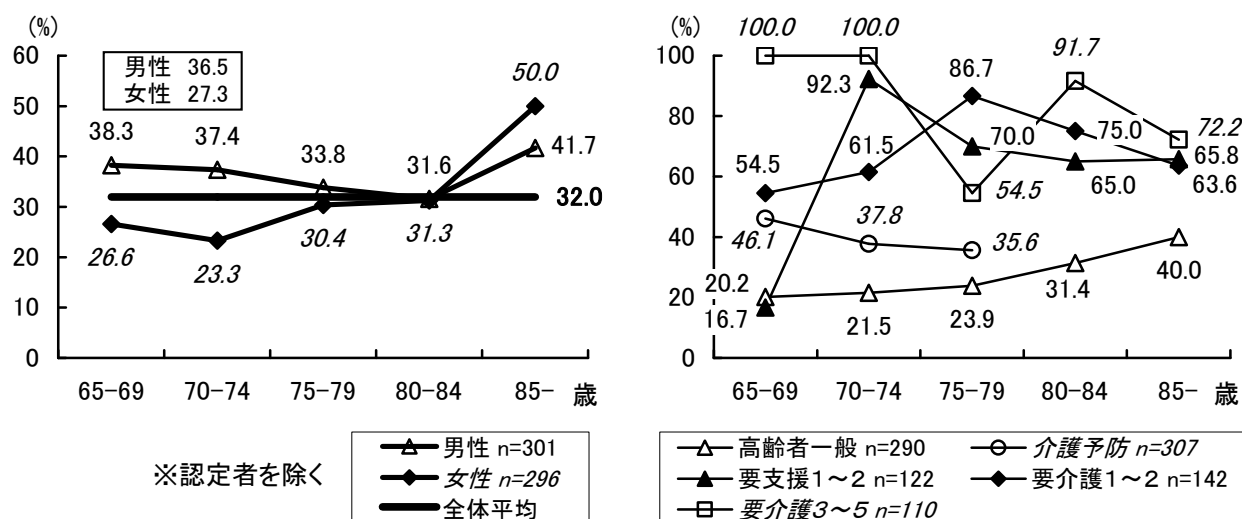
* * 問15-6(「いくらか困難であるが、伝えられる」、「あまり伝えられない」、「ほとんど伝えられない」)

(7) うつ予防

基本チェックリストに基づくうつ予防の評価結果を分析したところ、認定者を除く全体が32.0%、男性が36.5%、女性が27.3%で該当者となっています。84歳以下では女性より男性のほうが、該当者割合が高くなっています。

認定状況別にみると、70～79歳では介護予防より要支援1～2のほうが、75～84歳では要支援1～2より要介護1～2のほうが、該当者割合が高くなっています。

図表3-22 うつ予防 該当者割合（性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図））



図表3-23 うつ予防 判定で使用した設問及び関連設問

		(%)				
	認定状況	高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
	回答者数(人)	290	307	122	142	110
判定	問11-4（ここ2週間）毎日の生活に充実感がない。（「はい」）	19.4	25.9	47.2	55.0	66.3
	問11-5（ここ2週間）これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった。（「はい」）	14.1	22.7	46.4	51.6	69.0
	問11-6（ここ2週間）以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる。（「はい」）	33.1	45.7	69.0	73.5	82.0
	問11-7（ここ2週間）自分が役に立つ人間だと思えない。（「はい」）	16.7	24.3	54.5	54.3	69.0
	問11-8（ここ2週間）わけもなく疲れたような感じがする。（「はい」）	18.9	38.8	55.9	57.1	67.7

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

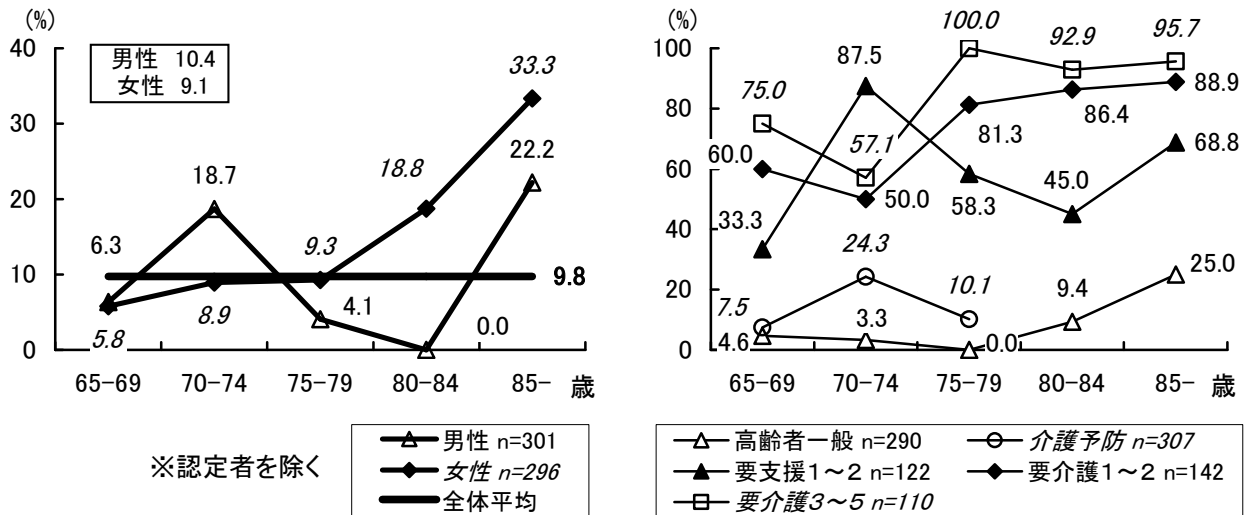
うつ予防の判定：5項目中、2項目が該当するもの。

(8) 虚弱

基本チェックリストに基づく虚弱の評価結果を分析したところ、認定者を除く全体が9.8%、男性が10.4%、女性が9.1%で該当者となっています。75歳以上では男性より女性のほうが、また、女性は年齢が上がるにつれて、該当者割合が高くなっています。

認定状況別にみると、高齢者一般では、75～79歳を境に年齢が上がるにつれて、該当者割合が高くなっています。75歳以上では要支援1～2より要介護1～2のほうが、該当者割合が高くなっています。また、どの年齢でも要支援1～2、要介護1～2は、介護予防より該当者割合が大幅に高くなっています。

図表3-24 虚弱 該当者割合（性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図））



図表3-25 虚弱 判定で使用した設問及び関連設問

		(%)				
	認定状況	高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
	回答者数(人)	290	307	122	142	110
判定	問16-1 バスや電車で一人で外出していますか。（「できるだけしていない」または「できない」）	13.5	18.1	62.5	90.0	92.4
	問16-2 日用品の買物をしていますか。（「できるだけしていない」または「できない」）	8.5	13.2	51.3	82.4	95.3
	問16-5 預貯金の出し入れをしていますか。（「できるだけしていない」または「できない」）	15.1	20.4	46.7	79.7	93.4
	問17-5 友人の家を訪ねていますか。（「いいえ」）	37.5	47.0	73.1	82.1	95.3
	問17-6 家族や友人の相談に乗っていますか。（「いいえ」）	16.2	27.7	53.8	68.4	81.1

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

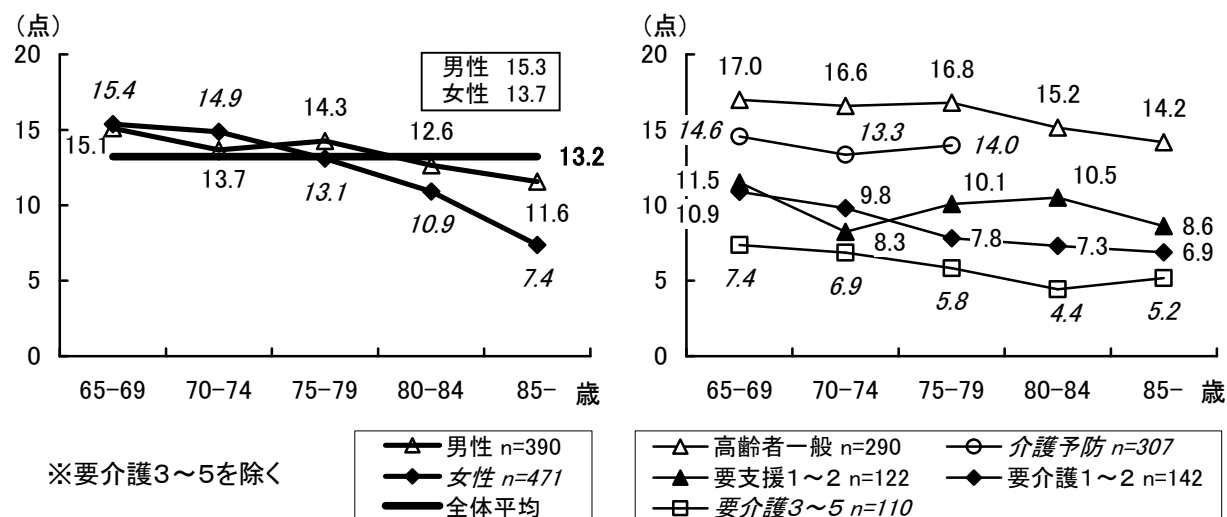
虚弱の判定: 基本チェックリストの25項目のうち、うつ予防・支援に関する5項目を除いた20項目において、10項目以上に該当する者。未出の5項目のみ表示。

基本チェックリスト20項目について、それぞれ該当しない回答をした場合を1点として、その合計得点の平均を求めたのが下の図表です。男性、女性とも年齢が上がるにつれて、平均得点が下がっているとともに、男性より女性のほうが80歳を過ぎると、その低下幅が大きくなっています。

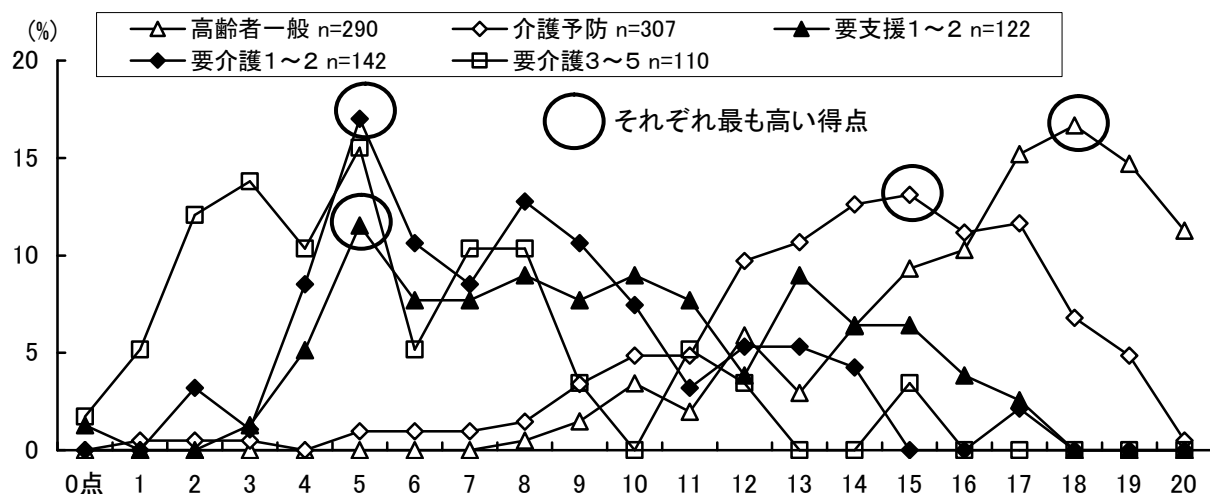
認定状況別にみると、79歳以下では、最も高いのが高齢者一般で、次いで介護予防、要支援1～2または要介護1～2の順となっており、それぞれの生活機能のレベルを反映した結果となっています。

20項目すべてに回答のあった人について、この得点の相対度数分布をみると、高齢者一般が18点、介護予防が15点、要支援1～2、要介護1～2が5点で、それぞれ最も高い値になっています。

図表3-26 基本チェックリスト得点（性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図））



図表3-27 基本チェックリスト得点の相対度数分布（認定状況別）



相対度数分布

	0点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20 (%)
高齢者一般 n=290	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.5	3.4	2.0	5.9	2.9	6.4	9.3	10.3	15.2	16.7	14.7	11.3
介護予防 n=307	0.0	0.5	0.5	0.5	0.0	1.0	1.0	1.0	1.5	3.4	4.9	4.9	9.7	10.7	12.6	13.1	11.2	11.7	6.8	4.9	0.5
要支援1～2 n=122	1.3	0.0	0.0	1.3	5.1	11.5	7.7	7.7	9.0	7.7	9.0	7.7	3.8	9.0	6.4	6.4	3.8	2.6	0.0	0.0	0.0
要介護1～2 n=142	0.0	0.0	3.2	1.1	8.5	17.0	10.6	8.5	12.8	10.6	7.4	3.2	5.3	5.3	4.3	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0
要介護3～5 n=110	1.7	5.2	12.1	13.8	10.3	15.5	5.2	10.3	10.3	3.4	0.0	5.2	3.4	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

(9) 二次予防対象者

二次予防対象者については、運動器、口腔など、複数の評価項目で重複して該当する人がいるため、重複を除いて該当者割合を求めました。

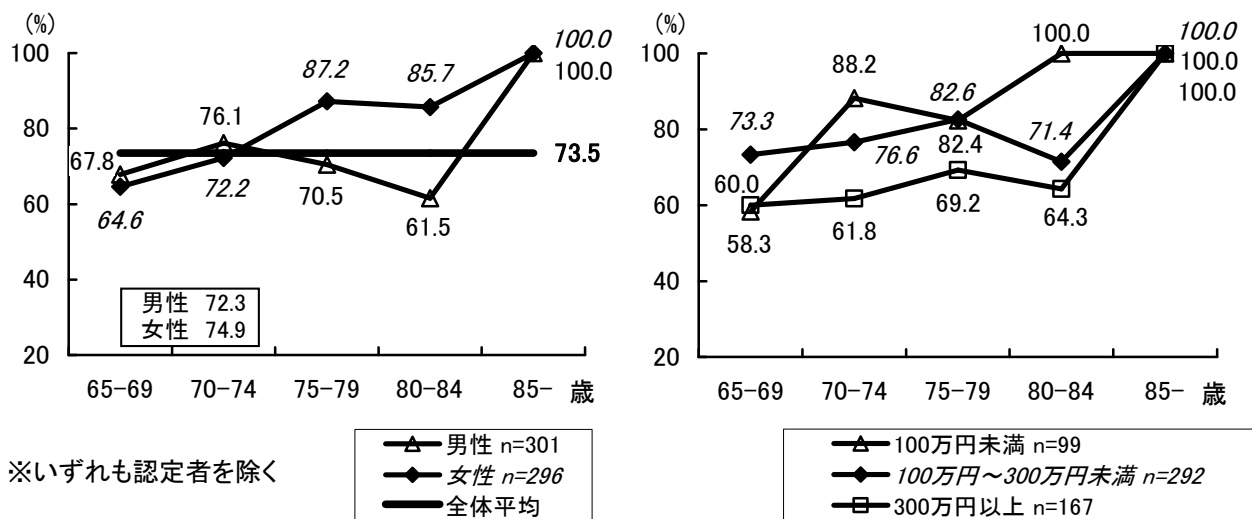
該当者割合は、認定者を除く全体が73.5%、男性が72.3%、女性が74.9%となっています。65～74歳では男性と女性の差はほとんど見られません。75～84歳では、男性よりも女性のほうが、また、女性はおおむね年齢が上がるにつれて、該当者割合が高くなっています。

本人と配偶者の年収別にみると、70歳～84歳では年収300万円以上で、該当者割合が低くなっています。

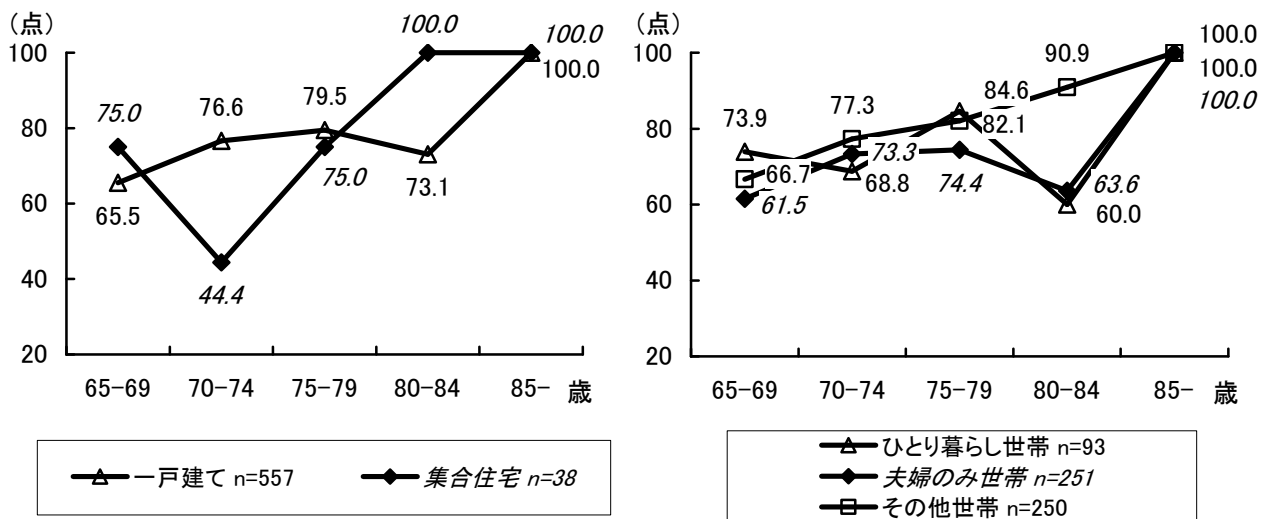
住宅の種類別にみると、一戸建てでは、65～79歳にかけては、年齢が上がるにつれて、該当者割合が高くなっています。集合住宅の図は参考表示です。

世帯構成別にみると、その他世帯では、年齢が上がるにつれて、該当者割合が高くなっています。

図表3-28 二次予防対象者 該当者割合
(性・年齢階級別 (左図)、本人と配偶者の年収・年齢階級別 (右図))



図表3-29 二次予防対象者 該当者割合
(住宅の種類・年齢階級別 (左図)、世帯構成・年齢階級別 (右図))



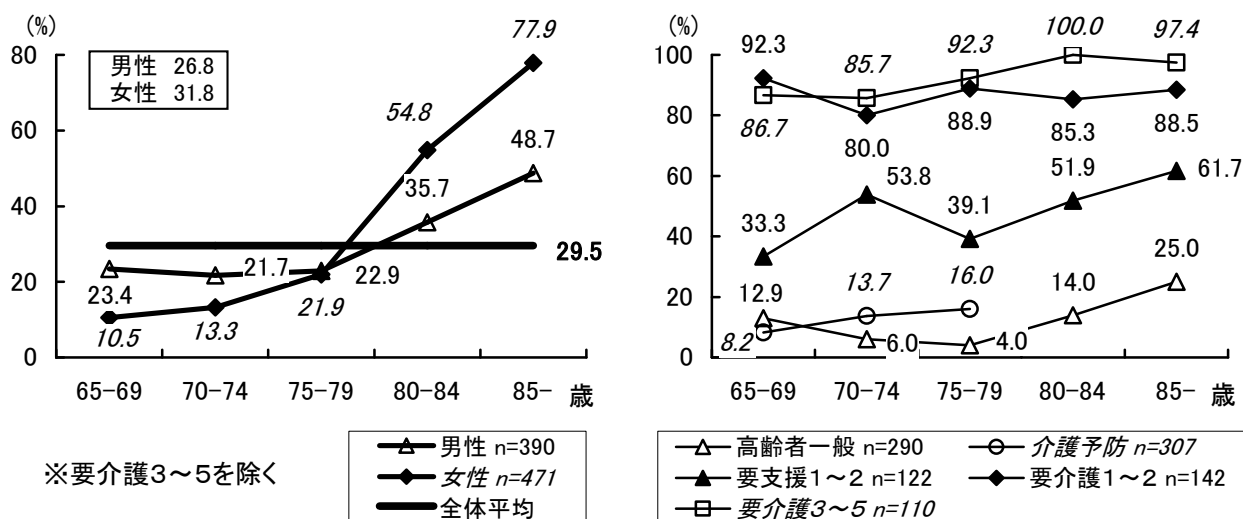
3 日常生活に関する分析結果

(1) 手段的日常生活動作（IADL）自立度

今回の調査では、高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標に準じた設問を組み込んでいます。このうち、手段的日常生活動作（IADL）自立度について、4点以下を低下者とした評価結果をみると、79歳以下までは女性より男性のほうが、一方、80歳以上では男性より女性のほうが、低下者割合が高くなっています。また、75歳以上では年齢が上がるにつれて、低下者割合が高くなっています。

認定状況別にみると、低下者割合が最も高いのは要介護1～2、次いで、要支援1～2となっています。介護予防と高齢者一般では、あまり大きな差は見られませんが、65～69歳を除き介護予防のほうが、低下者割合は高くなっています。一方、介護予防、要支援1～2、要介護1～2の間では、大きな差が見られます。高齢者一般では、75～79歳を境に低下者割合が高くなっています。

図表3-30 手段的日常生活動作自立度 低下者割合
(性・年齢階級別(左図)、認定状況・年齢階級別(右図))



図表3-31 手段的日常生活動作自立度 判定で使用した設問及び関連設問

		(%)				
	認定状況	高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
	回答者数(人)	290	307	122	142	110
判定	問16-1 バスや電車一人で外出していますか。(「できるし、している」、「できるだけしていない」)	96.4	93.6	58.3	22.1	9.5
	問16-2 日用品の買物をしていますか。(「できるし、している」、「できるだけしていない」)	98.9	95.4	68.1	33.1	12.3
	問16-3 自分で食事の用意をしていますか。(「できるし、している」、「できるだけしていない」)	94.7	92.4	69.2	33.3	8.5
	問16-4 請求書の支払いをしていますか。(「できるし、している」、「できるだけしていない」)	98.6	94.0	76.0	45.9	18.1
	問16-5 預貯金の出し入れをしていますか。(「できるし、している」、「できるだけしていない」)	97.5	94.7	75.8	42.0	16.0

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

生活機能低下者割合の判定: 上の5項目を各1点として5点満点で、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」として評価するが、本調査では、4点以下を低下者とする。

手段的日常生活動作自立度に関する設問において、「できるけどしていない」により、能力と実行状況の差をみると、バスや電車による外出や日用品の買物は要支援1～2、食事の用意は高齢者一般、介護予防、請求書の支払い要介護1～2、預貯金の出し入れは要支援1～2、要介護1～2で、本来はできるのにしていない人が、それぞれ5人に1人前後いることがわかります。

図表3-32 手段的日常生活動作自立度 能力と実行状況の差

		(%)				
	認定状況	高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
	回答者数(人)	290	307	122	142	110
参 考	問16-1 バスや電車一人で外出していますか。 (「できるけどしていない」)	10.0	11.7	20.8	12.1	1.9
	問16-2 日用品の買物をしていますか。 (「できるけどしていない」)	7.4	8.6	19.3	15.4	7.5
	問16-3 自分で食事の用意をしていますか。 (「できるけどしていない」)	23.5	20.5	12.5	10.9	4.7
	問16-4 請求書の支払いをしていますか。 (「できるけどしていない」)	13.9	12.0	14.0	20.7	11.4
	問16-5 預貯金の出し入れをしていますか。 (「できるけどしていない」)	12.6	15.1	22.5	21.7	9.4

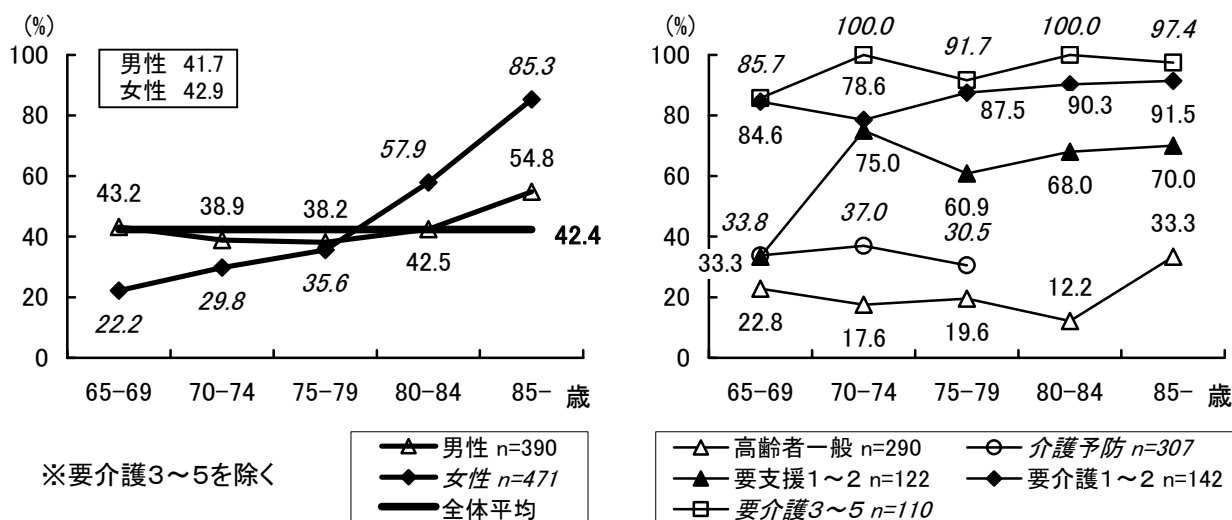
※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

(2) 生活機能総合評価

手段的日常生活動作自立度に、知的能動性、社会的役割を加えた老研指標13項目は13点満点で評価し、11点以上を「高い」、9～10点を「やや低い」、8点以下を「低い」として評価しますが、本調査では10点以下を「低下者」とした評価結果をみると、79歳以下までは女性より男性のほうが、一方、80歳以上では男性より女性のほうが、低下者割合が高くなっています。

認定状況別にみると、最も低下者割合が最も高いのは、要介護1～2であり、次いで、65～69歳を除いて、要支援1～2、介護予防、高齢者一般の順となっています。介護予防、高齢者一般は、どの年齢でも10点強の差があります。

図表3-33 生活機能総合評価 低下者割合（性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図））



(3) 日常生活動作 (ADL)

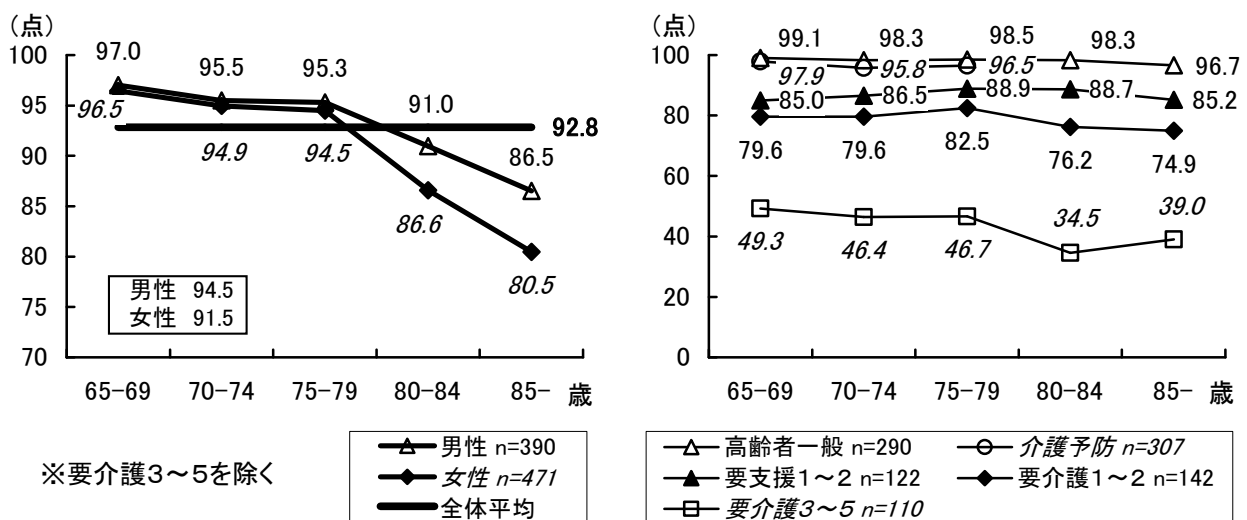
今回の調査には、日常生活動作 (ADL) に関する設問を組み込んでいます。内容は、食事、移動、整容、トイレ動作、入浴、歩行、階段昇降、着替え、排便、排尿の10項目で、それぞれ自立、部分介助など数段階の自立度で評価するADL評価指標として広く用いられているバーセルインデックス (Barthel Index) に準じた設問内容となっています。

日常生活動作の合計得点の平均値を、性別にみると、特に80歳以上の女性で平均得点が低下しています。

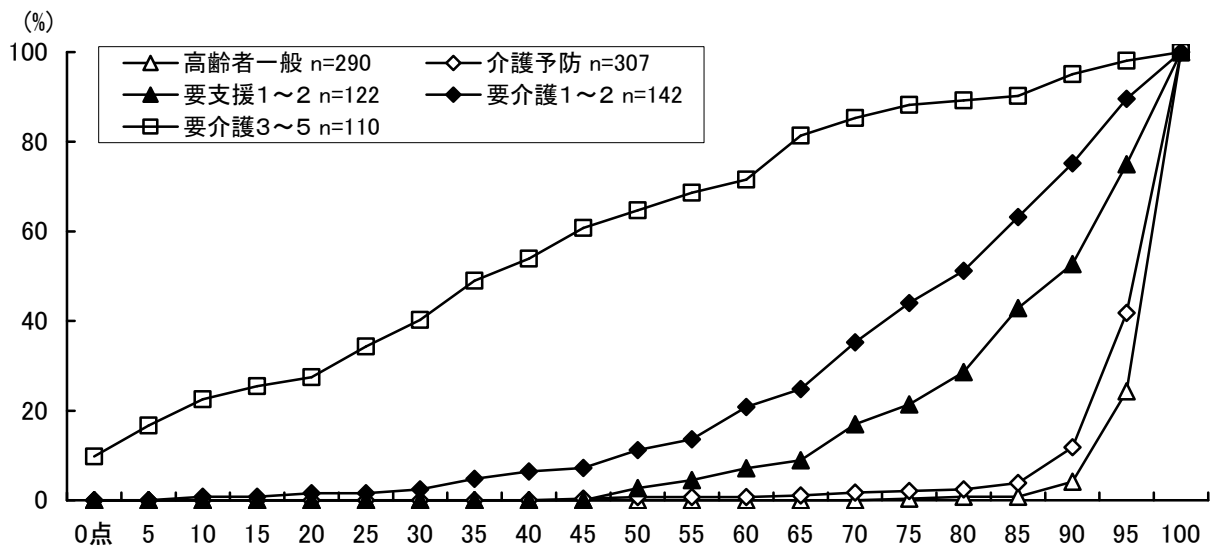
認定状況別にみると、要介護1～2の平均得点は80点前後、要支援1～2は85点強であり、要介護1～2で機能低下が目立ちます。これに対して、介護予防と高齢者一般では、どの年齢でも95点以上となっており、日常生活動作の平均得点に大きな差は見られません。

日常生活動作の合計得点について、認定状況別に累積相対度数をみると、要介護1～2では45点頃から高得点まで得点が分散しているため、なだらかな分布となっています。これに対して、介護予防、高齢者一般では95点以上で過半数を占めるため、逆L字型の分布となっています。なお、要支援1～2は80点頃から分布が集中し、要介護1～2と介護予防、高齢者一般の中間に位置しています。

図表3-34 日常生活動作 平均得点 (性・年齢階級別 (左図)、認定状況・年齢階級別 (右図))



図表3-35 日常生活動作 得点累積相対度数分布



図表3-36 日常生活動作 得点累積相対度数分布

	0点	5	15	10	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100	(%)
高齢者一般 n=290	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.7	0.7	4.1	24.3	100.0	
介護予防 n=307	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.7	0.7	0.7	1.0	1.7	2.1	2.4	3.8	11.8	41.8	100.0	
要支援1～2 n=122	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7	4.5	7.1	8.9	17.0	21.4	28.6	42.9	52.7	75.0	100.0	
要介護1～2 n=142	0.0	0.0	0.8	0.8	1.6	1.6	2.4	4.8	6.4	7.2	11.2	13.6	20.8	24.8	35.2	44.0	51.2	63.2	75.2	89.6	100.0	
要介護3～5 n=110	9.8	16.7	22.5	25.5	27.5	34.3	40.2	49.0	53.9	60.8	64.7	68.6	71.6	81.4	85.3	88.2	89.2	90.2	95.1	98.0	100.0	

次に、日常生活動作に関する各設問に対する回答を認定状況別にみると、自立の割合の差が大きいのは、入浴、歩行、階段昇降、排便、排尿などとなっています。一方、比較的差が小さいのは、食事、寝床・ベッドへの移動、洗面や歯磨き（整容）、トイレ動作、着替えとなっています。

要支援1～2について、自立の割合をみると、歩行（68.3%）、階段昇降（53.3%）、排便（76.3%）、排尿（45.5%）などで低くなっています。なお、排尿は高齢者一般が76.7%、介護予防が63.0%であり、その他の項目に比べると低くなっています。

このことから、高齢者では排尿の動作から機能低下が始まり、次いで、階段昇降、歩行、排便の動作へと機能低下が広がっていくことがうかがえます。

図表3-37 日常生活動作 判定で使用した設問及び関連設問

		(%)				
	認定状況	高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
	回答者数(人)	290	307	122	142	110
判定	問16-6 食事は自分で食べられますか。（「できる」）	100.0	99.3	95.0	85.8	46.2
	問16-7 寝床に入るとき、何らかの介助を受けますか。（「受けない」）	100.0	99.0	93.3	82.9	30.2
	問16-8 座っていることができますか。（「できる」）	97.5	97.0	73.6	80.0	50.9
	問16-9 自分で洗面や歯磨きができますか。（「できる」）	100.0	99.3	96.6	87.7	37.4
	問16-10 自分でトイレができますか。（「できる」）	100.0	99.7	95.9	86.3	29.9
	問16-11 自分で入浴ができますか。（「できる」）	99.6	98.3	81.1	48.9	12.3
	問16-12 50m以上歩けますか。（「できる」）	99.3	95.3	68.3	46.7	12.4
	問16-13 階段を昇り降りできますか。（「できる」）	97.9	94.0	53.3	35.8	11.4
	問16-14 自分で着替えができますか。（「できる」）	100.0	99.7	89.3	81.2	25.2
	問16-15 大便の失敗がありますか。（「ない」）	97.5	94.7	76.3	58.8	26.4
	問16-16 尿もれや尿失禁がありますか。（「ない」）	76.7	63.0	45.5	37.0	23.6
関連	問16-7 家事全般ができていますか。（「できている」）	90.0	86.5	45.8	10.1	3.8

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

日常生活動作(ADL)の判定:「座っていること」を除く上の10項目について、パーセルインデックスの評価方法に従い、各設問で自立を5～15点とし10項目の合計が100点満点となるよう評価している。

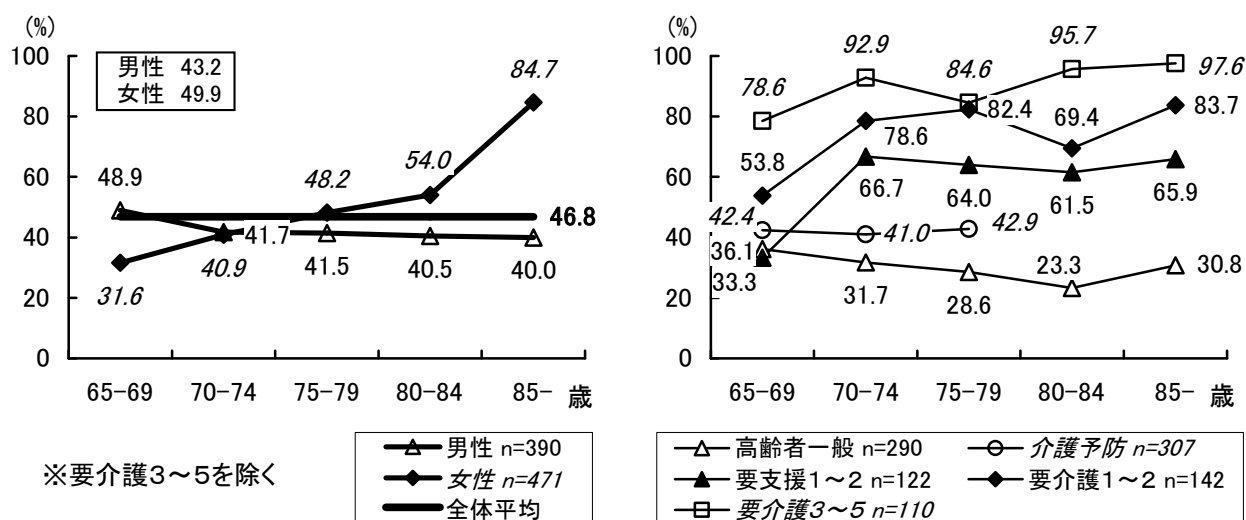
4 社会参加に関する分析結果

(1) 知的能動性

老研式活動能力指標には、高齢者の知的活動に関する設問が4問設けられ、「知的能動性」として尺度化されています。3点以下を低下者とした評価結果をみると、65～74歳では、女性より男性のほうが、低下者割合が高くなっています。一方、75歳以上では、男性より女性のほうが、低下者割合が高くなっています。また、男性は年齢が高くなっても、低下者割合はあまり高くなっていませんが、女性は年齢が上がるにつれて、低下者割合が急激に高まっています。

認定状況別にみると、最も低下者割合が最も高いのは、要介護1～2、次いで、要支援1～2となっています。

図表3-38 知的能動性 低下者割合（性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図））



図表3-39 知的能動性 判定で使用した設問及び関連設問

		(%)				
	認定状況	高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
	回答者数(人)	290	307	122	142	110
判定	問17-1 年金などの書類が書けますか。(「はい」)	94.2	88.5	54.3	32.6	13.1
	問17-2 新聞を読んでいますか。(「はい」)	89.4	80.6	80.8	50.4	26.2
	問17-3 本や雑誌を読んでいますか。(「はい」)	78.9	67.9	59.3	37.3	19.8
	問17-4 健康についての記事や番組に関心がありますか。(「はい」)	92.8	89.0	87.2	55.1	42.5

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

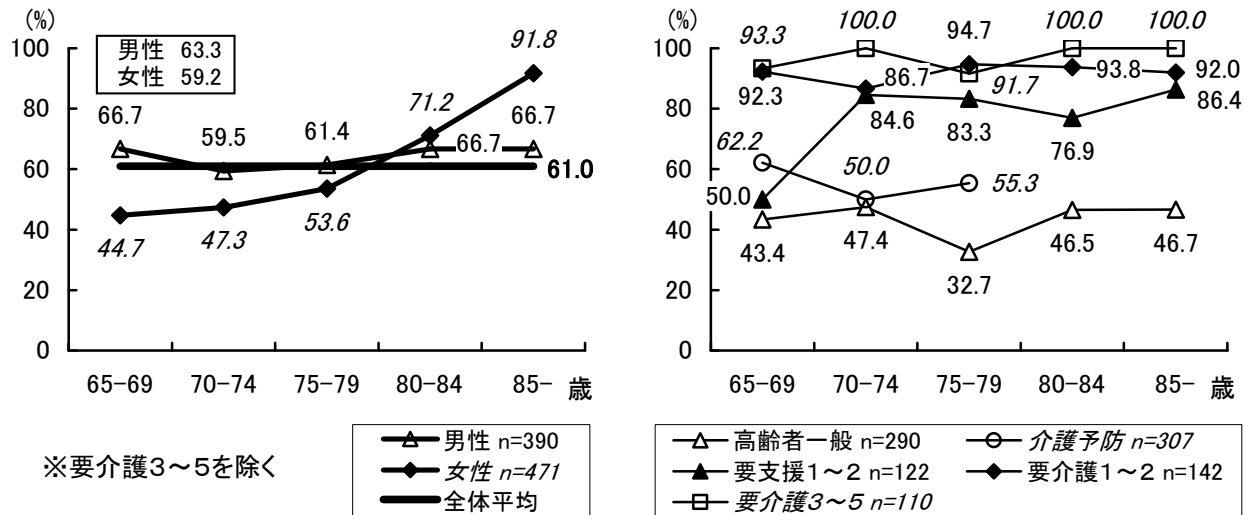
知的能動性の判定：上の老研式活動能力指標として設けられた高齢者の「知的能動性」の評価方法の4項目を各1点として4点満点で、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」として評価するが、本調査では、3点以下を低下者とする。

(2) 社会的役割

老研式活動能力指標には、高齢者の社会活動に関する設問が4問設けられ、「社会的役割」として尺度化されています。3点以下を低下者とした評価結果をみると、65～79歳では、女性より男性のほうが、低下者割合が高くなっています。一方、80歳以上では、男性より女性のほうが、低下者割合が高くなっています。また、知的能動性と同様に、男性は年齢が高くなっても、低下者割合はあまり高くなっていませんが、女性は年齢が上がるにつれて、低下者割合が急激に高まっています。

認定状況別にみると、最も低下者割合が最も高いのは、要介護1～2、次いで、要支援1～2となっています。低下者の値は異なりますが、知的能動性とおおむね似たような傾向となっています。

図表3-40 社会的役割 低下者割合（性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図））



図表3-41 社会的役割 判定で使用した設問及び関連設問

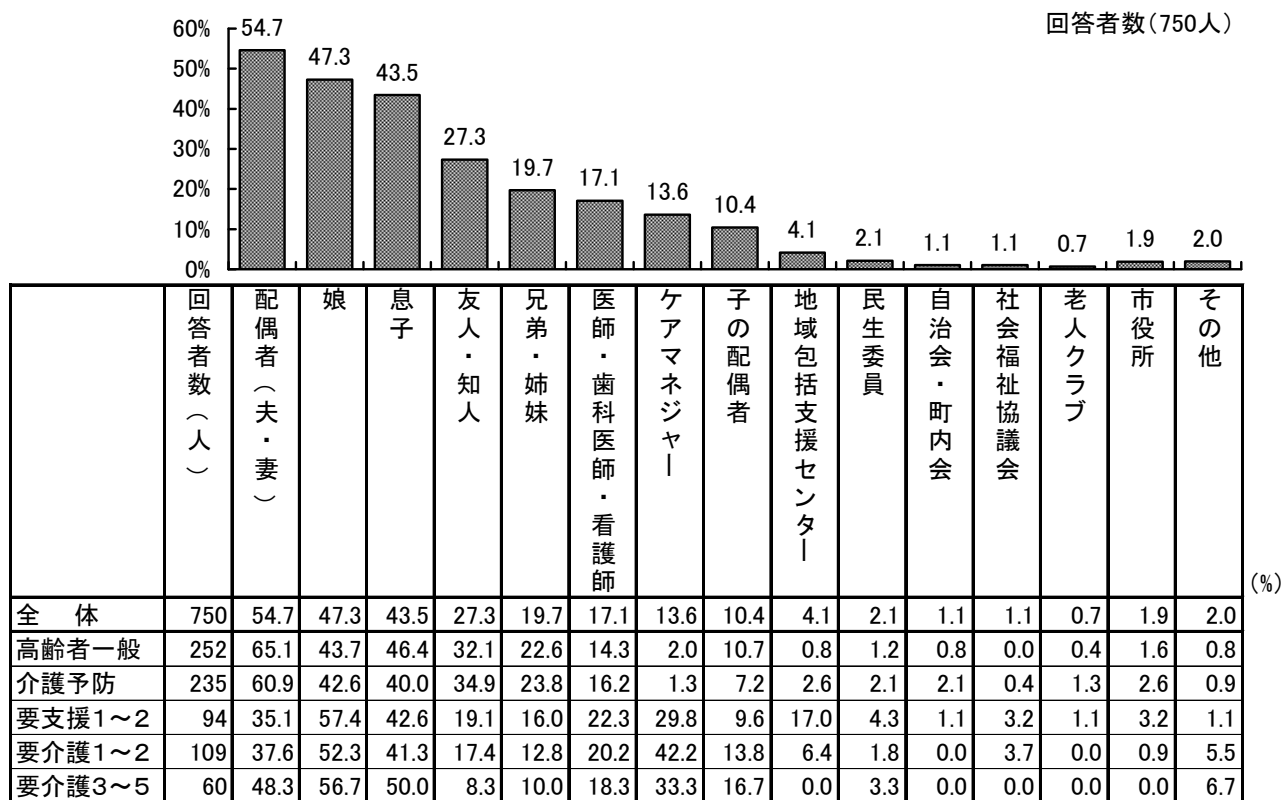
		(%)				
	認定状況	高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
	回答者数(人)	290	307	122	142	110
判定	問17-5 友人の家を訪ねていますか。(「はい」)	62.5	53.0	26.9	17.9	4.7
	問17-6 家族や友人の相談に乗っていますか。(「はい」)	83.8	72.3	46.2	31.6	18.9
	問17-8 病人を見舞うことができますか。(「はい」)	97.5	89.5	60.7	40.3	8.6
	問17-9 若い人に自分から話しかけることがありますか。(「はい」)	84.7	72.0	61.7	51.1	34.6
関連	問17-7 何かあったときに、家族や友人・知人などに相談をしていますか。(「はい」)	89.7	78.3	79.0	77.9	55.6
	問17-10 趣味はありますか。(「はい」)	86.4	77.0	65.8	44.9	20.0
	問17-11 生きがいがありますか。(「はい」)	89.1	75.7	59.0	49.6	35.6

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

社会的役割の判定: 上の老研式活動能力指標として設けられた高齢者の「社会的役割」の評価方法の4項目を各1点として4点満点で、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」として評価するが、本調査では、3点以下を低下者とする。

「何かあったときに、家族や友人・知人などに相談をしていますか」との問いに、相談していると回答した人に相談相手をたずねたところ、全体では、「配偶者（夫・妻）」が54.7%と最も高く、次いで、「娘」が47.3%、「息子」が43.5%などの順となっています。

図表3-42 （相談している人）相談相手

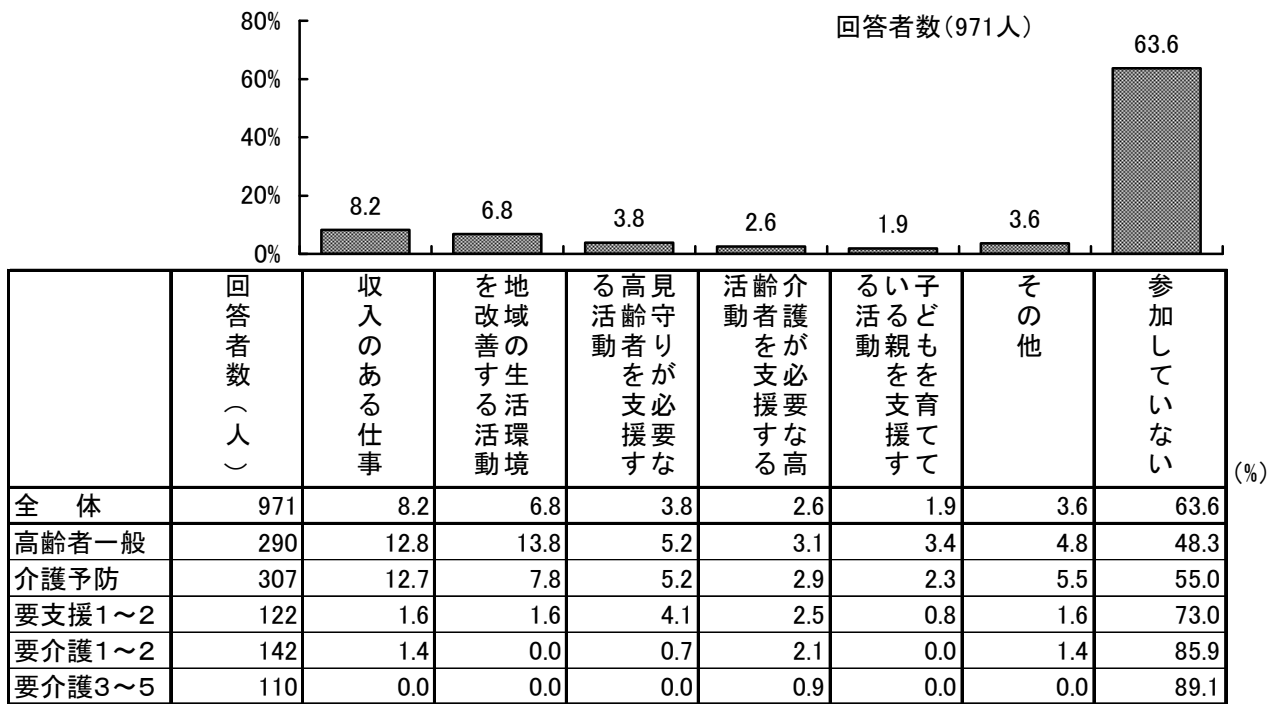


※無回答は省略

参加している社会参加活動は、全体では、「収入のある仕事」が8.2%、「地域の生活環境を改善する活動」が6.8%などの順となっています。「収入のある仕事」は高齢者一般、介護予防がともに1割強、「地域の生活環境を改善する活動」は高齢者一般が1割強、介護予防が1割弱となっています。なお、要支援1～2、要介護1～2では、「参加していない」が8割前後となっています。

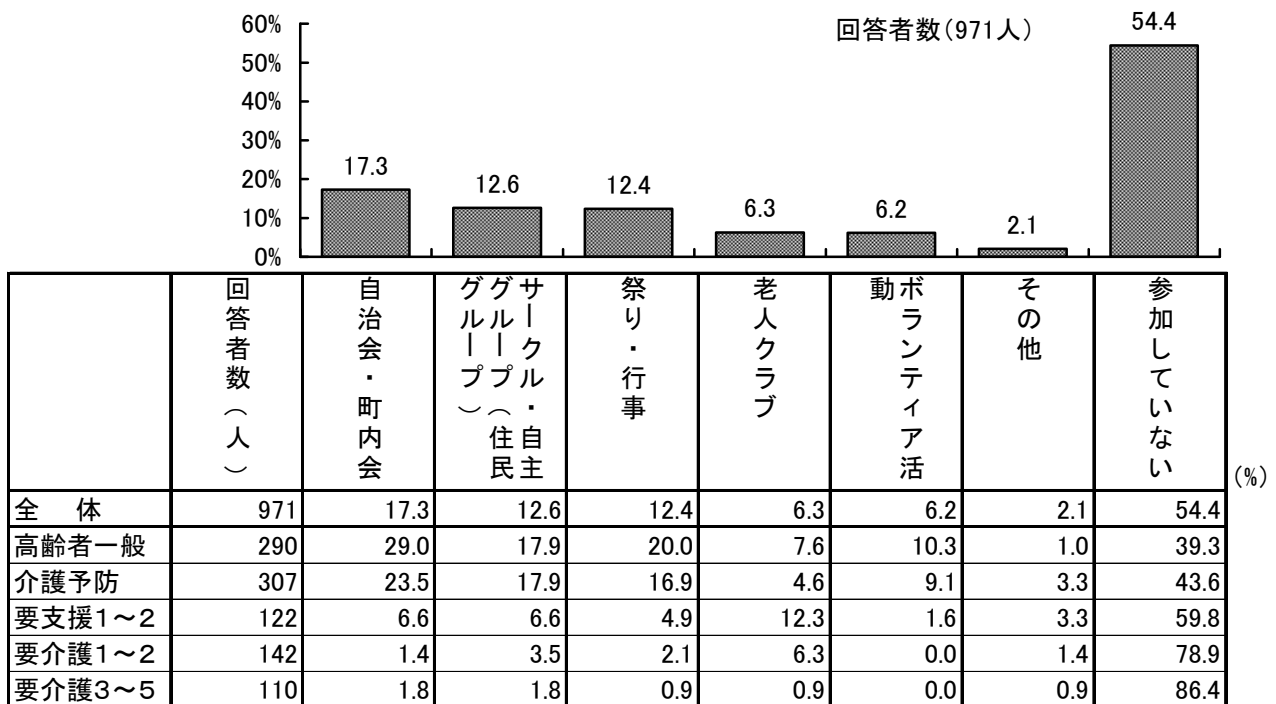
参加している地域活動は、全体では、「自治会・町内会」が17.3%、「サークル・自主グループ（住民グループ）」が12.6%、「祭り・行事」が12.4%などの順となっています。「自治会・町内会」は高齢者一般が3割弱、介護予防が2割強、「サークル・自主グループ（住民グループ）」、「祭り・行事」は高齢者一般、介護予防がともに2割程度となっています。なお、要支援1～2、要介護1～2では、「参加していない」が、それぞれ6割弱、8割弱となっています。

図表3-43 参加している社会参加活動



※無回答は省略

図表3-44 参加している地域活動



※無回答は省略

5 疾病に関する分析結果

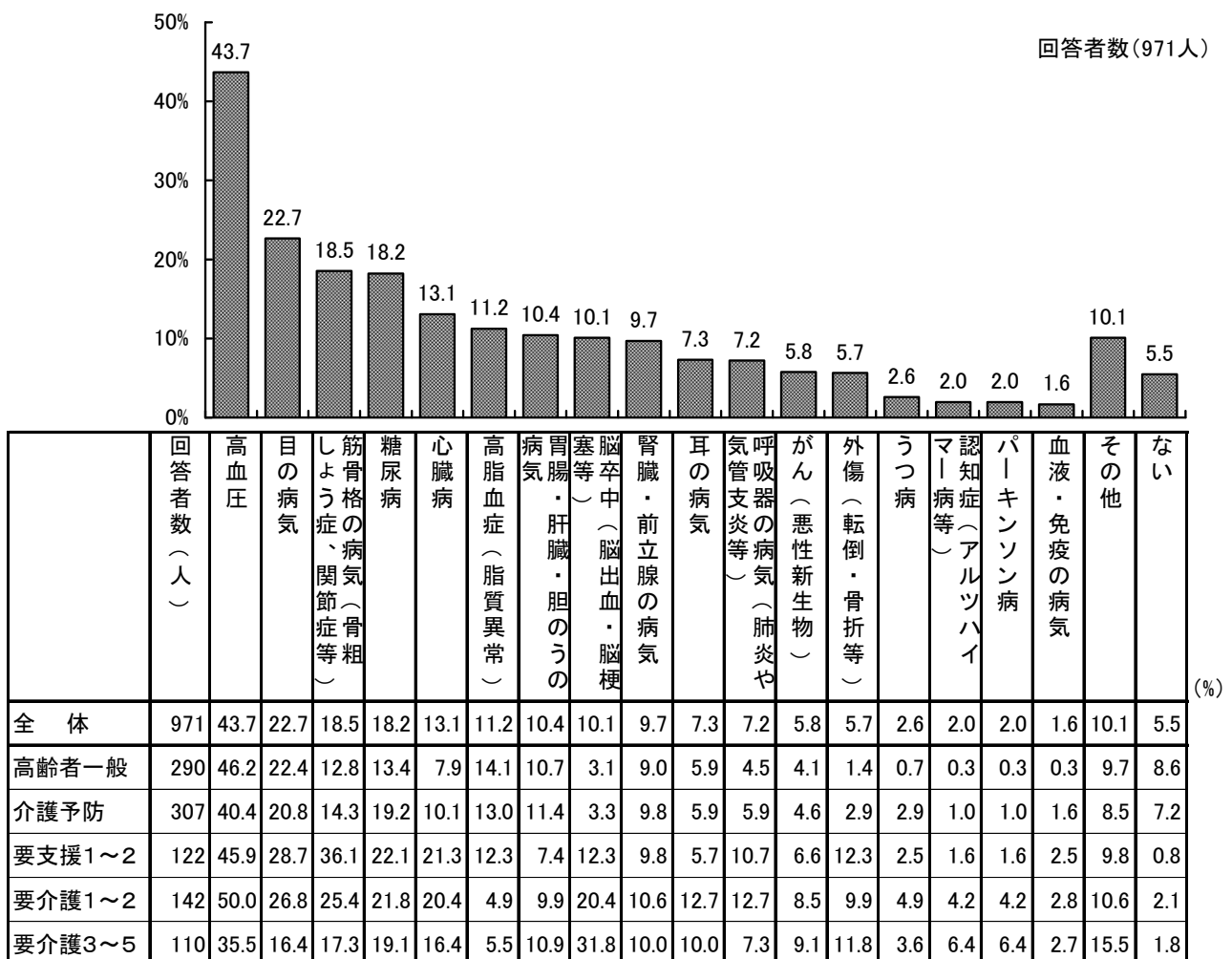
(1) 有病率

現在治療中、または後遺症のある病気についてたずねたところ、全体でみると、「高血圧」が43.7%と最も高くなっています。次いで、「目の病気」が22.7%、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」が18.5%、「糖尿病」が18.2%、「心臓病」が13.1%などの順となっています。

現在治療中、または後遺症のある病気をみると、要介護の原因となる「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」、「心臓病」、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」、「外傷（転倒・骨折等）」、「呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）」では要支援1～2、要介護1～2が高くなっています。なお、「高血圧」、「糖尿病」、「高脂血症（脂質異常）」に関しては、介護予防対象者で高く、高齢者一般でも比較的高い割合で見られます。

「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」、「心臓病」、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」は、介護・介助が必要になった主な原因疾病の中でも高くなっています。

図表3-45 現在治療中、または後遺症のある病気（認定状況別）



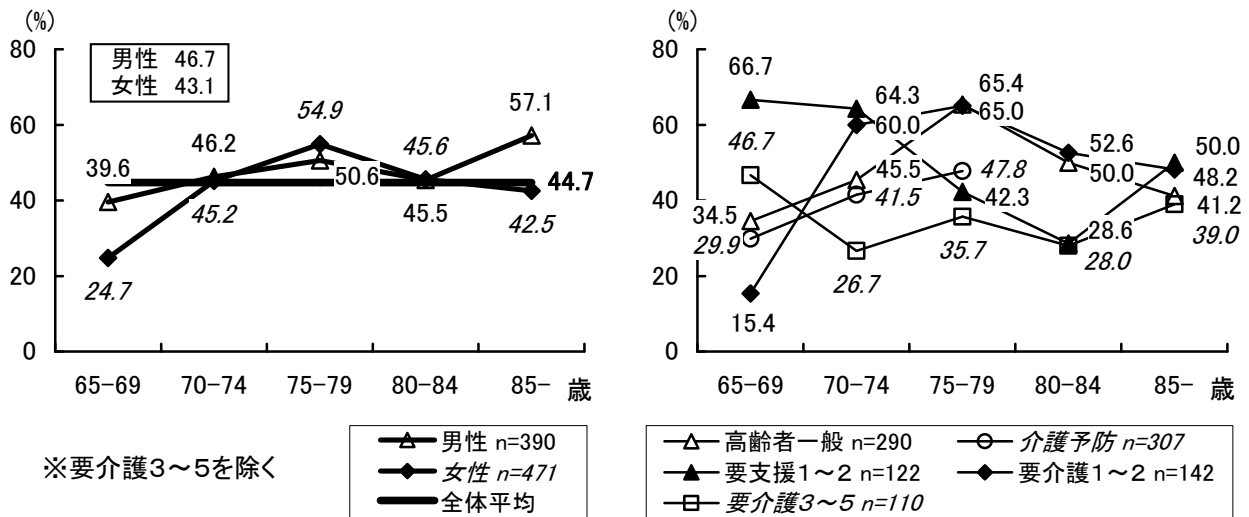
※無回答は省略

(2) 有病率（高血圧）

「高血圧」の有病率は、全体が44.7%、男性が46.7%、女性が43.1%となっています。65～74歳では女性よりも男性のほうが高くなっています。また、男性は85歳以上、女性は75～79歳が最も高くなっています。

認定状況・年齢階級別のグラフは参考表示です（以降の疾病別の有病率について同様）。

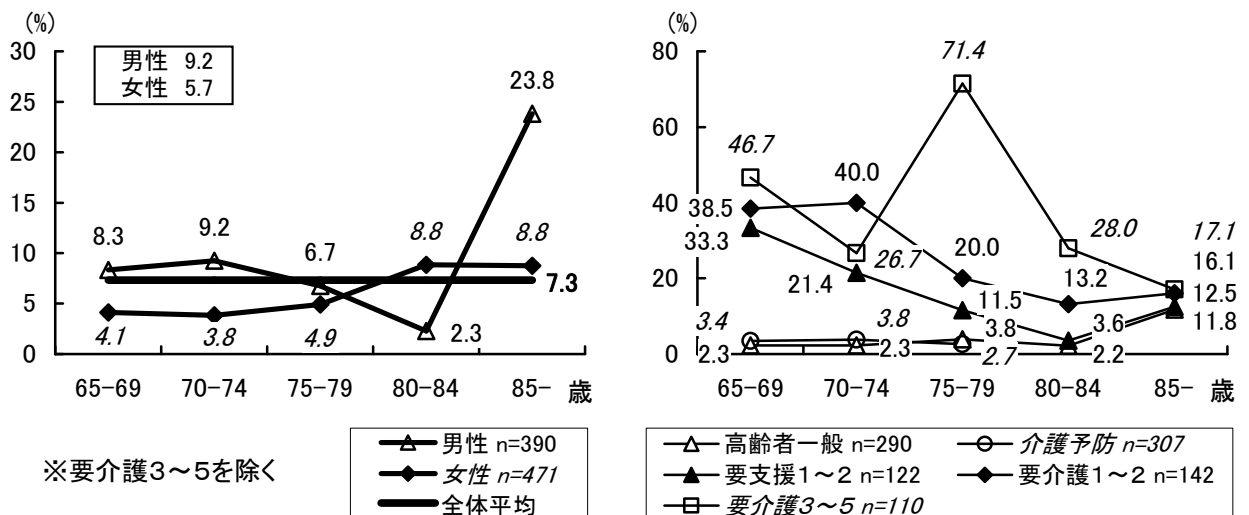
図表3-46 有病率 高血圧
(性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図）)



(3) 有病率（脳卒中（脳出血・脳梗塞等））

「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」の有病率は、全体が7.3%、男性が9.2%、女性が5.7%となっています。65～79歳では女性よりも男性のほうが高くなっています。

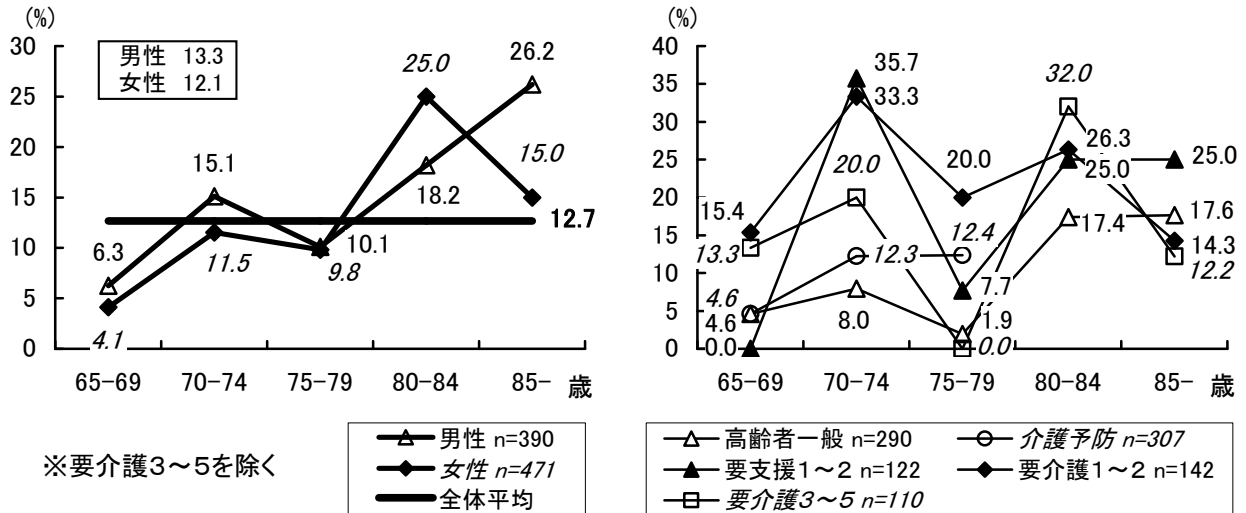
図表3-47 有病率 脳卒中（脳出血・脳梗塞等）
(性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図）)



(4) 有病率（心臓病）

「心臓病」の有病率は、全体が12.7%、男性が13.3%、女性が12.1%となっています。65～79歳では女性よりも男性のほうが高くなっています。また、おおむね年齢が上がるにつれて高くなる傾向が見受けられます。

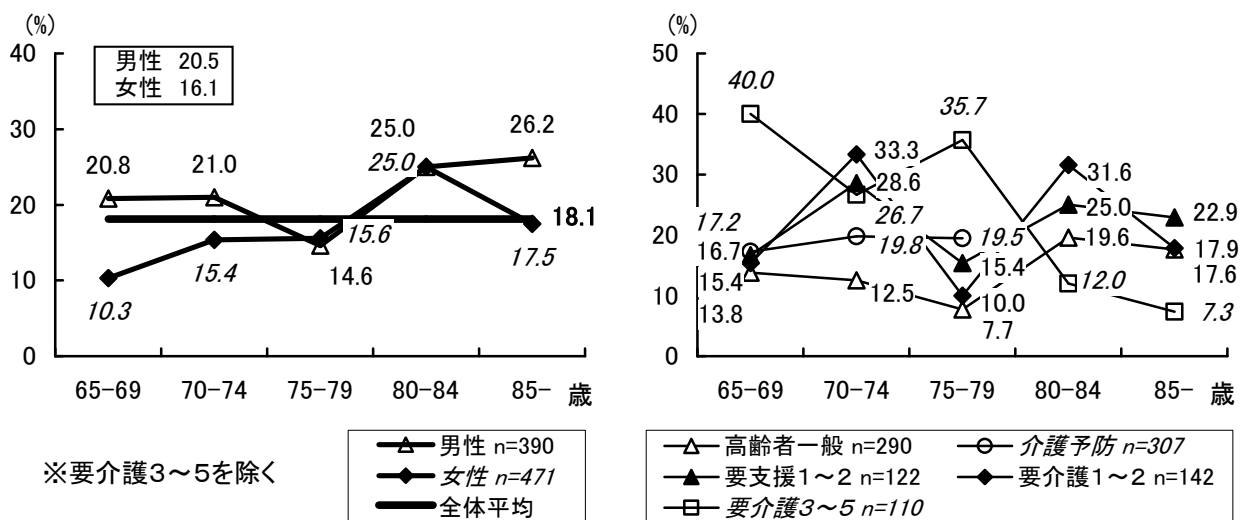
図表3-48 有病率 心臓病
(性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図）)



(5) 有病率（糖尿病）

「糖尿病」の有病率は、全体が18.1%、男性が20.5%、女性が16.1%となっています。65～74歳では女性よりも男性のほうが高くなっています。

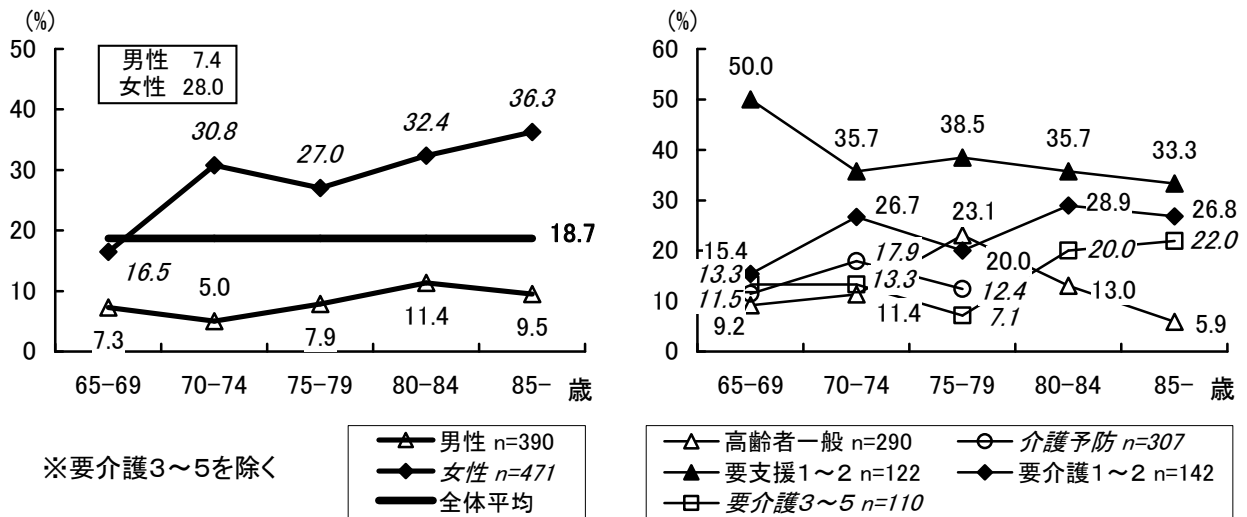
図表3-49 有病率 糖尿病
(性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図）)



(6) 有病率（筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等））

「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」の有病率は、全体が18.7%、男性が7.4%、女性が28.0%となっています。どの年齢でも、男性よりも女性のほうが大幅に高くなっています。また、男性では年齢が上がっても1割前後となっていますが、女性では75～79歳を境にして、年齢が上がるにつれて高くなっています。

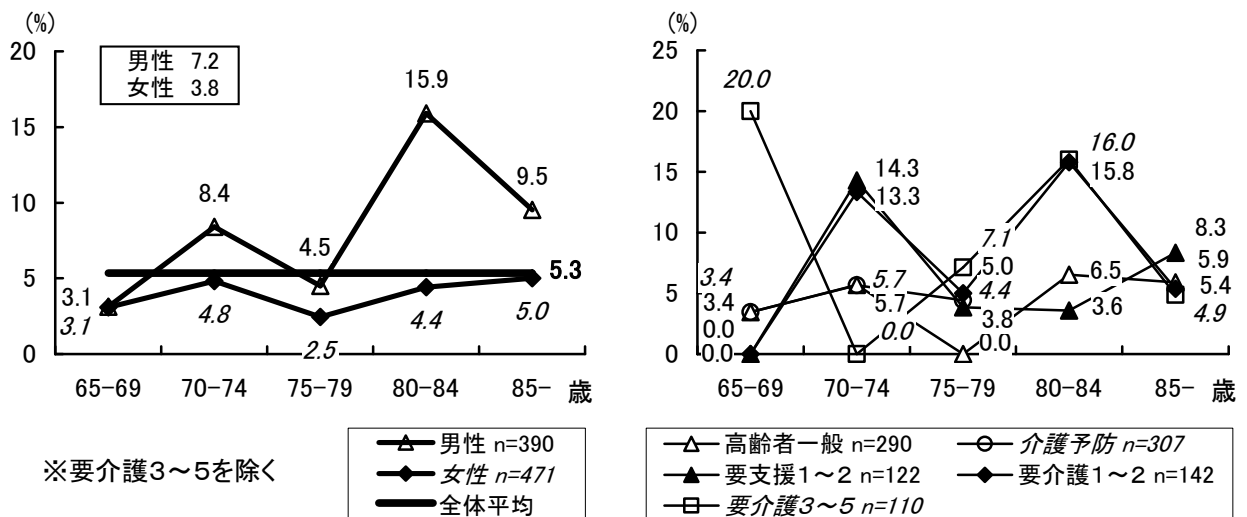
図表3-50 有病率 筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）
（性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図））



(7) 有病率（がん（悪性新生物））

「がん（悪性新生物）」の有病率は、全体が5.3%、男性が7.2%、女性が3.8%となっています。65～69歳を除き、どの年齢でも女性より男性のほうが高くなっています。

図表3-51 有病率 がん（悪性新生物）
（性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図））

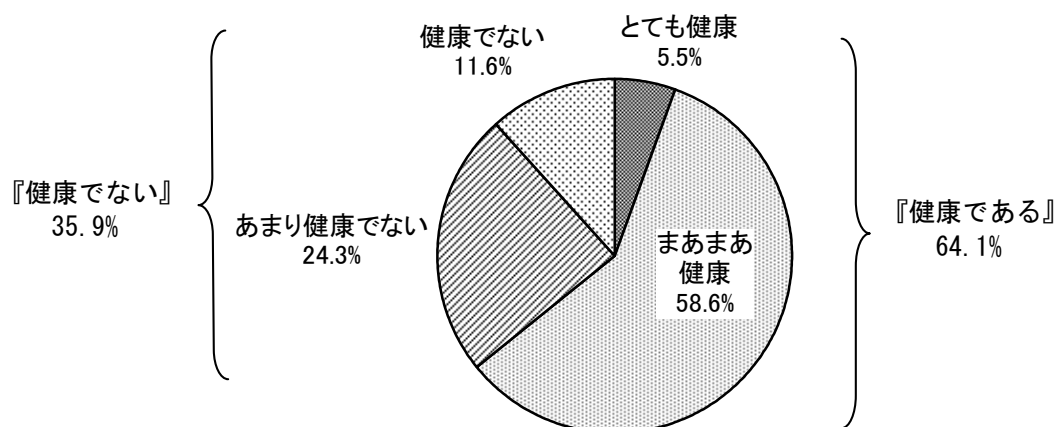


6 主観的健康感に関する分析結果

主観的健康感についてたずねたところ、全体でみると、「とても健康」が5.5%、「まあまあ健康」が58.6%であり、『健康である』は合わせて64.1%となっています。一方、「あまり健康でない」が24.3%、「健康でない」が11.6%であり、『健康でない』は合わせて35.9%となっています。

性別にみると、男性と女性では、『健康である』はあまり差はないものの、「とても健康」は男性より女性のほうが高くなっています。年齢別にみると、男性では65～79歳で『健康である』が高く、女性は65～84歳にかけては、年齢が上がるにつれて『健康である』が低くなり、代わって『健康でない』が高くなっています。女性80～84歳では「あまり健康でない」が4割強と高くなっています。

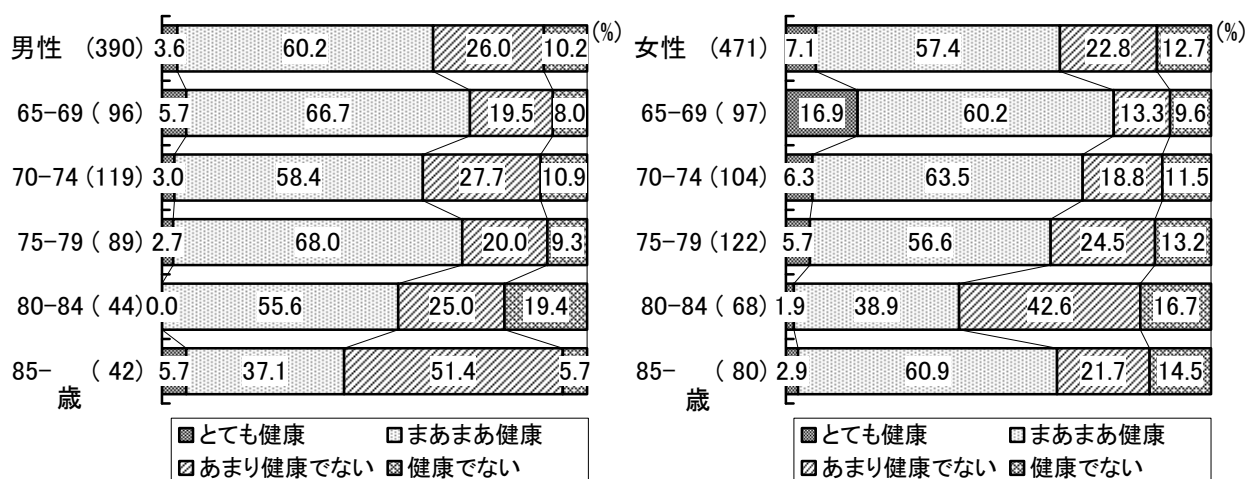
図表3-52 主観的健康感



※要介護3～5を除く
無回答を除外して集計

回答者数(861人)

図表3-53 主観的健康感（性・年齢階級別）



※()内は回答者数、要介護3～5を除く、無回答を除外して集計

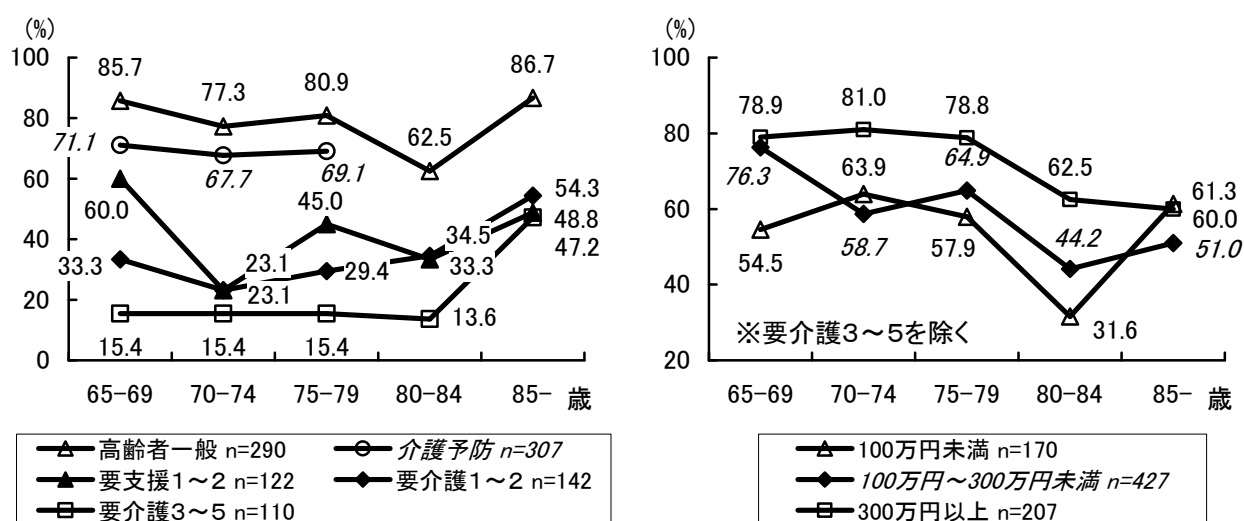
認定状況別にみると、おおむね高齢者一般が最も高く、次いで、介護予防、要支援1～2、要介護1～2の順となっています。高齢者一般と介護予防では、どの年齢も10ポイント前後の差があります。

本人と配偶者の年収別にみると、85歳以上を除き、どの年齢でも年収300万円以上が、最も高くなっていますが、おおむね年齢が上がるにつれて、健康感が低下しています。

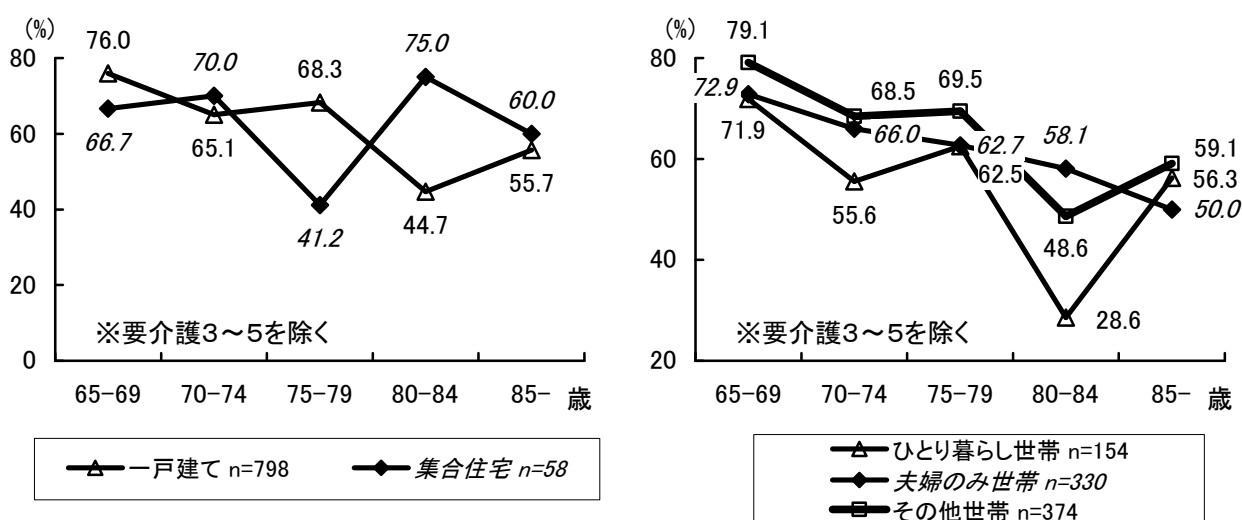
住宅の種類別にみると、一戸建てでは、75～79歳を境にして、大幅に健康感が低下しています。集合住宅の図は参考表示です。

世帯構成別にみると、その他世帯は他の世帯よりも低くなっています。ひとり暮らし世帯は、年齢が上がるにつれて、健康感が低下しています。

図表3-54 主観的健康感
(認定状況・年齢階級別(左図)、本人と配偶者の年収・年齢階級別(右図))



図表3-55 主観的健康感
(住宅の種類・年齢階級別(左図)、世帯構成・年齢階級別(右図))



7 介護に関する分析結果

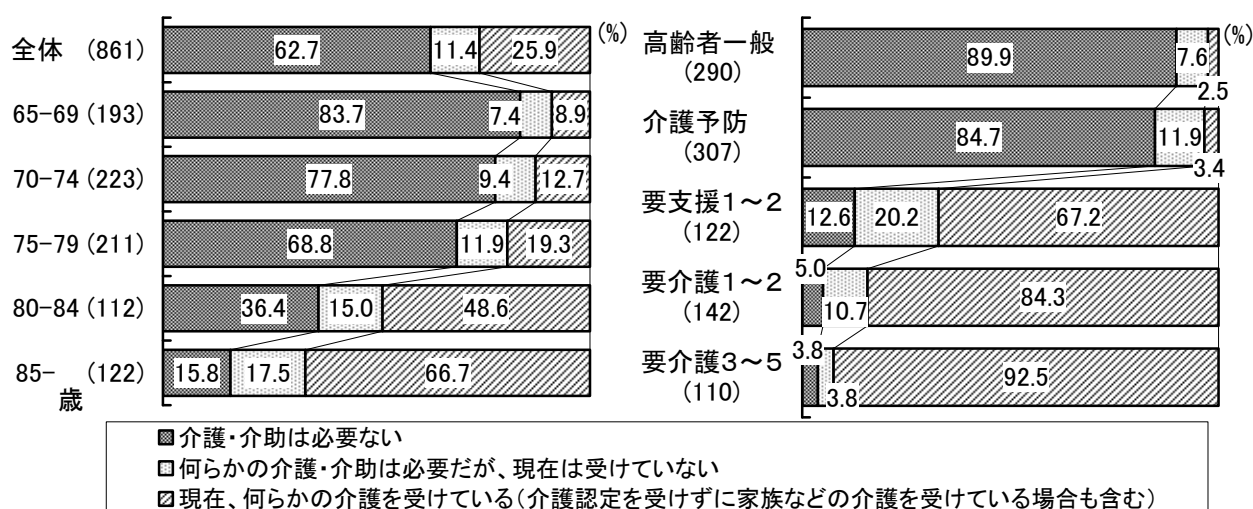
介護の必要性についてたずねたところ、全体でみると、「介護・介助は必要ない」が62.7%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が11.4%、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が25.9%となっています。

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて、介護の必要性が高くなっています。

認定状況別にみると、介護の必要性は、要介護1～2が最も高く、次いで、要支援1～2、介護予防、高齢者一般の順となっています。なお、要介護認定を受けていない介護予防、高齢者一般についても、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が10%前後、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が3%前後となっており、介護・介助が必要な人が一定の割合でいることがうかがえます。

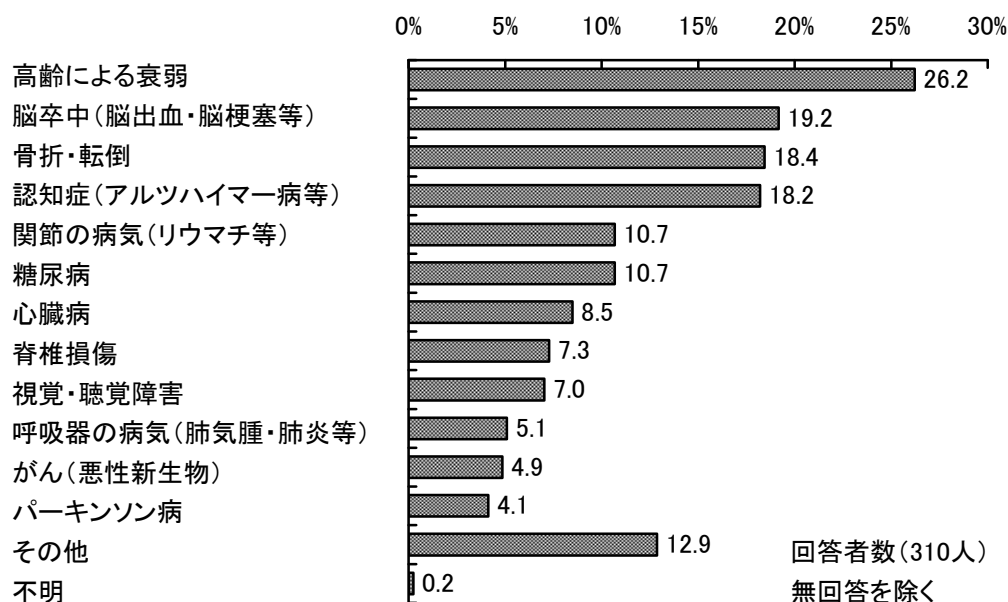
次に、介護が必要と回答した人に、介護・介助が必要になった主な原因についてたずねたところ、「高齢による衰弱」が26.2%と最も高くなっています。次いで、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が19.2%、「骨折・転倒」が18.4%、「認知症（アルツハイマー病等）」が18.2%などの順となっています。

図表3-56 介護の必要性（年齢階級別（左図）、認定状況別（右図））



※（ ）内は回答者数、年齢別は要介護3～5を除く、無回答を除外して集計

図表3-57 （介護が必要な人）介護・介助が必要になった主な原因



(参考)使用
した調査票

木更津市高齢者日常生活二一ズ調査

ご 協 力 の お 願 い

平素より市政にご理解、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

木更津市では、介護が必要とならない健康づくりや介護予防事業に力を入れるとともに、介護が必要となっても安心した生活が送ることができるよう、「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」を策定していますが、この計画を平成26年度に見直しする予定です。

そのため、65歳以上の方から保健福祉に関わる生活状況や、介護予防、地域社会とのつながり、市の高齢者施策等について伺うため、アンケート調査を行うことにいたしました。

ご回答いただいた調査内容は、計画策定のために利用させていただくものであり、回答者個人が特定されたり、個々の回答内容が漏れたりすることはありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただきご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成25年12月

木更津市長 水越 勇雄

＜ご記入にあたってのお願い＞

- 宛名のご本人がお答えください。ただし、ご本人が答えられないときは、ご家族の方などがご本人の意見を聞いてご記入いただいても構いません。
- 【8. 主な介護者について】のそれぞれの質問は、ご本人ではなく、主な介護者がお答えください。
- 次ページから順にご記入ください。途中、回答により、次に答える問を案内していますので、それに沿ってください。
- ご記入は、黒または青のボールペンもしくはサインペンをお使いください。
- ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れた上で
12月20日（金）までに、郵便ポストに投函してください。（切手は不要です）

お願い：個人情報保護の観点から、調査票や封筒にあなたのお名前やご住所等をお書きにならないでください。

この調査に関する問い合わせは、こちらまでお願いいたします。



「きさポン」

木更津市役所 福祉部 高齢者福祉課

電 話：0438-23-7162（直通）
0438-23-7111（内線289）
ファックス：0438-23-7181
メールアドレス：kourei@city.kisarazu.lg.jp

☆この調査票では、あて名のご本人のことを「あなた」とします。

問1. はじめに、この調査票を回答される方はどなたですか。(ひとつだけ○)

1 あなたがひとりで回答	3 ご家族が回答
2 代筆・代読してもらってあなたが回答	4 その他の方が回答 ()

【1. あなたご自身のことについて】

問2. あなたの性別と、現在の満年齢をお答えください。

(1) 性別	1 男性 2 女性	(2) 年齢	満 歳
--------	--------------	--------	-----

問3. あなたのお住まいの地域はどちらになりますか。(ひとつだけ○)

1 木更津	4 岩根	7 中郷
2 波岡	5 鎌足	8 富来田
3 清川	6 金田	9 市外

問4. あなたの現在の世帯構成を、以下の中からお答えください。(ひとつだけ○)

1 ひとり暮らし	4 子どもと孫と同居	7 その他
2 夫婦ふたり暮らし	5 親と同居	()
3 子どもと同居	6 親と子どもと同居	

問5. ご親族の方と気軽にお会いする頻度はどのくらいですか。(ひとつだけ○)

1 毎日	3 週1回	5 その他
2 週2～3日	4 月1回	()

問6. あなたのお近くに、ご親族がお住まいですか。(ひとつだけ○)

1 徒歩で5分以内	3 車で15分以内	5 特にいない
2 徒歩で30分以内	4 車で30分以内	

問7. あなたと配偶者（ひとり暮らしの方は、あなたのみ）の税込みの年収（年金を含む）の合計は、次のうちどれですか。(ひとつだけ○)

1 100万円未満	3 300万円～500万円未満	5 700万円～1,000万円未満
2 100万円～300万円未満	4 500万円～700万円未満	6 1,000万円以上

問8. あなたと配偶者（ひとり暮らしの方は、あなたのみ）の収入は、次のうちどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

1 国民年金	3 給与・事業収入	5 家族からの援助
2 厚生年金・共済年金	4 生活保護受給	6 その他 ()

(9-1) (介護・介助が必要な方のみ) 介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------|------------|
| 1 脳卒中 (脳出血・脳梗塞等) | 8 糖尿病 |
| 2 心臓病 | 9 視覚・聴覚障害 |
| 3 がん (悪性新生物) | 10 骨折・転倒 |
| 4 呼吸器の病気 (肺気腫・肺炎等) | 11 脊椎損傷 |
| 5 関節の病気 (リウマチ等) | 12 高齢による衰弱 |
| 6 認知症 (アルツハイマー病等) | 13 その他 () |
| 7 パーキンソン病 | 14 不明 |

問12. 運動や閉じこもりの状況について伺います。(それぞれひとつだけ○)

※無回答の項目がないようご確認ください。

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	1 はい	2 いいえ
(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	1 はい	2 いいえ
(3) 15分位続けて歩いていますか。	1 はい	2 いいえ
(4) 週に1回以上は外出していますか。	1 はい	2 いいえ
(5) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。	1 はい	2 いいえ

問13. 転倒予防について伺います。(それぞれひとつだけ○)

※無回答の項目がないようご確認ください。

(1) この1年間に転んだことがありますか。	1 はい	2 いいえ
(2) 転倒に対する不安は大きいですか。	1 はい	2 いいえ
(3) 背中が丸くなってきましたか。	1 はい	2 いいえ
(4) 以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか。	1 はい	2 いいえ
(5) 杖を使っていますか。	1 はい	2 いいえ

問14. 口腔・栄養の状況について伺います。(2を除き、それぞれひとつだけ○)

※無回答の項目がないようご確認ください。

(1) 6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。	1 はい	2 いいえ
(2) 身長と体重を整数でお書きください。		
身長		
cm	体重	
		kg
(3) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	1 はい	2 いいえ
(4) お茶や汁物等でむせることがありますか。	1 はい	2 いいえ
(5) 口の渇きが気になりますか。	1 はい	2 いいえ
(6) 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか。	1 はい	2 いいえ
(7) 定期的に歯科受診(健診を含む)を受けていますか。	1 はい	2 いいえ
(8) 入れ歯を使用していますか。	1 はい	2 いいえ

(8-1) <u>(入れ歯のある方のみ)</u> 噛み合わせは良いですか。	1 はい 2 いいえ
(8-2) <u>(入れ歯のある方のみ)</u> 毎日入れ歯の正しい手入れをしていますか。	1 はい 2 いいえ
(9) 1日の食事の回数は何回ですか。(ひとつだけ○) 1 3食 2 2食 3 1食 4 その他 ()	
(10) 食事を抜くことがありますか。(ひとつだけ○) 1 毎日ある 2 週に何度かある 3 月に何度かある 4 ほとんどない	

問15. 物忘れの状況について伺います。(それぞれひとつだけ○)

※無回答の項目がないようご確認ください。

(1) 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか。	1 はい 2 いいえ
(2) 自分で電話番号調べて、電話をかけることをしていますか。	1 はい 2 いいえ
(3) 今日が何月何日かわからない時がありますか。	1 はい 2 いいえ
(4) 5分前のことが思い出せますか。	1 はい 2 いいえ
(5) その日の活動(食事をする、衣服を選ぶなど)を自分で判断できますか。(ひとつだけ○) 1 困難なくできる 3 判断するときに、他人からの合図や見守りが必要 2 いくらか困難であるが、できる 4 ほとんど判断できない	
(6) 人に自分の考えをうまく伝えられますか。(ひとつだけ○) 1 伝えられる 3 あまり伝えられない 2 いくらか困難であるが、伝えられる 4 ほとんど伝えられない	

問16. 日常生活の状況について伺います。(それぞれひとつだけ○)

※無回答の項目がないようご確認ください。

(1) バスや電車で一人で外出していますか。(自家用車でも可) 1 できるし、している 2 できるけどしていない 3 できない	
(2) 日用品の買物をしていますか。 1 できるし、している 2 できるけどしていない 3 できない	
(3) 自分で食事の用意をしていますか。 1 できるし、している 2 できるけどしていない 3 できない	
(4) 請求書の支払いをしていますか。 1 できるし、している 2 できるけどしていない 3 できない	
(5) 預貯金の出し入れをしていますか。 1 できるし、している 2 できるけどしていない 3 できない	
(6) 食事は自分で食べられますか。 1 できる 2 一部介助(おかずを切ってもらうなど)があればできる 3 できない	
(7) 寝床に入るとき、何らかの介助を受けますか。 1 受けない 2 一部介助があればできる 3 全面的な介助が必要	
(8) 座っていることができますか。 1 できる 2 支えが必要 3 できない	

(9) 自分で洗面や歯磨きができますか。		
1 できる	2 一部介助があればできる	3 できない
(10)自分でトイレができますか。		
1 できる	2 一部介助（他人に支えてもらう）があればできる	3 できない
(11)自分で入浴ができますか。		
1 できる	2 一部介助（他人に支えてもらう）があればできる	3 できない
(12)50m以上歩けますか。		
1 できる	2 一部介助（他人に支えてもらう）があればできる	3 できない
(13)階段を昇り降りできますか。		
1 できる	2 介助があればできる	3 できない
(14)自分で着替えができますか。		
1 できる	2 介助があればできる	3 できない
(15)大便の失敗がありますか。		
1 ない	2 ときどきある	3 よくある
(16)尿もれや尿失禁がありますか。		
1 ない	2 ときどきある	3 よくある
(17)家事全般ができていますか。		
1 できている	2 できていない	

問17. 社会参加の状況について伺います。(7-1)、(12)、(13)を除き、それぞれひとつだけ○)
※無回答の項目がないようご確認ください。

(1) 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。	1 はい	2 いいえ
(2) 新聞を読んでいますか。	1 はい	2 いいえ
(3) 本や雑誌を読んでいますか。	1 はい	2 いいえ
(4) 健康についての記事や番組に関心がありますか。	1 はい	2 いいえ
(5) 友人の家を訪ねていますか。	1 はい	2 いいえ
(6) 家族や友人の相談に乗っていますか。	1 はい	2 いいえ
(7) 何かあったときに、家族や友人・知人などに相談をしていますか。	1 はい	2 いいえ
(7-1)（相談している方のみ）相談相手を教えてください。（あてはまるものすべてに○）		
1 配偶者（夫・妻）	6 友人・知人	11 社会福祉協議会
2 息子	7 医師・歯科医師・看護師	12 地域包括支援センター
3 娘	8 民生委員	13 ケアマネジャー
4 子の配偶者	9 自治会・町内会	14 市役所
5 兄弟・姉妹	10 老人クラブ	15 その他（ ）
(8) 病人を見舞うことができますか。	1 はい	2 いいえ
(9) 若い人に自分から話しかけることがありますか。	1 はい	2 いいえ
(10)趣味はありますか。	1 はい	2 いいえ
(11)生きがいがありますか。	1 はい	2 いいえ

(12) 次のような社会参加活動をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|-----------|
| 1 見守りが必要な高齢者を支援する活動 | 5 収入のある仕事 |
| 2 介護が必要な高齢者を支援する活動 | 6 その他 () |
| 3 子どもを育てている親を支援する活動 | 7 参加していない |
| 4 地域の生活環境を改善する活動 | |

(13) 次のような地域活動に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------------|------------|
| 1 祭り・行事 | 5 ボランティア活動 |
| 2 自治会・町内会 | 6 その他 () |
| 3 サークル・自主グループ (住民グループ) | 7 参加していない |
| 4 老人クラブ | |

【4. 介護予防について】

問18. あなたは、将来、介護を必要としない健康な生活が送れるようにするために、心がけていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1 栄養バランスのとれた食事をする | 6 タバコを吸わない |
| 2 散歩など、できるだけ歩くようにする | 7 新聞や雑誌を読む |
| 3 体力をつけるための体操や運動をする | 8 趣味や地域活動などに取り組む |
| 4 健康診査などを定期的に受ける | 9 その他 () |
| 5 十分な睡眠をとる | 10 特に心がけていることはない |

問19. あなたは、介護予防について、どのような印象をお持ちですか。(主なもの3つまで○)

- | |
|-------------------------------------|
| 1 現在、自分とは無縁のものである |
| 2 普段の生活を送ることが介護予防だと思う |
| 3 介護予防として、自立生活体操やラジオ体操などに取り組んでいる |
| 4 足腰が弱くなるなど、身体の衰えが目立ってきたら取り組むものだと思う |
| 5 関心はあるが、実際に取り組むほどの必要性は感じていない |
| 6 市や医者などから勧められれば取り組みたい |
| 7 積極的に取り組みたい |
| 8 介護予防とはどのようなことをするのか、イメージがわからない |

問20. 木更津市では次ページのような介護予防事業を実施しています※が、どのような条件であれば参加したり、取り組みたいと思いますか。(主なもの3つまで○)

- | |
|--|
| 1 1人ではなく、友人や知人を誘って参加できる |
| 2 プログラムの内容や効果について、わかりやすく説明した資料がある |
| 3 公民館や集会所等、身近な場所で事業が実施される |
| 4 自分の生活時間に合わせた時間と場所で参加できる |
| 5 往復の送迎がある |
| 6 プールやトレーニングセンターを利用する運動機能を強化したプログラムがある |
| 7 事業参加やサービス利用の費用は無料か負担にならない程度である |
| 8 その他 () |
| 9 特にない |

- 介護予防教室：理学療法士、看護師、健康運動指導員が実施する健康で生き活きた生活を送る体操を行っています。
- 食事と運動の元気アップ教室：管理栄養士による食事指導と健康運動指導員によるセラバンドを使った体操を行っています。
- 自立生活体操：高齢者の健康維持や転倒予防のための体操、ストレッチを行っています。
- 高齢者サロン：体操やゲーム、スポーツなどの健康づくり、詩や芸術、手芸などの趣味の活動を行うだけでなく、お茶を飲んだりおしゃべりをしたりみんなで楽しむサロンを行っています。
- 老人福祉センター：高齢者がお互いに親睦を図り、介護予防に役立つ講座など、高齢者の健康で明るい生活を支援するための施設です。

問21. 介護保険制度で提供する介護サービスや介護予防のためのサービスの範囲について、あなたの考えにもっとも近いものは、次のうちどれですか。（ひとつだけ○）

- ※1 施設・居住系サービス：特別養護老人ホームなど在宅介護が困難な方が入居する施設や認知症高齢者が入居できるグループホームなどをいいます。
- ※2 在宅サービス：ホームヘルプサービスやデイサービスなどをいいます。

- 1 健康に不安がある
- 2 身体が不自由であり介護が必要である
- 3 認知症にならないか心配である
- 4 一人きりで頼れる人がいない
- 5 生活のための収入が足りない
- 6 家事が大変である
- 7 外出時の転倒や事故に不安がある
- 8 地震や火災が起きたときの避難が心配である
- 9 家業や財産の相続、お墓の管理のことに不安がある
- 10 配偶者のこと
- 11 子どもや孫のこと
- 12 判断能力が衰えたときの契約や財産の管理が心配である
- 13 社会の仕組み（法律、社会保障、金融制度）がわからない
- 14 その他（)
- 15 特にない

問23. あなたは、介護を受けるようになったらどこで暮らしたいと思いますか。既に介護を受けている方は、今後についてお答えください。（もっとも近い考えにひとつだけ○）

- 1 自宅や親族の家など、在宅で暮らしたい
- 2 主に介護サービスを利用して、高齢者向け住宅に住み替えて暮らしたい
- 3 数人で暮らせる、家庭的な介護つきホーム（施設）で暮らしたい
- 4 介護保険施設（特別養護老人ホームや老人保健施設など）に入りたい
- 5 有料老人ホームに入りたい
- 6 病院に入院したい
- 7 その他（ ）
- 8 わからない

問23-1. 問23で「1」と回答した方へ、介護を受けるとしたら誰に介護してほしいですか。（もっとも近い考えにひとつだけ○）

- 1 家族または親族だけで介護をしてほしい
- 2 介護サービスを利用しながら、家族または親族が介護をしてほしい
- 3 介護保険サービスを利用し、家族・親族以外の人に介護をしてほしい

問23-2. 問23で「2～7」と回答した方へ、その場所を選んだのは、どのような理由からですか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 在宅で介護してくれる親族等がないから
- 2 親族等に世話になることに気が引けるから
- 3 介護を受ける環境が整っているから
- 4 自分の希望する介護を受けることができると思うから
- 5 経済的な事情から
- 6 現在住んでいる自宅の近くだから
- 7 治療が必要だから
- 8 その他（ ）

問24. あなたは、人生の最期を迎える場所は、どこを希望していますか。（ひとつだけ○）

- | | | |
|------|----------|---------|
| 1 病院 | 3 施設 | 5 わからない |
| 2 自宅 | 4 その他（ ） | |

問25. あなたは、ご近所の人とどの程度のつきあいをしていますか。（ひとつだけ○）

- 1 ほとんど顔も知らない
- 2 顔は知っているが、声をかけたことはない
- 3 顔を合わせればあいさつをする
- 4 留守にするときは声かけをする
- 5 親交があり、ときどき家を行き来する
- 6 その他（ ）

問26. あなたは、在宅で暮らし続けるために必要なことは、どのようなことであると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|----|-------------------------------------|
| 1 | 住み続けられる住まいがある |
| 2 | 家族が同居している、または近くにいる |
| 3 | 見守ってくれる友人・知人が近くにいる |
| 4 | 日中に訪問介護や通所サービスなど、普段から利用できる介護サービスがある |
| 5 | 夜間にも訪問介護や訪問看護など、訪問してくれる介護サービスがある |
| 6 | 必要に応じて、通ったり、宿泊することができるよう介護サービスがある |
| 7 | 入浴のみ、食事のみ、リハビリのみなど、短時間の通所サービスが受けられる |
| 8 | 介護者の心身の負担を軽減するさまざまな支援がある |
| 9 | 介護者の入院など緊急時に入所可能な短期入所サービスが利用できる |
| 10 | 自宅に医師が訪問して診療してくれる |
| 11 | 身近に利用できる医療機関がある |
| 12 | その他（ ） |
| 13 | わからない |

問27. あなたは、普段の生活の中で手助けしてほしいことが何かありますか。
（あてはまるものすべてに○）

- | | | | |
|---|----------------|----|---------------|
| 1 | ごみ出し | 10 | 病院以外の外出時の付き添い |
| 2 | 買い物 | 11 | 声かけ・見守り |
| 3 | 調理 | 12 | 日ごろの話相手 |
| 4 | 洗濯や部屋の掃除 | 13 | 金銭管理・書類の確認 |
| 5 | 玄関前や庭などの家周りの掃除 | 14 | 市役所などでの手続き |
| 6 | 簡単な力仕事 | 15 | 家電器具やパソコン等の操作 |
| 7 | 病院への送迎 | 16 | その他（ ） |
| 8 | 病院の付き添いや薬の受け取り | 17 | 特になし |
| 9 | 病院以外の外出時の送迎 | | |

問28. あなたは、(1)地域包括支援センター※を知っていますか。
(2)また、相談したことがありますか。（それぞれひとつだけ○）

(1) 知っていますか。	(2) 相談したことがありますか。
1 内容をよく知っている	1 ある
2 だいたいの内容は知っている	2 ない
3 名称は知っているが内容は知らない	
4 まったく知らない	

※ 地域包括支援センター：地域の高齢者が、いつまでも自分らしく住みなれた地域で、安心して元気に暮らし続けられるよう、保健師・主任ケアマネジャー・社会福祉士が、総合相談、介護予防、虐待・権利擁護、地域のケアマネジャー支援、地域のネットワーク構築といった活動に取り組んでいます。現在、市内には4か所設置しています。

問29. あなたは、お住まいの地域で何か他の人の手助け（ボランティア活動）をしたいと思いますか。（ひとつだけ○）

- 1 すでにボランティア活動をしている
- 2 ぜひボランティア活動をしたい
- 3 できればボランティア活動をしたい
- 4 有償ボランティアであれば活動してみたい
- 5 あまりボランティア活動をしたいとは思わない
- 6 どんなボランティア活動もしたいとは思わない
- 7 わからない

☆問29で「1～4」「ボランティア活動をしている（したい）」と回答した方に伺います。

問29-1. どのようなボランティア活動をしていますか（したいですか）。

(あてはまるものすべてに○)

- | | | | |
|---|-----------------|----|---------------|
| 1 | ごみ出し | 10 | 病院以外の外出時の付き添い |
| 2 | 買い物 | 11 | 声かけ・見守り |
| 3 | 調理 | 12 | 日ごろの話し相手 |
| 4 | 洗濯や部屋の掃除 | 13 | 金銭管理・書類の確認 |
| 5 | 玄関前や庭などの家周りの掃除 | 14 | 市役所などの手続き |
| 6 | 簡単な力仕事 | 15 | 家電器具やパソコン等の操作 |
| 7 | 病院への送迎 | 16 | その他（ ） |
| 8 | 病院への付き添いや薬の受け取り | 17 | 特にない |
| 9 | 病院以外の外出時の送迎 | | |

問30. あなたは、(1)成年後見制度※を知っていますか。

(2) また、成年後見制度は今後自分に必要な制度であると思いますか。

(それぞれひとつだけ○)

(1) 知っていますか。	(2) 今後自分に必要な制度であると思いますか。
1 内容をよく知っている	1 そう思う
2 だいたいの内容は知っている	2 そう思わない
3 名前は知っているが、内容は知らない	3 わからない
4 まったく知らない	

※ 成年後見制度：認知症、知的障害、精神障害などによって物事を判断する能力が十分でない方について、本人に代わって財産管理や契約行為等を行う成年後見人等を選定し、法律的に保護・支援する制度です。成年後見人等には、家族や親族の他に弁護士、司法書士、社会福祉士などが選任されます。

【6. 木更津市の高齢者福祉施策について】

問31. あなたは、木更津市の高齢者福祉施策について、今後充実してほしいと思うことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|----|-------------------------|
| 1 | 健康増進事業 |
| 2 | 介護を予防するための事業 |
| 3 | 介護保険や市の在宅介護サービス |
| 4 | 介護を受けられる施設の整備 |
| 5 | 介護する家族に対する支援 |
| 6 | 介護保険制度や市の高齢者施策に関する情報提供 |
| 7 | 申請や相談がしやすい窓口の設置 |
| 8 | 高齢者の就労や社会参加の支援 |
| 9 | 定期的な見守りや安否確認など、地域の助けあい |
| 10 | 判断能力が低下した場合の支援や高齢者の人権擁護 |
| 11 | 高齢者のための住宅施策 |
| 12 | 段差解消や歩道の設置など安全なまちづくり |
| 13 | 医療機関の整備など医療の充実 |
| 14 | その他（ |
| 15 | 特にない |

問32. 木更津市の高齢者福祉施策について、あなたはどのように感じますか。

（もっとも近い考えにひとつだけ○）

1	とても充実している	そのように感じている理由は何ですか。 ()
2	まあ充実している	
3	どちらとも言えない	
4	あまり充実していない	
5	充実していない	

問33. 木更津市の高齢者福祉施策へのご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

【7. 介護サービスについて】

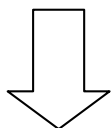
問34. あなたの要介護度は、次のうちどれに当てはまりますか。（ひとつだけ○）

1	要支援 1	3	要介護 1	5	要介護 3	7	要介護 5
2	要支援 2	4	要介護 2	6	要介護 4	8	わからない

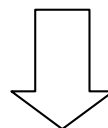
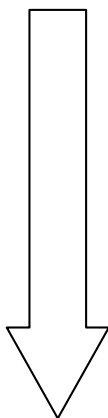
問35. あなた（あて名のご本人）は、現在介護保険サービスを利用していますか。

（ひとつだけ○）

1	利用している	2	利用していない	3	わからない
---	--------	---	---------	---	-------



**13 ページの問36
にお進みください**



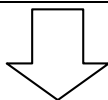
**16 ページの問40
にお進みください**

☆問35で「2 利用していない」と回答した方に伺います。

問35-1. 介護保険サービスを利用していない、もしくは利用をやめた理由は何ですか。

（あてはまるものすべてに○）

1	サービスを利用しなくても、日常生活に困らないから
2	家族が介護してくれるから
3	介護者の急病など万一に備え、認定だけは受けておきたいから
4	他人を家に入れたくないから
5	利用したいサービスがないから
6	利用料の負担が大変だから
7	手続きが面倒だから
8	利用に際し、届出を出す必要があることを知らなかったから
9	施設への入所を希望して、空きが出るのを待っているから
10	病院に入院中だから
11	その他（ ）



**16 ページの問40
にお進みください**

☆問 36から問 39までは、問 35で「1 利用している」と回答した方に伺います。

問36. あなたは、ご自分が利用したサービスについて満足していますか。利用したものすべてに○を付けてください。(あてはまるものすべてに○)

また、それぞれの満足度について、該当するもの1つに○を付けてください。

「やや不満」「不満」に○を付けた方は、不満の理由もご記入ください。

サービスの種類	利用 した	→	満足	やや 満足	やや 不満	不満	不満の理由
例	①		1	②	3	4	
(1) 昼間・訪問介護 (ホームヘルプサービス)	1	→	1	2	3	4	
(2) 夜間・訪問介護 (ホームヘルプサービス)	1	→	1	2	3	4	
(3) 訪問入浴介護	1	→	1	2	3	4	
(4) 訪問看護	1	→	1	2	3	4	
(5) 訪問リハビリテーション	1	→	1	2	3	4	
(6) 居宅療養管理指導※1	1	→	1	2	3	4	
(7) 通所介護 (デイサービス)	1	→	1	2	3	4	
(8) 通所リハビリテーション (デイケア)	1	→	1	2	3	4	
(9) 認知症対応型通所 介護※2	1	→	1	2	3	4	
(10) 短期入所生活介護 (ショートステイ)	1	→	1	2	3	4	
(11) 短期入所療養介護 (医療ショートステイ)	1	→	1	2	3	4	
(12) 福祉用具貸与	1	→	1	2	3	4	
(13) 福祉用具購入費の支給	1	→	1	2	3	4	
(14) 住宅改修費の支給	1	→	1	2	3	4	
(15) 小規模多機能型居宅 介護※3	1	→	1	2	3	4	

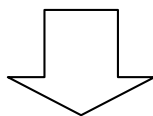
※1 居宅療養管理指導：医師、歯科医師、薬剤師等が家庭を訪問し、療養上の管理や指導を行うサービス

※2 認知症対応型通所介護：認知症の方を対象として、日常生活に必要な入浴・排せつ・食事などの身の回りのお世話や機能訓練を施設などで受けるサービス

※3 小規模多機能型居宅介護：小規模な施設で、通いを中心としながら、訪問や短期宿泊を組み合わせたサービス

問37. 介護保険サービスを利用するようになって、あなた自身には、次のような変化がありましたか。(1)～(4)について、それぞれもっとも近いものにひとつだけ○)

(1) 日常生活において、 ひとりでできること	1 多くなった 2 変わらない	3 少なくなった 4 わからない
(2) 日ごろの体調について	1 よくなった 2 変わらない	3 悪くなった 4 わからない
(3) やる気や生活のはりに ついて	1 出てきた 2 変わらない	3 なくなった 4 わからない
(4) こころの状態について	1 安定した 2 変わらない	3 不安定になった 4 わからない



☆問37(1)～(4)で、1つでも「1、2」に○を付けた方に伺います。

問 37-1. あなたにとって、(1) 役立ったサービス、(2) ご自身が努力したことはありますか。
(1)と(2)のどちらにもお答えください。

(1) 役立ったサービス（あてはまるものすべてに○）

1 昼間・訪問介護（ホームヘルプサービス）	10 短期入所生活介護（ショートステイ）
2 夜間・訪問介護（ホームヘルプサービス）	11 短期入所療養介護（医療ショートステイ）
3 訪問入浴介護	12 福祉用具貸与
4 訪問看護	13 福祉用具購入費の支給
5 訪問リハビリテーション	14 住宅改修費の支給
6 居宅療養管理指導	15 小規模多機能型居宅介護
7 通所介護（デイサービス）	16 わからない
8 通所リハビリテーション（デイケア）	17 特にない
9 認知症対応型通所介護	

(2) ご自身が努力したこと（あてはまるものすべてに○）

1 栄養バランスのとれた食事をするようにした
2 散歩や簡単な体操など、身体を動かすようにした
3 家にこもらず外出するようにした
4 友人と交流するようにした
5 趣味などに取り組むようにした
6 その他（ ）
7 特にない

問38. 介護保険サービスの利用額について、制度上利用できる上限額のうちのどの程度利用しましたか（ひとつだけ○）

- 1 0～20％程度
- 2 20％程度～40％程度
- 3 40％程度～60％程度
- 4 60％程度～80％程度
- 5 80％程度～上限額まで
- 6 わからない

制度上利用できる上限額（1か月あたり）

要支援1	概ね 50,500 円	要介護3	概ね 273,000 円
要支援2	概ね 106,000 円	要介護4	概ね 312,000 円
要介護1	概ね 169,000 円	要介護5	概ね 365,000 円
要介護2	概ね 198,000 円		

☆問38で「1～4」（上限額の80％程度以下を利用）と回答した方に伺います。

問38-1. 上限額近くまで利用していない理由は何ですか。（主なもの3つまで○）

- 1 心身の状態からみて、今くらいのサービスで十分と考えるため
- 2 家族が介護しているので、それほど多く利用しなくても済んでいる
- 3 利用料が高くなるため（経済的な理由のため）
- 4 現在利用しているサービス以外に、どのようなサービスを利用していいかわからないため
- 5 ヘルパーなど他人が家に入るのはわずらわしいと思うため
- 6 通所介護（デイサービス）などのように、施設に通うことは抵抗感があるため
- 7 短期入所（ショートステイ）などのように、短期であっても施設に入所することには抵抗感があるため
- 8 制度上利用できる上限について知らなかったため
- 9 ケアマネジャーがケアプランにうまく要望やニーズを反映してくれないため
- 10 その他（ ）

問39. あなたは、ケアマネジャーの対応について、どのように感じていますか。それぞれの項目についてお答えください。（(1)～(9)それぞれひとつだけ○）

	はい	いいえ	わからない
(1) ケアプランの内容やサービス利用料などを十分に説明してくれる	1	2	3
(2) 利用したいサービスについて説明してくれる	1	2	3
(3) サービス事業者を選べる	1	2	3
(4) 相談によく乗ってくれる	1	2	3
(5) 必要なときに連絡がとれる	1	2	3
(6) 本人や家族の希望を反映してくれる	1	2	3
(7) ケアプランの変更を希望したときに対応してくれる	1	2	3
(8) 介護保険サービス以外のサービスを十分に説明してくれる（おむつ給付や配食サービスなど）	1	2	3
(9) ケアマネジャーが月1回以上訪問してくれる	1	2	3

☆全員に伺います。

問40. あなたやあなたのご家族が、利用したいまたは利用し続けたい居宅サービスはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

1 昼間・訪問介護（ホームヘルプサービス）	11 短期入所療養介護（医療ショートステイ）
2 夜間・訪問介護（ホームヘルプサービス）	12 福祉用具貸与
3 訪問入浴介護	13 福祉用具購入費の支給
4 訪問看護	14 住宅改修費の支給
5 訪問リハビリテーション	15 夜間対応型訪問介護※1
6 居宅療養管理指導	16 小規模多機能型居宅介護
7 通所介護（デイサービス）	17 定期巡回・随時対応型訪問介護看護※2
8 通所リハビリテーション（デイケア）	18 複合型サービス※3
9 認知症対応型通所介護	19 わからない
10 短期入所生活介護（ショートステイ）	20 特になし

- ※1 夜間対応型訪問介護：夜間に定期的な巡回または随時の通報により、日常生活上の介護や緊急時の対応を提供できるサービス（本市では未実施）
- ※2 定期巡回・随時対応型訪問介護看護：日中・夜間を通じて、訪問介護と訪問看護を一体的に又はそれぞれが密接に連携しながら、定期巡回訪問と24時間随時の対応行う定額サービス（本市では未実施）
- ※3 複合型サービス：小規模多機能型居宅介護に必要な応じて訪問看護を提供できる定額サービス（本市では未実施）

ここからは、「主に介護している方」に伺います。

【8. 主な介護者について】

問41. 主に介護をしている方は、ご本人から見てどのようなご関係にありますか。

（ひとつだけ○）

1 配偶者 2 息子・娘 3 息子・娘の配偶者 4 孫 5 兄弟・姉妹	6 ホームヘルパー等の専門職 7 その他（ ） 8 介護している人はいない
---	--

↓

☆質問は以上です。お疲れ様でした。

☆問41で「1～5」（家族や親族）と回答した方に伺います。

問41-1. 主に介護している方の性別と、現在の満年齢をお答えください。

(1) 性別	1 男性 2 女性	(2) 年齢	満 歳
--------	--------------	--------	--------------------------

問42. あて名のご本人と主に介護をしている方は、同居されていますか。(ひとつだけ○)

- 1 同居している
- 2 別居しているが、15分以内で行き来できる範囲である
- 3 別居しており、行き来には15分以上かかる

問43. 主に介護をしている方は、要介護認定を受けていますか。(ひとつだけ○)

- 1 健康であり、要介護認定は受けていない
- 2 何らかの病気や障害などがあるが、要介護認定は受けていない
- 3 要支援1・2、要介護1
- 4 要介護2～5

問44. 主に介護をしている方だけでなく、あて名のご本人を介護している方全体のことについて伺います。介護をしている方が不在となることはありますか。(ひとつだけ○)

- 1 昼夜問わず、ほぼ誰かしら介護者がいる
- 2 日中、介護者が不在となることがある
- 3 夜間、介護者が不在となることがある
- 4 昼夜ともに、不在となることがある

問45. ご本人が介護サービスを利用されている方はお答えください。

介護サービスを利用しているときのご本人の様子はいかがですか。(ひとつだけ○)

- 1 満足している様子である
- 2 担当するスタッフにより態度が異なる
- 3 不機嫌である
- 4 何かを我慢している様子である
- 5 いつも無表情である
- 6 その他 ()

問46. ご本人が介護サービスを利用されている方はお答えください。

介護サービスを利用しているとき、あなた（主に介護している方）ご自身はどのように感じですか。(主なもの3つまで○)

- 1 本人がうれしそうにしており、満足である
- 2 サービス利用中は介護者自身もリフレッシュでき、ありがたい
- 3 本人よりも介護者の方が、サービス利用を増やしたいと感じるときがある
- 4 本人と介護者とで、サービス利用について意見が一致しないときがある
- 5 サービス利用後、本人が気分を害したり、具合が悪くなったりすることがあり、サービス内容やスタッフの対応等に不安がある
- 6 本人がサービス利用を嫌がることもあり、介護者としてつらいときがある
- 7 その他 ()

問47. ご本人が介護サービスを利用されている方はお答えください。

あなた（主に介護をしている方）から見て、介護保険サービスを利用するようになってから、次のような変化がありましたか。

（(1)～(4)について、それぞれもっとも近いものにひとつだけ○）

(1) 日常生活において、 ひとりでできること	1 多くなった 2 変わらない	3 少なくなった 4 わからない
(2) 日ごろの体調について	1 よくなった 2 変わらない	3 悪くなった 4 わからない
(3) やる気や生活のほりに ついて	1 出てきた 2 変わらない	3 なくなった 4 わからない
(4) こころの状態について	1 安定した 2 変わらない	3 不安定になった 4 わからない

問48. 介護をするうえで、困っていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

- | |
|--|
| 1 特にない |
| 2 経済的負担が大きい |
| 3 精神的負担が大きい |
| 4 肉体的負担が大きい（睡眠不足・腰痛等を含む） |
| 5 日中は介護者が不在のときが多い |
| 6 夜間の介護の負担が大きい |
| 7 介護サービスをもっと利用したいが、本人が嫌がる |
| 8 介護サービスをもっと利用したいが、家族や周囲が反対する |
| 9 介護サービスをもっと利用したいが、限度額がいっぱいである |
| 10 介護者の都合等に合わせて柔軟に使える介護サービスがない |
| 11 介護の方法がわからない |
| 12 介護のために仕事や家事、育児が思うようにできない |
| 13 介護のことが気になって、思うように外出できない |
| 14 介護者のための相談窓口が少ない |
| 15 介護のストレスから、イライラして本人に当たってしまうことがある |
| 16 その他（ ） |

問49. 介護をしているご家族に対する市の支援として、どのようなサービスが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | | |
|---|-------------------------------|---|
| 1 | 介護者同士の交流の場の提供 | |
| 2 | 介護のコツなどが学べる介護教室の開催 | |
| 3 | 介護に関する相談事業の充実 | |
| 4 | 冠婚葬祭・急病時に預けられるような緊急ショートステイの充実 | |
| 5 | 冠婚葬祭・急病時に在宅で面倒を見てくれるサービス | |
| 6 | 家族が休みたいときに利用できるショートステイの充実 | |
| 7 | 経済的支援の充実 | |
| 8 | その他（ | ） |
| 9 | 特にない | |

質問は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

木更津市高齢者日常生活ニーズ調査報告書

平成26年(2014年)3月

発行 木更津市福祉部高齢者福祉課

〒292-8501 千葉県木更津市潮見1丁目1番地

電話 0438-23-7111(代表) F A X 0438-23-7181

URL <http://www.city.kisarazu.lg.jp/>
